

FOR DISCUSSION

DRAFT

PURPOSES ONLY

資料6

新潟市まち・ひと・しごと創生に
係るアンケート調査
(速報版)

平成27年7月

新潟市 地域・魅力創造部
新潟暮らし奨励課

目次

1 調査結果報告書の概要	1
(1) 調査実施の概要	1
(2) 調査の目的	1
(3) 調査対象と抽出	1
(4) 配布数と回収数	1
(5) 調査の方法	1
(6) 調査の方法	1
2 調査結果	2
(1) 高校生年齢相当調査	2
ア 進路について	2
イ 結婚のしやすさについて	5
ウ 子育てのしやすさについて	7
エ 働きやすさについて	10
オ 住みやすさについて	13
(2) 大学生年齢相当調査	16
ア 進路について	16
イ 結婚のしやすさについて	20
ウ 子育てのしやすさについて	22
エ 働きやすさについて	25
オ 住みやすさについて	28
(3) 在住者・転入者調査	31
ア 転入について	31
イ 結婚のしやすさについて	35
ウ 子育てのしやすさについて	37
エ 働きやすさについて	41
オ 住みやすさについて	44
(4) 転出者調査	47
ア 転出について	47
イ 結婚のしやすさについて	50
ウ 子育てのしやすさについて	52
エ 働きやすさについて	56
オ 住みやすさについて	59

1 調査結果報告書の概要

(1) 調査実施の概要

国の「まち・ひと・しごと創生法」が制定されたことを受け、新潟市（以下、本市という。）における人口の現状と将来の展望を提示する「地方人口ビジョン」及び、地域の実情に応じた今後の5か年の施策の方向を提示する「地方版総合戦略」を策定する。

これらの策定にあたり、市民の結婚・出産・子育ての希望、地方移住に関する希望などを実現する観点を調査すべく、アンケート調査を実施した。

(2) 調査の目的

新潟市における今後の居住希望や生活環境等に関する意識・希望を調査し、「地方人口ビジョン」及び「地方版総合戦略」の策定の参考とする。

(3) 調査対象と抽出

調査対象	抽出方法
高校生 年齢相当	市内在住の高校生相当年齢の市民（15～18歳）を無作為抽出
大学生 年齢相当	市内在住の大学生・短期大学生・専門学校生相当年齢（18～22歳）の市民を無作為抽出
在住者・ 転入者	市内在住の市民（22～49歳）を無作為抽出
転出者	WEB調査会社のリサーチパネルから、新潟市に2年以上居住していた者を抽出。エリア対象として、首都圏（東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県）を中心とし、地方都市部（関西地域、中部地域等）に対しても抽出を行った。

(4) 配布数と回収数

調査対象	配布数（件）	回収数（件）	回収率
高校生 年齢相当	3,630	827	22.8%
大学生 年齢相当	3,690	529	14.3%
在住者・ 転入者	4,090	1,144	28.0%
転出者	-	296	-

(5) 調査の方法

高校生・大学生・一般（在住者）： 郵送配布・郵送回収
転出者： Web アンケート調査

(6) 調査の方法

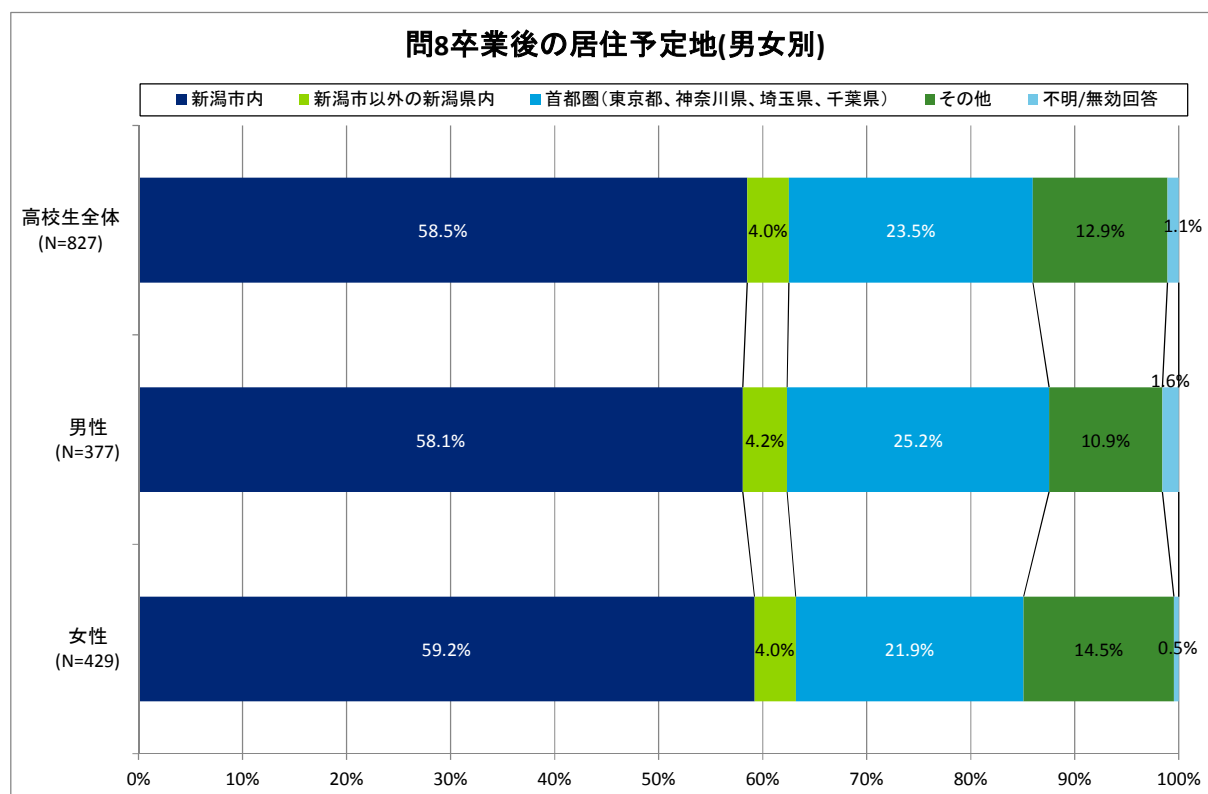
高校生・大学生・一般（在住者）： 平成27年6月22日（月）～7月6日（月）
転出者： 平成27年6月22日（月）～7月3日（金）

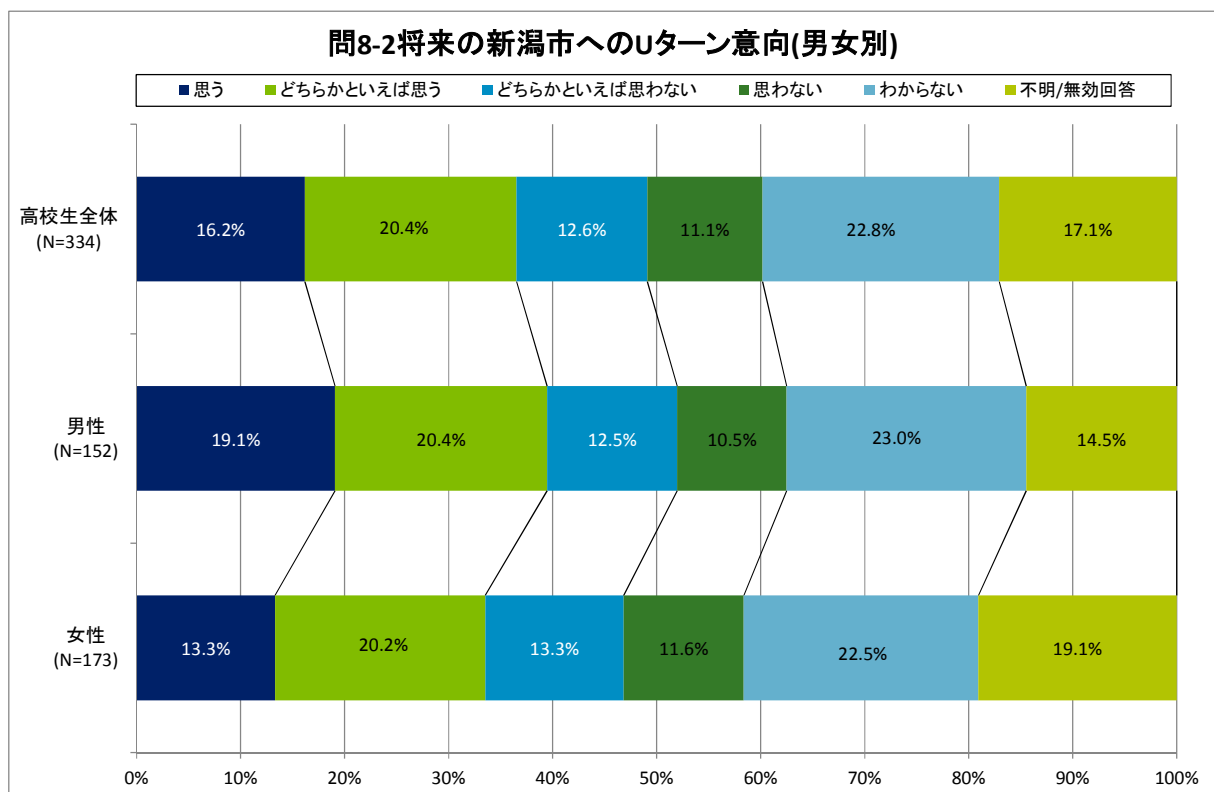
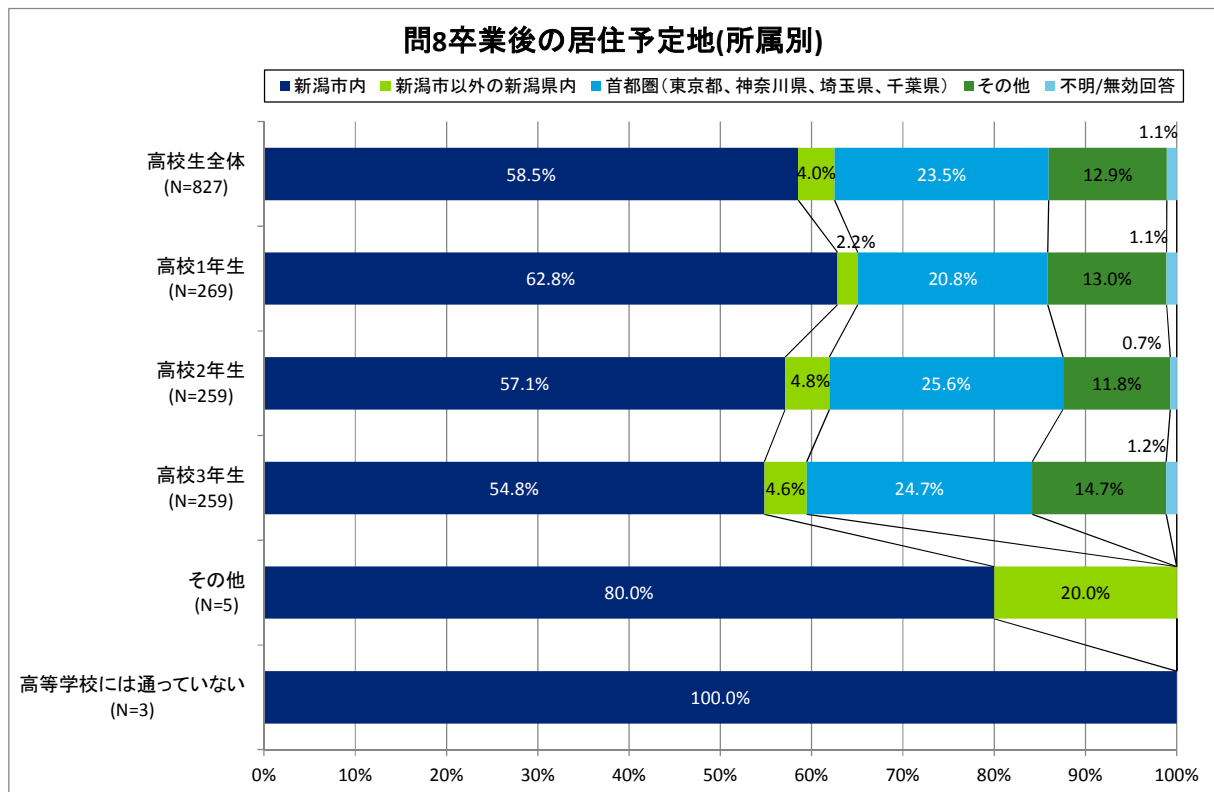
2 調査結果

(1) 高校生年齢相当調査

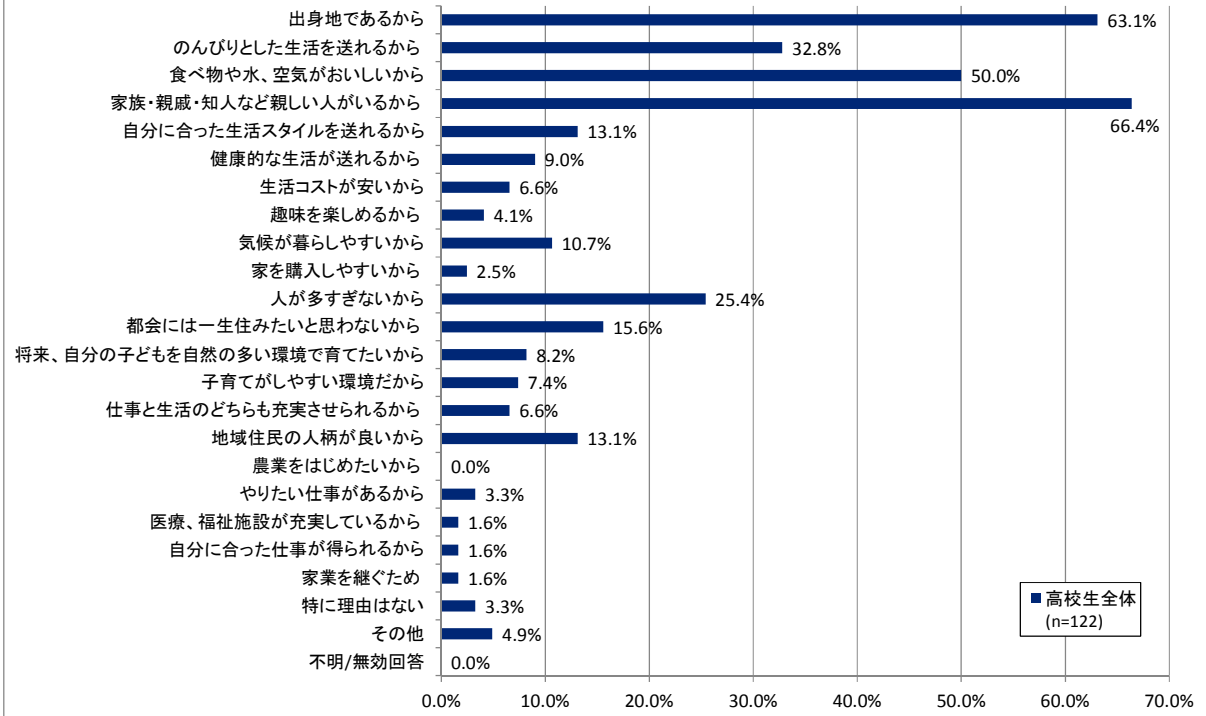
ア 進路について

- 卒業後の居住予定地（進学・就職に伴う転出予定先）をみると、全体の約 6 割（58.5%）は新潟市内に住民続ける予定であるが、2 割強（23.5%）は首都圏への転出を予定している。
- 男女別にみると、男性の方が首都圏への転出予定者が多い。（男性 25.2%、女性 21.9%）
- 首都圏への転出予定者の割合は、学年別にみると、高校 1 年生が 20.8%であるのに対し、高校 3 年生では 24.7%と、3.9 ポイント UP している。
- 将来の新潟市への U ターン意向では、「思う」「どちらかといえば思う」を合わせると 36.6%が U ターン意向を示している。
- 男女別にみると、男性の方が U ターン意向が強い。（男性 39.5%、女性 33.5%）
- 新潟市へいずれは戻りたい理由は「家族・親戚・知人など親しい人がいるから（66.4%）」、「出身地であるから（63.1%）」、「食べ物や水、空気がおいしいから（50.0%）」の順で高い。
- 新潟市に戻る時期については、「わからない（35.2%）」、「就職するとき（32.8%）」、「結婚するとき（9.8%）」の順で高い。男女別にみると、結婚のタイミングで戻りたいという意向は、特に女性で高い。（男性 5.0%に対し、女性 15.5%）

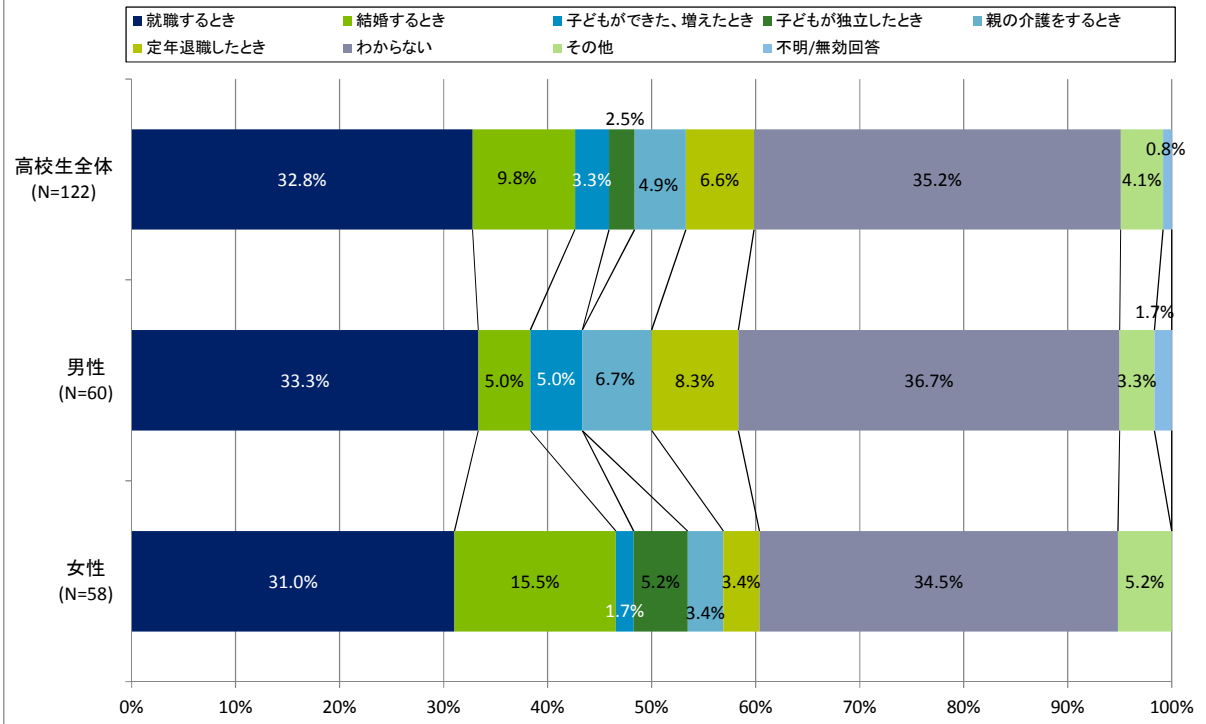




問8-3 新潟市へいずれは戻りたいという理由

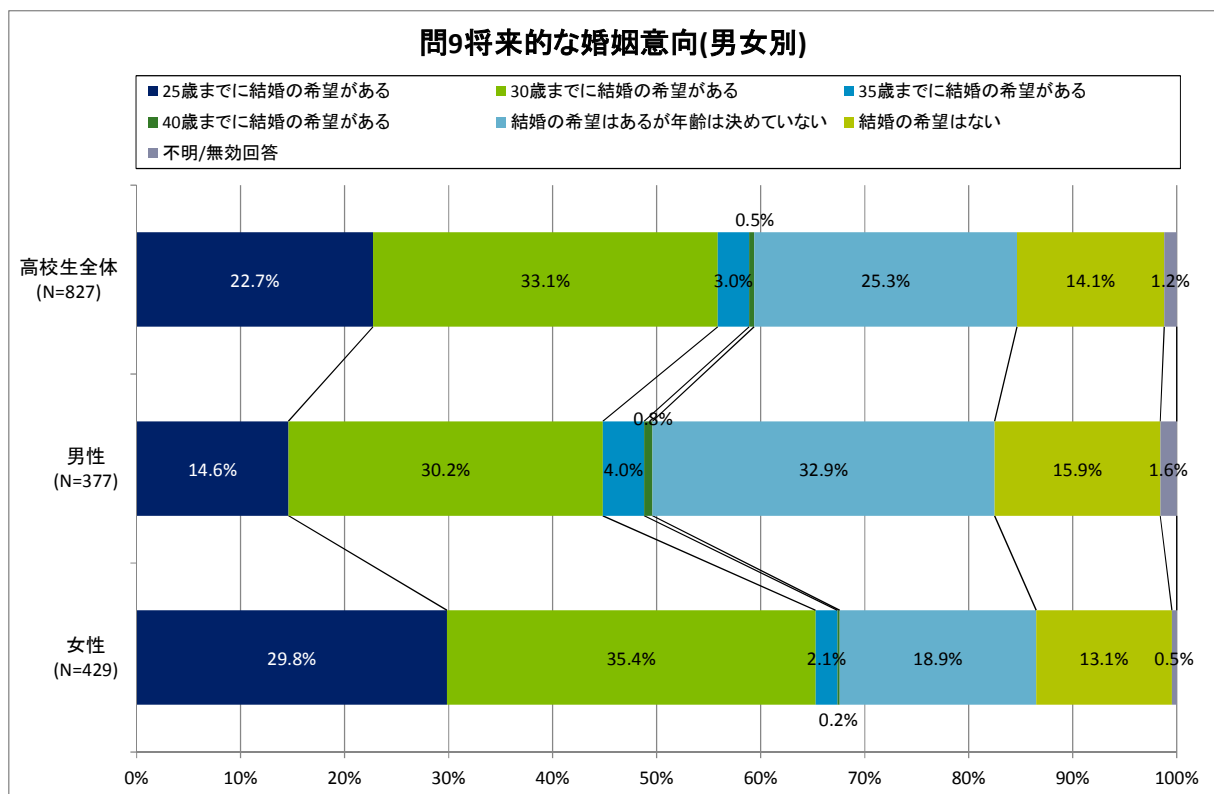


問8-4新潟市に戻る時期(男女別)

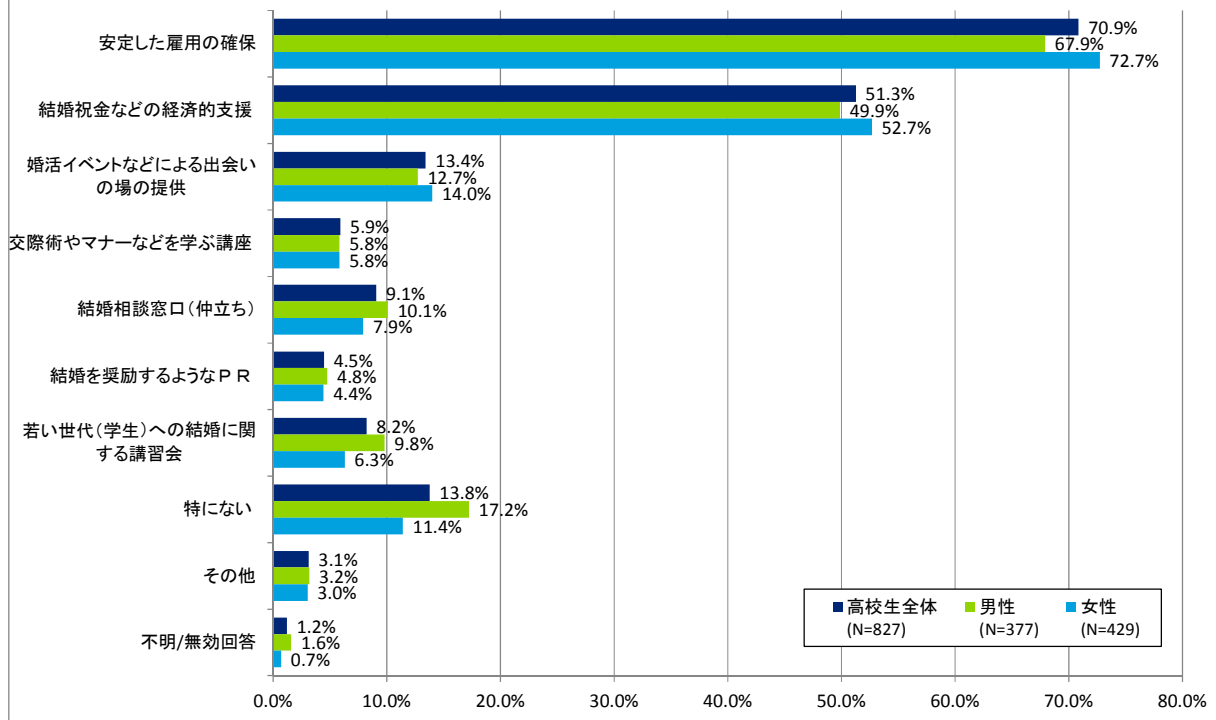


イ 結婚のしやすさについて

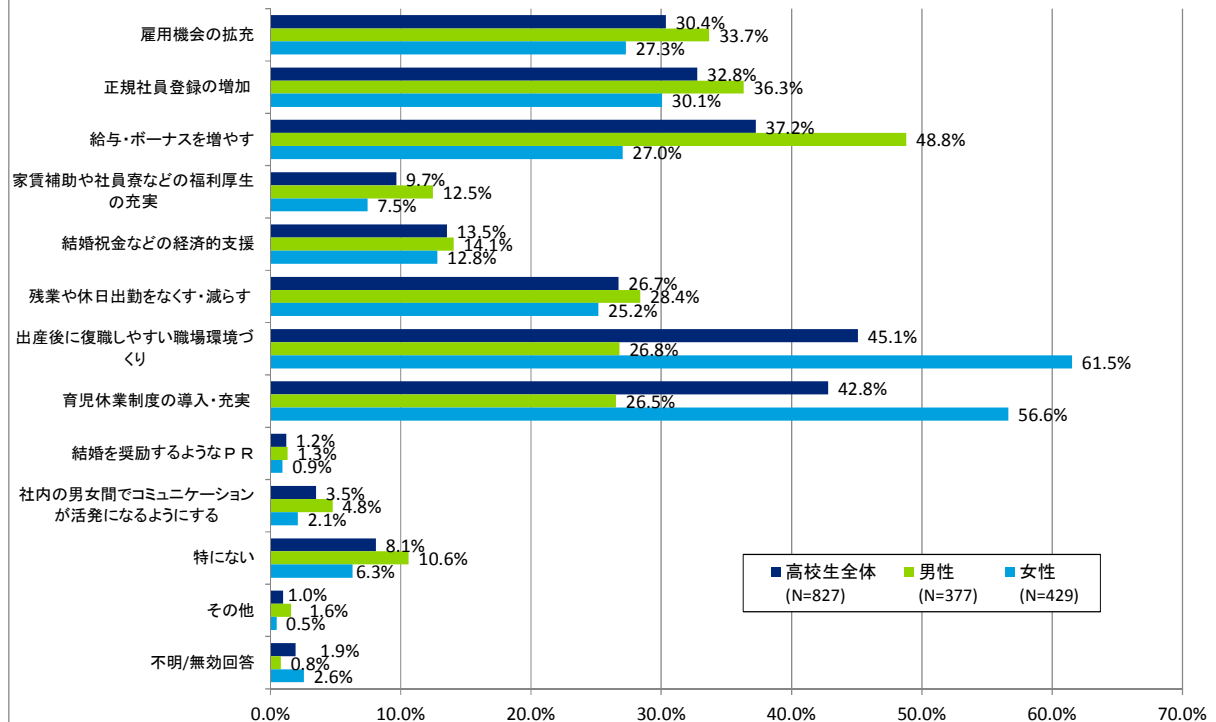
- 将来的な婚姻意向については、男性は「結婚の希望はあるが年齢は決めていない (32.9%)」「30歳までに結婚の希望がある (30.2%)」「結婚の希望はない (15.9%)」の順で高いのに対し、女性は「30歳までに結婚の希望がある (35.4%)」「25歳までに結婚の希望がある (29.8%)」「結婚の希望はあるが年齢は決めていない (18.9%)」の順で高い。
- 結婚支援のために行政が取り組むべきことについては、「安定した雇用の確保 (70.9%)」、「結婚祝い金などの経済的支援 (51.3%)」の項目が男女ともに高い。
- 一方で、企業が取り組むべきことについては、男性は「給与・ボーナスを増やす (48.8%)」、「正規社員登録の増加 (36.1%)」、「雇用機会の拡充 (33.7%)」の順に高く、女性は「出産後に復帰しやすい職場環境づくり (61.5%)」、「育児休業制度の導入・拡充 (56.6%)」、「正規社員登録の増加 (30.1%)」の順に高く、男女が企業に求める支援に差があることがわかる。



問10結婚支援のために行政が取り組むべきこと(男女別)

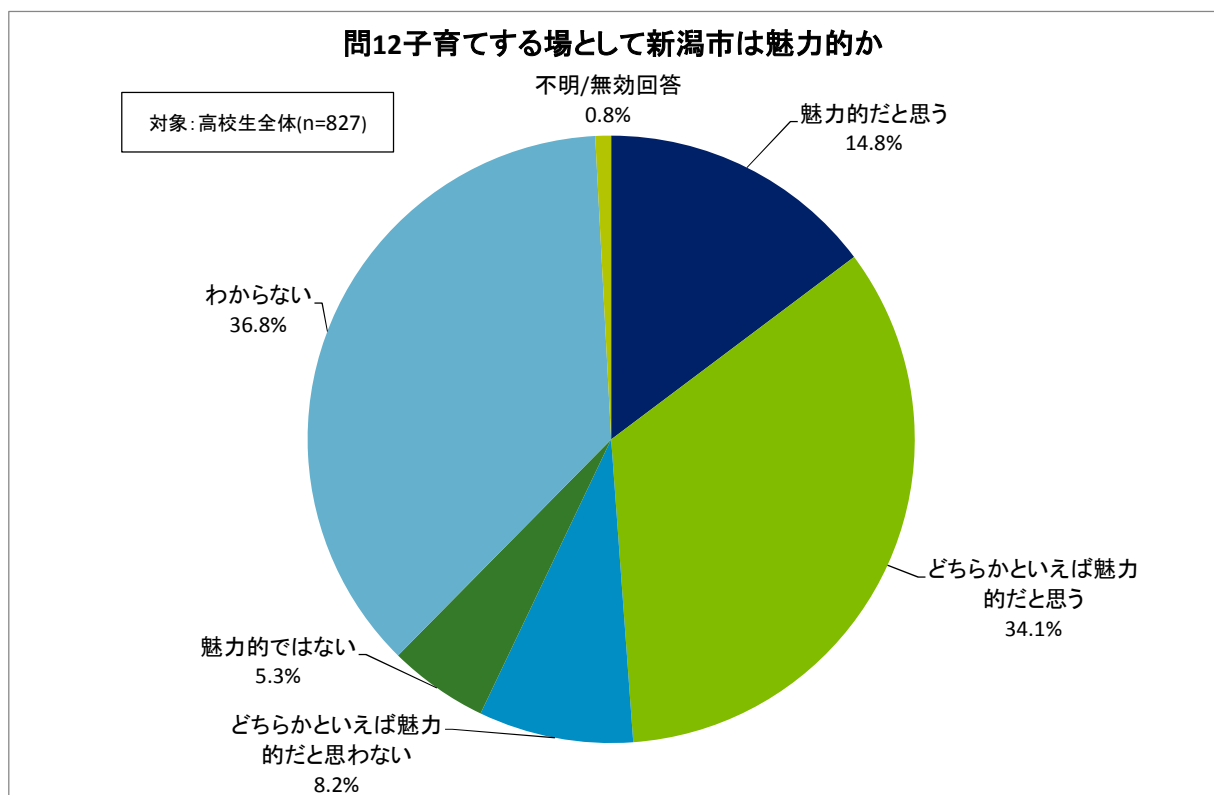


問11結婚支援のために企業が取り組むべきこと(男女別)

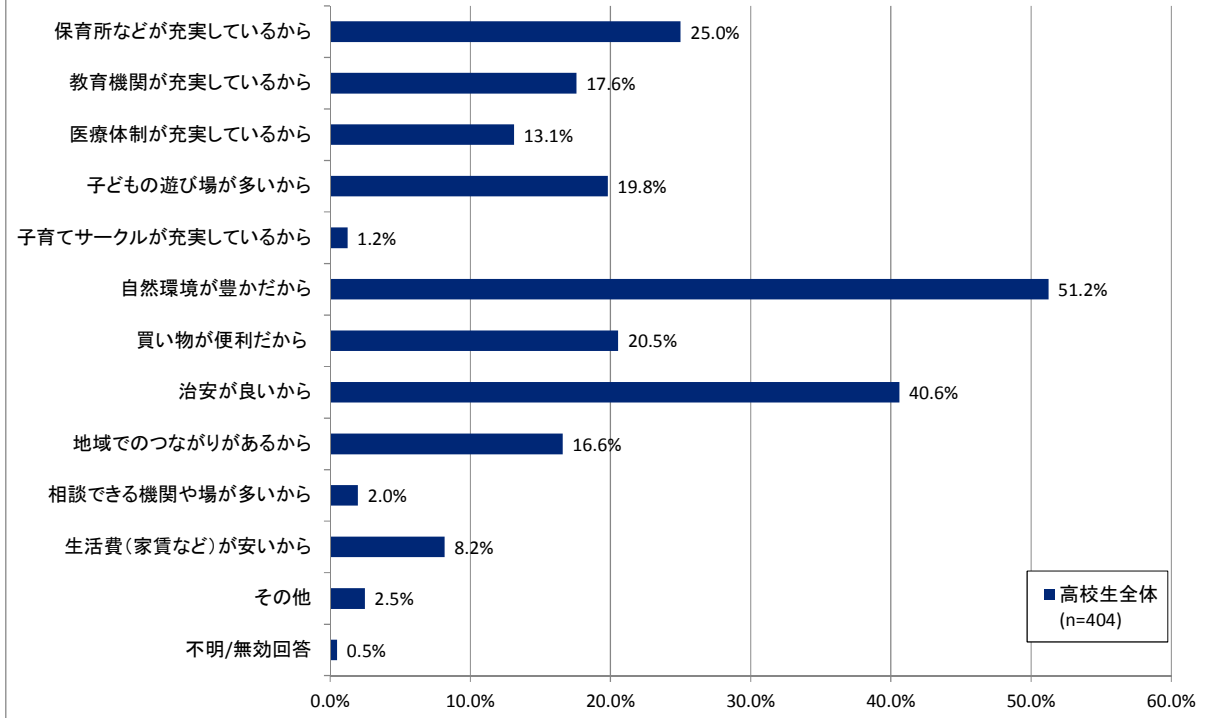


ウ 子育てのしやすさについて

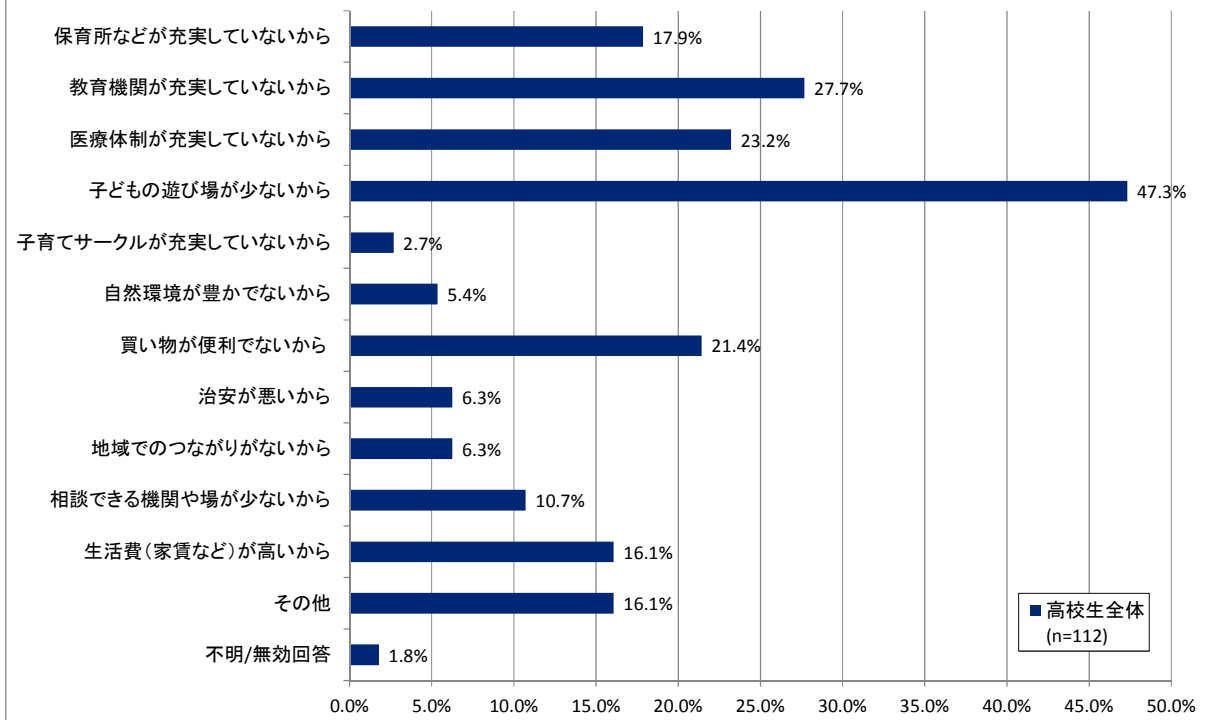
- ・ 子育てする場として新潟市は魅力的かについては、「魅力的だと思う (14.8%)」「どちらかといえば魅力的だと思う (34.1%)」をあわせると、約半数 (48.9%) が魅力的だと思っていることがわかる。
- ・ 魅力的だと思う理由として、「自然環境が豊かだから (51.2%)」、「治安が良いから (40.6%)」、「保育所などが充実しているから (25.0%)」が挙げられる。
- ・ 逆に、魅力的だと思わない理由として、「子どもの遊び場が少ないから (47.3%)」、「教育機関が充実していないから (27.7%)」、「医療機関が充実していないから (23.2%)」が挙げられる。
- ・ 将来自分たちが持ちたい子どもの数については、「2人 (61.4%)」、「3人 (17.8%)」、「1人 (8.8%)」の順となっている。
- ・ 子どもの数が増えるための支援・対策については、「安定した雇用の確保 (44.1%)」、「子育てに伴う経済的負担の軽減 (39.9%)」、「子育てしやすい職場環境の整備 (37.2%)」の順で高い。



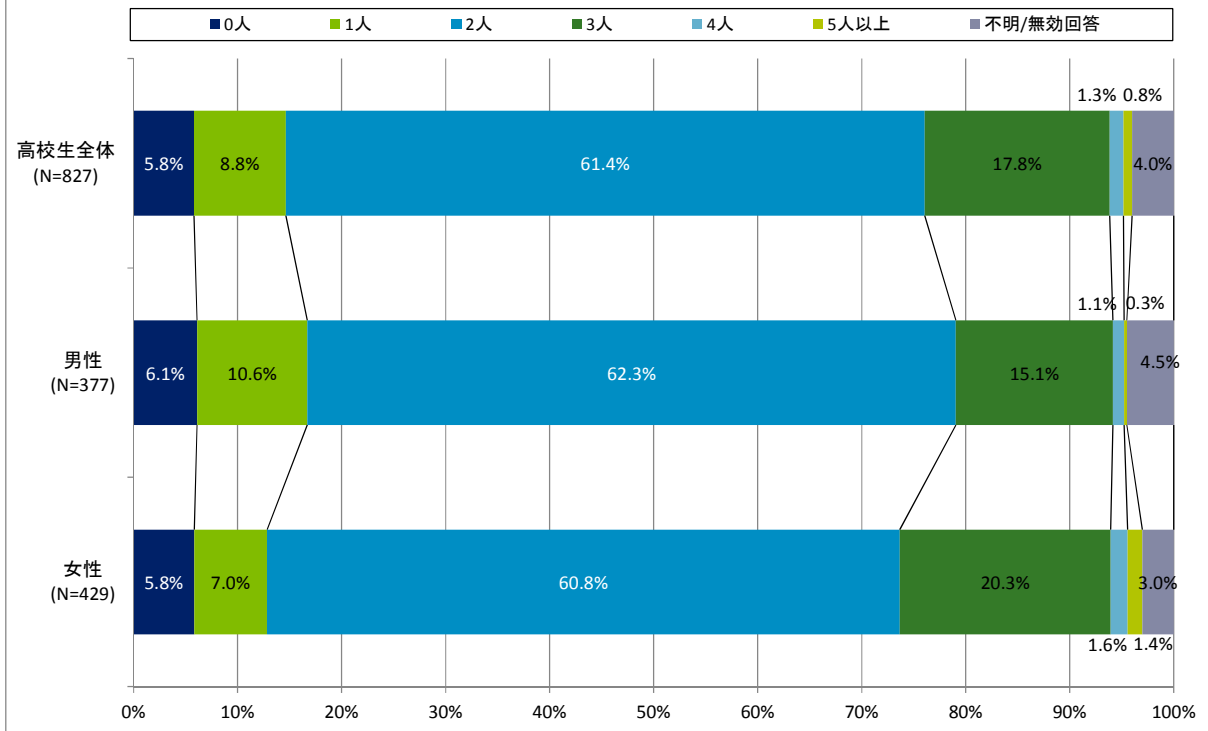
問12-1「新潟市が子育てする場として魅力的だと思う」理由



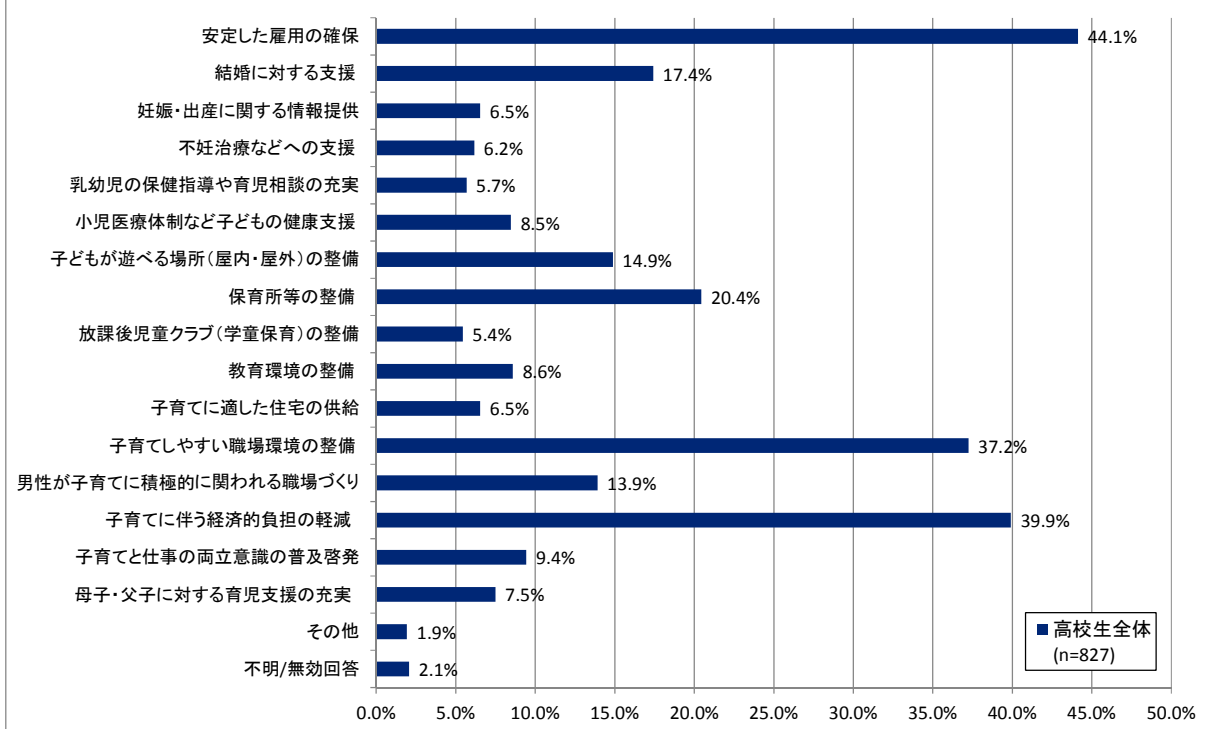
問12-2「新潟市が子育てする場として魅力的だと思わない」理由



問13 将来自分が持たいたい子どもの数(男女別)

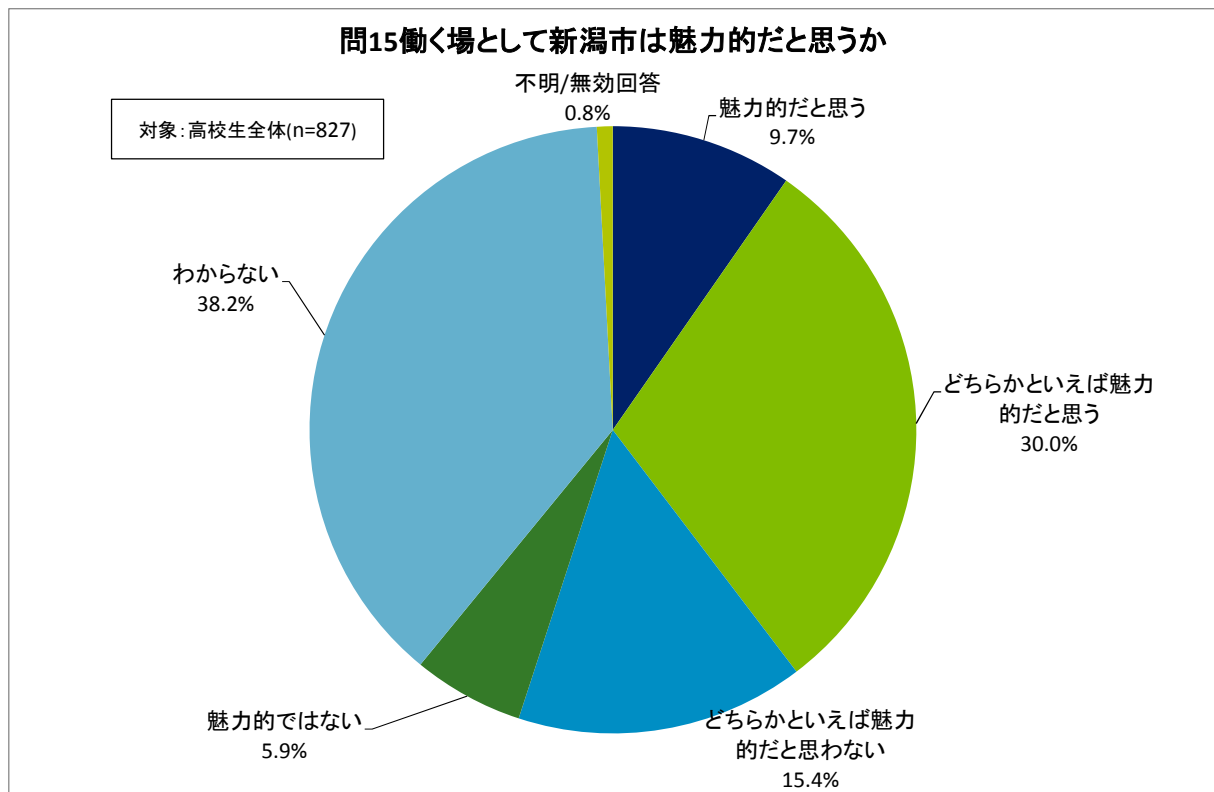


問14 子どもの数が増えるための支援・対策

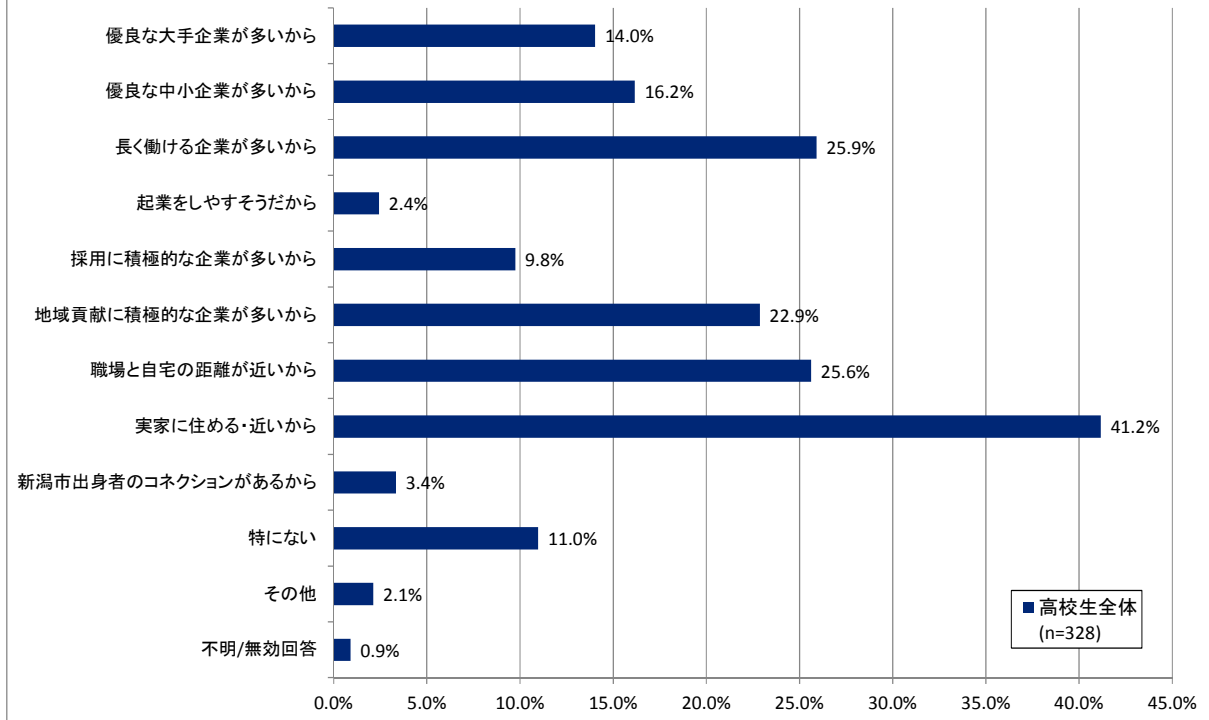


エ 働きやすさについて

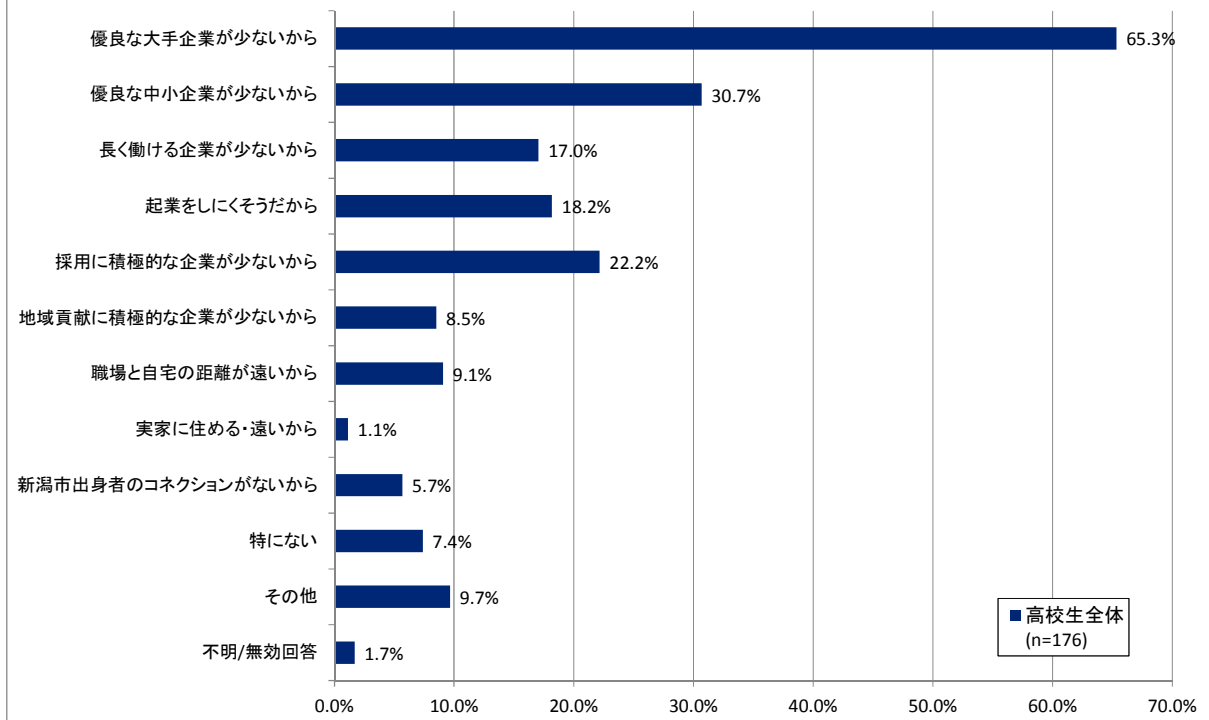
- ・ 働く場として新潟市は魅力的かについては、「魅力的だと思う (9.7%)」「どちらかといえば魅力的だと思う (30.0%)」をあわせると、約4割 (39.7%) が魅力的だと思っていることがわかる。
- ・ 魅力的だと思う理由として、「実家に住める・近いから (41.2%)」、「長く働ける企業が多いから (25.9%)」、「職場と自宅の距離が近いから (25.6)」が挙げられる。
- ・ 逆に、魅力的だと思わない理由として、「優良な大手企業が少ないから (65.3%)」、「優良な中小企業が少ないから (30.7%)」、「採用に積極的な企業が少ないから (22.2%)」が挙げられる。
- ・ 行政が取り組むべき事業としては、「企業誘致による雇用拡大 (46.6%)」、「ブラック企業などへの注意喚起 (33.5%)」、「育児・介護休業制度の啓発 (26.6%)」の順で高い。(ただし、「育児・介護休業制度の啓発」は男女差が大きく、男性 15.1% に対し、女性は 36.6%であった。)
- ・ 企業が取り組むべき事業としては、「正規社員登録の増加 (44.7%)」、「給与・ボーナスを増やす (43.5%)」、「雇用機会の拡充 (39.5%)」の順に高い。
- ・ 男女差大きい項目として、「出産後に復職しやすい職場環境づくり (男性:17.2%、女性:42.2%)」、「育児・介護休業制度の導入・拡充 (男性:17.2%、女性:38.7%)」は、男性に比べ、女性のポイントが高い。



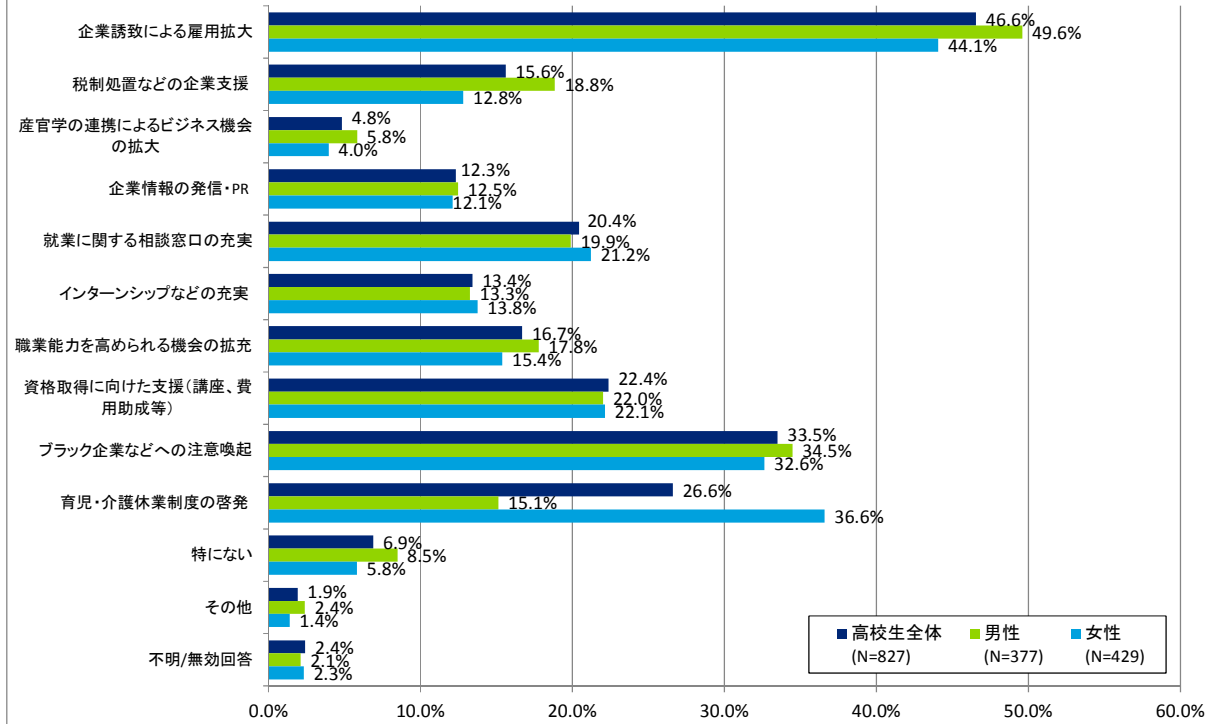
問15-1「新潟市が働く場として魅力的だと思う」理由



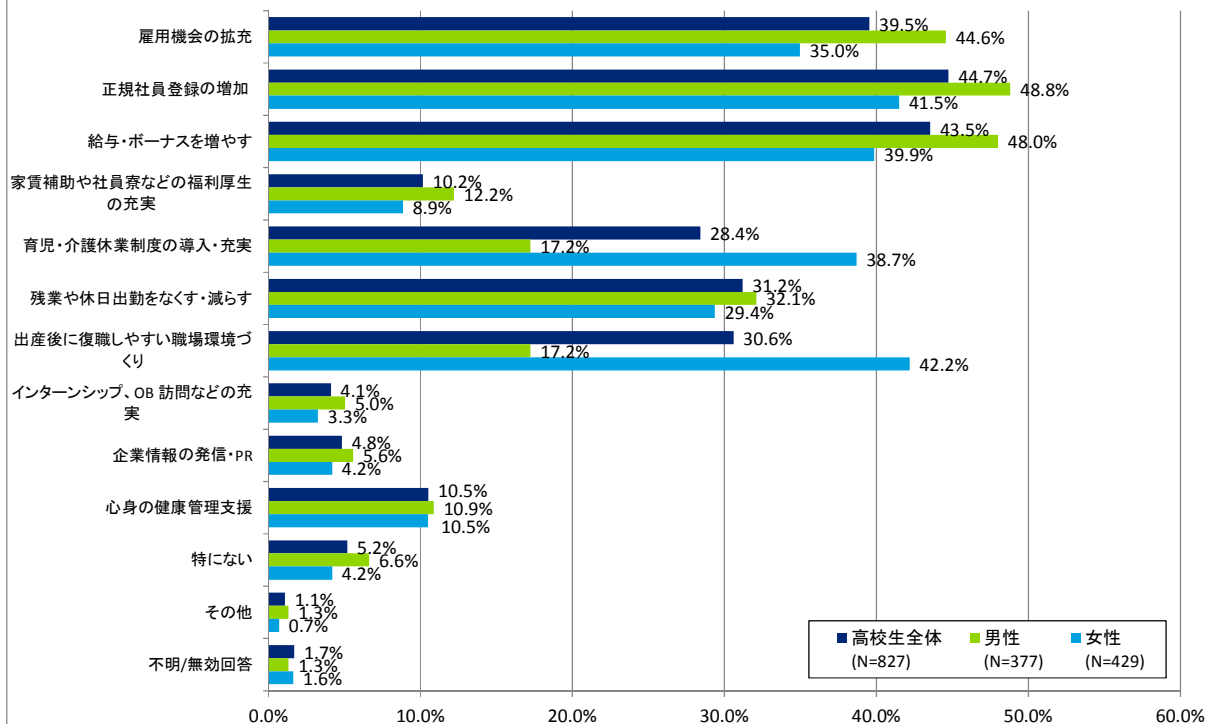
問15-2「新潟市が働く場として魅力的だと思わない」理由



問17働きやすさのために行政が取り組むべき事業(男女別)

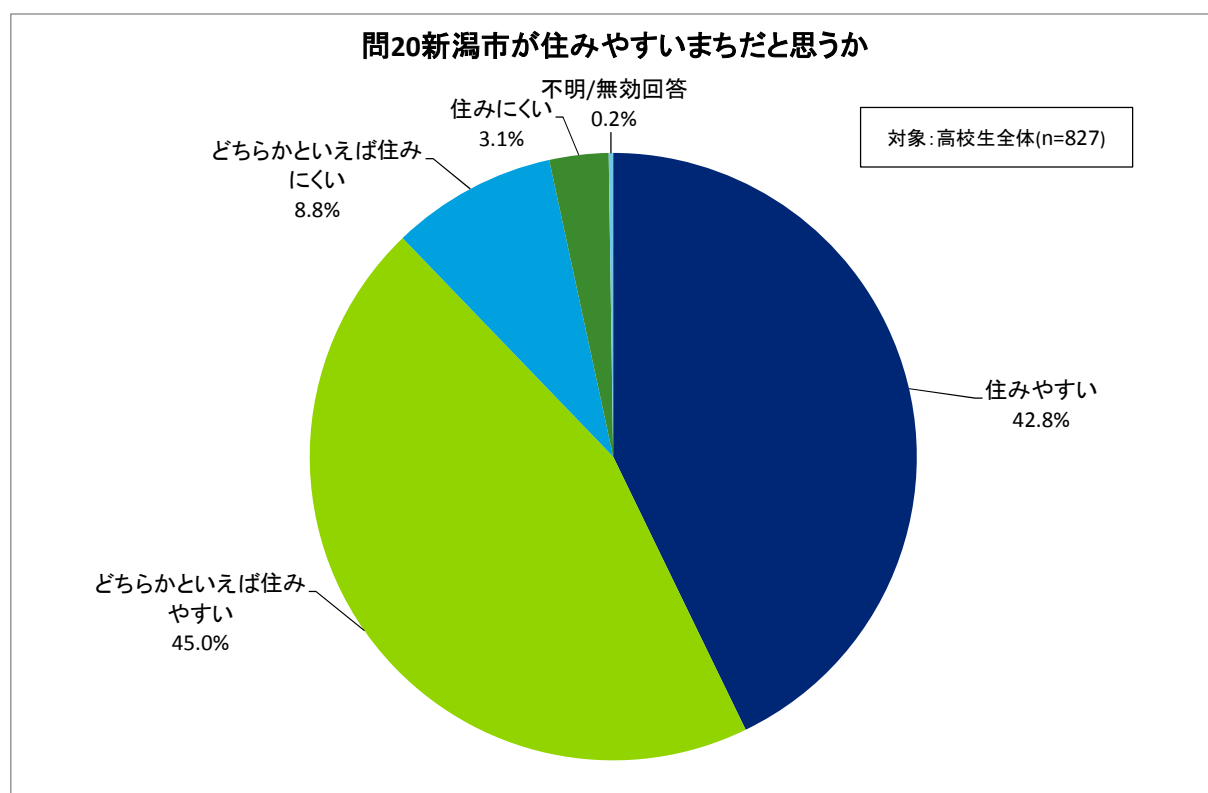


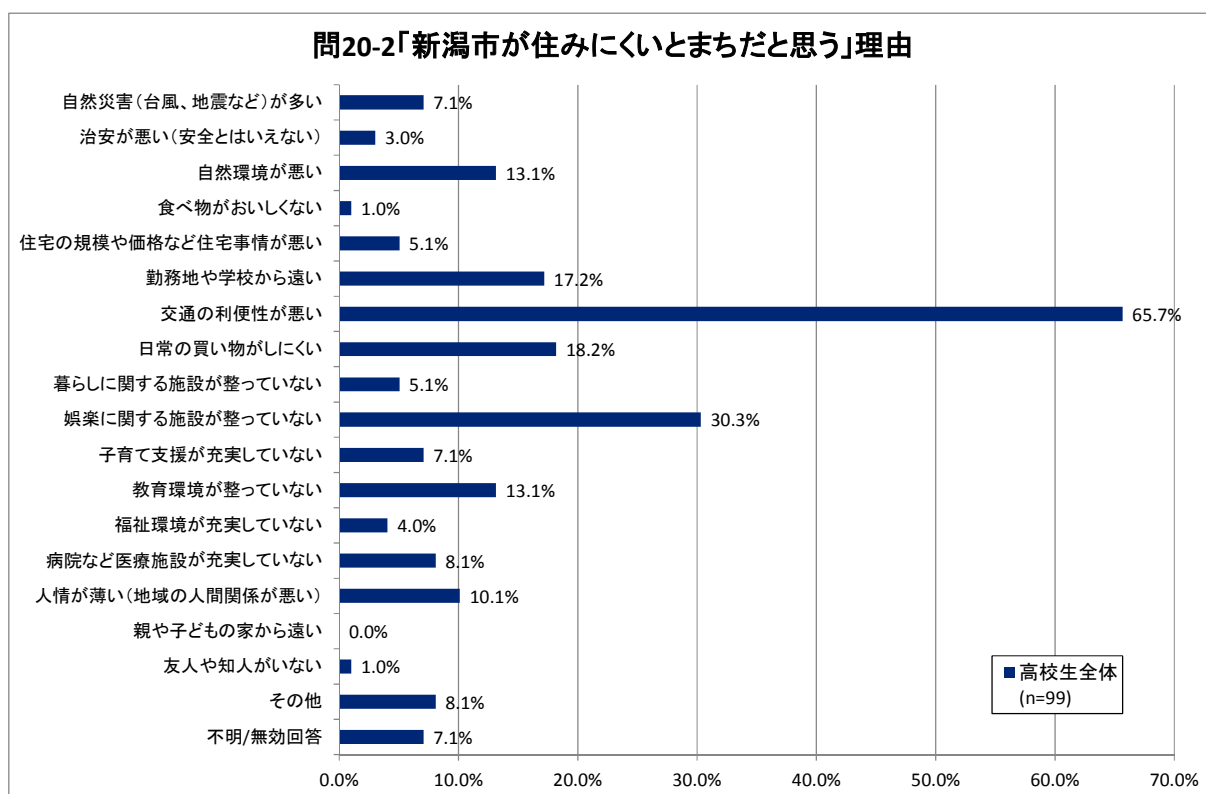
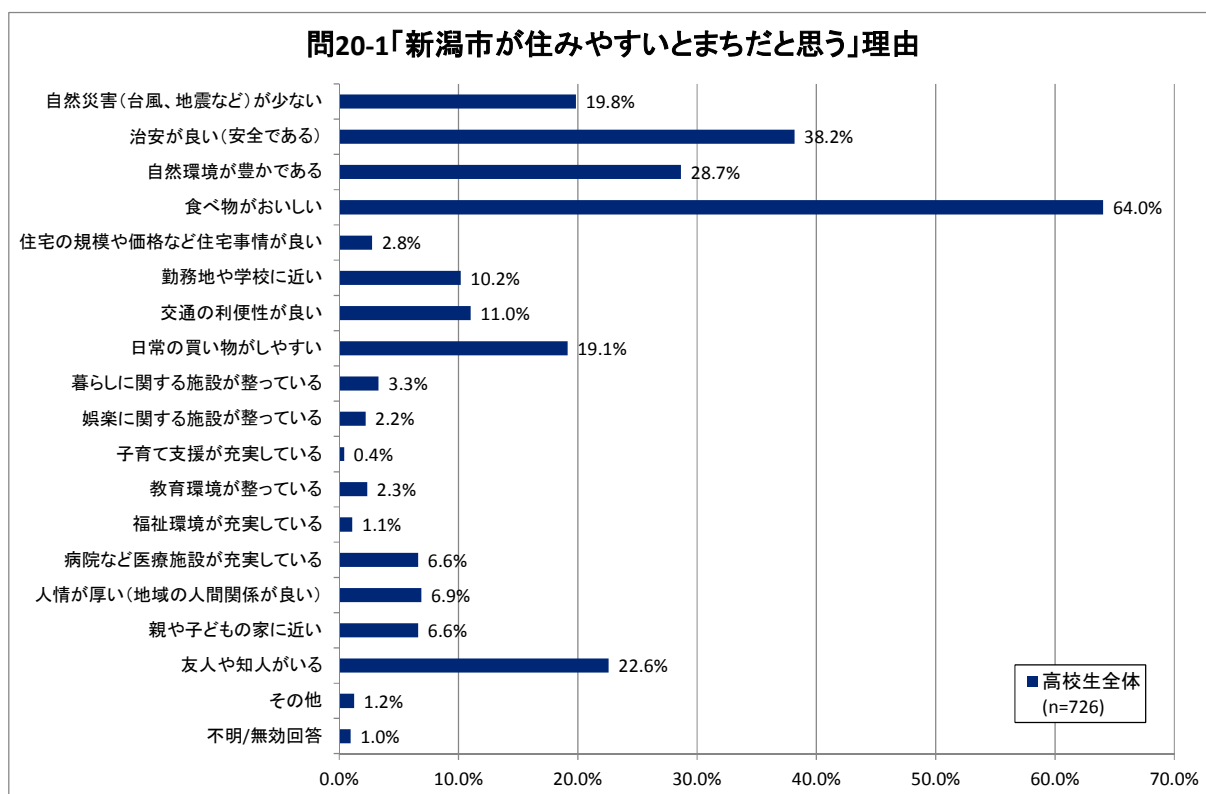
問18働きやすさのために企業が取り組むべき事業(男女別)

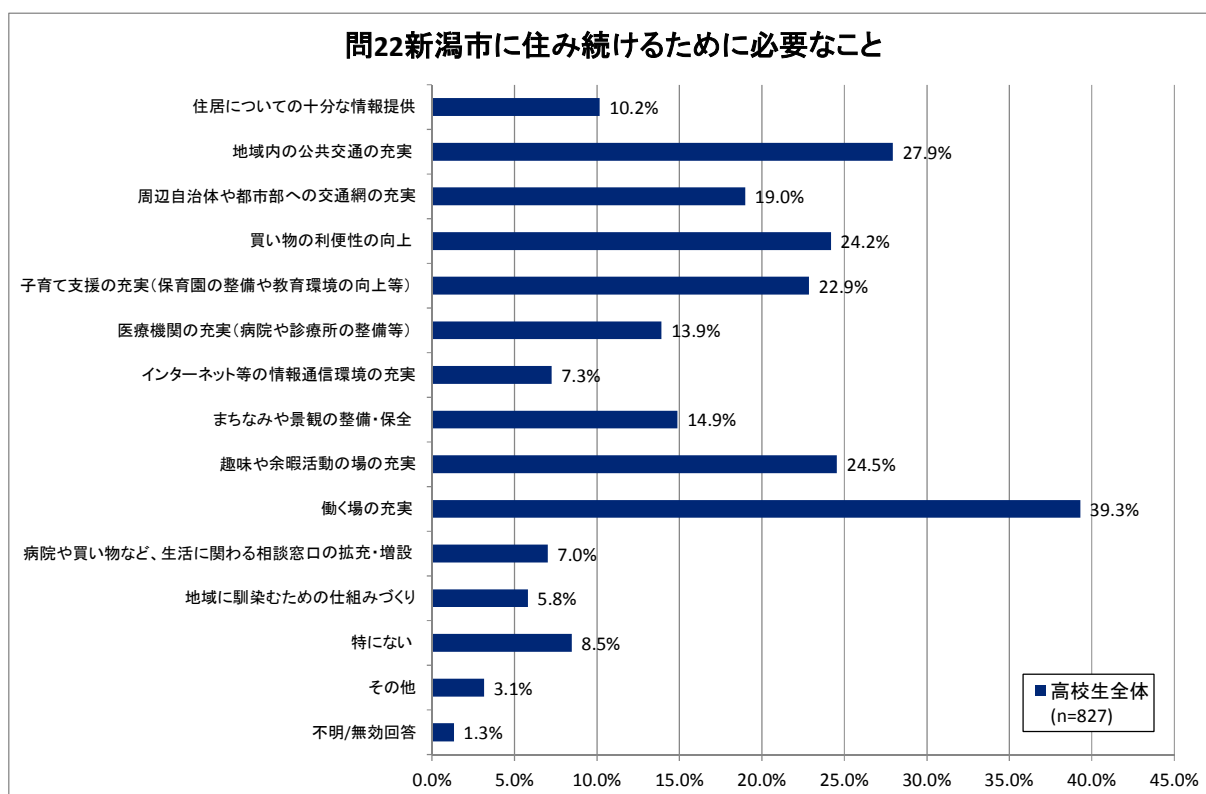
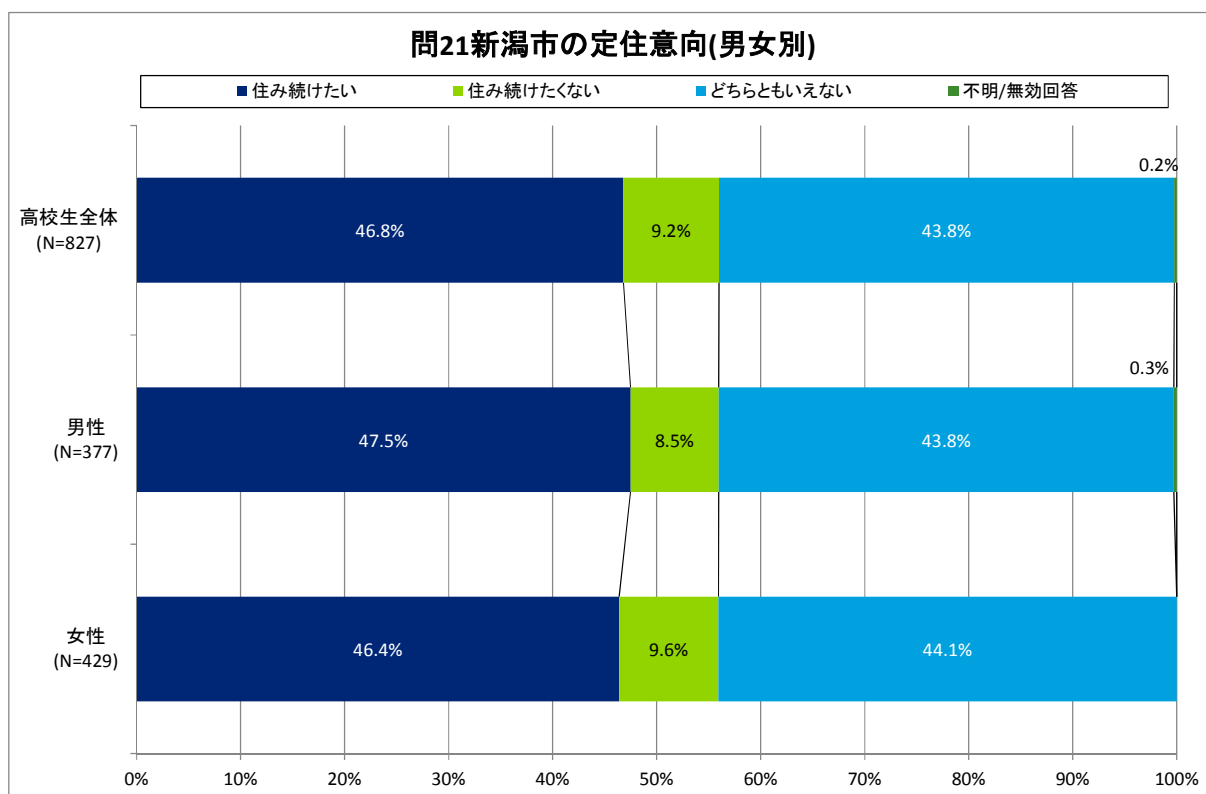


オ 住みやすさについて

- 新潟市が住みやすいまちだと思うかについては、「住みやすい (42.8%)」「どちらかといえば住みやすい (45.0%)」をあわせると、約9割 (87.8%) が住みやすいと思っていることがわかる。
- 住みやすい理由として、「食べ物がおいしい (60.4%)」、「治安が良い (38.2%)」、「自然環境が豊かである (28.7%)」が挙げられる。
- 逆に住みにくい理由として、「交通の利便性が悪い (65.7%)」、「娯楽に関する施設が整っていない (30.3%)」、「日常の買い物がしにくい (18.2%)」が挙げられる。
- 新潟市の定住意向については、「住み続けたい (46.8%)」、「住み続けたくない (9.2%)」、「どちらともいえない (43.8%)」となっている。
- 新潟市に住み続けるために必要なこととしては、「働く場の拡充 (39.3%)」、「地域内の公共交通の充実 (27.9%)」、「趣味や余暇活動の充実 (24.5%)」の順に高い。



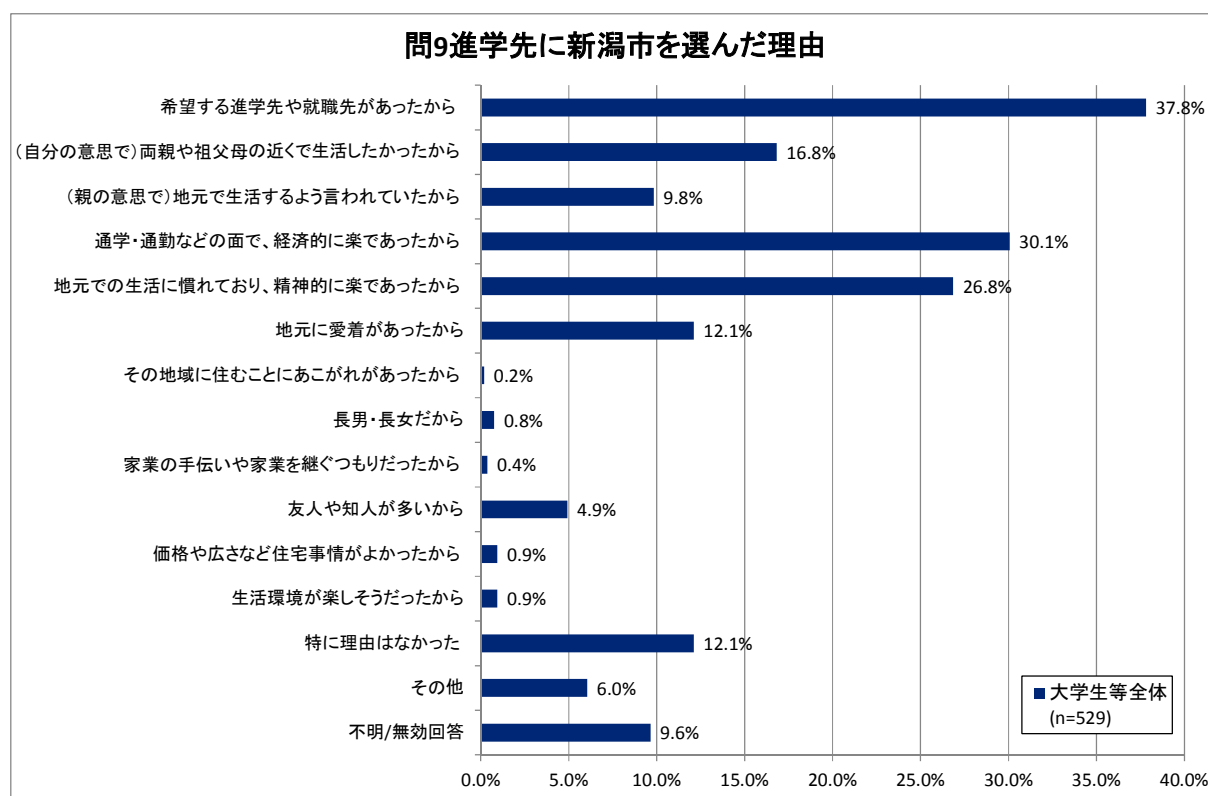


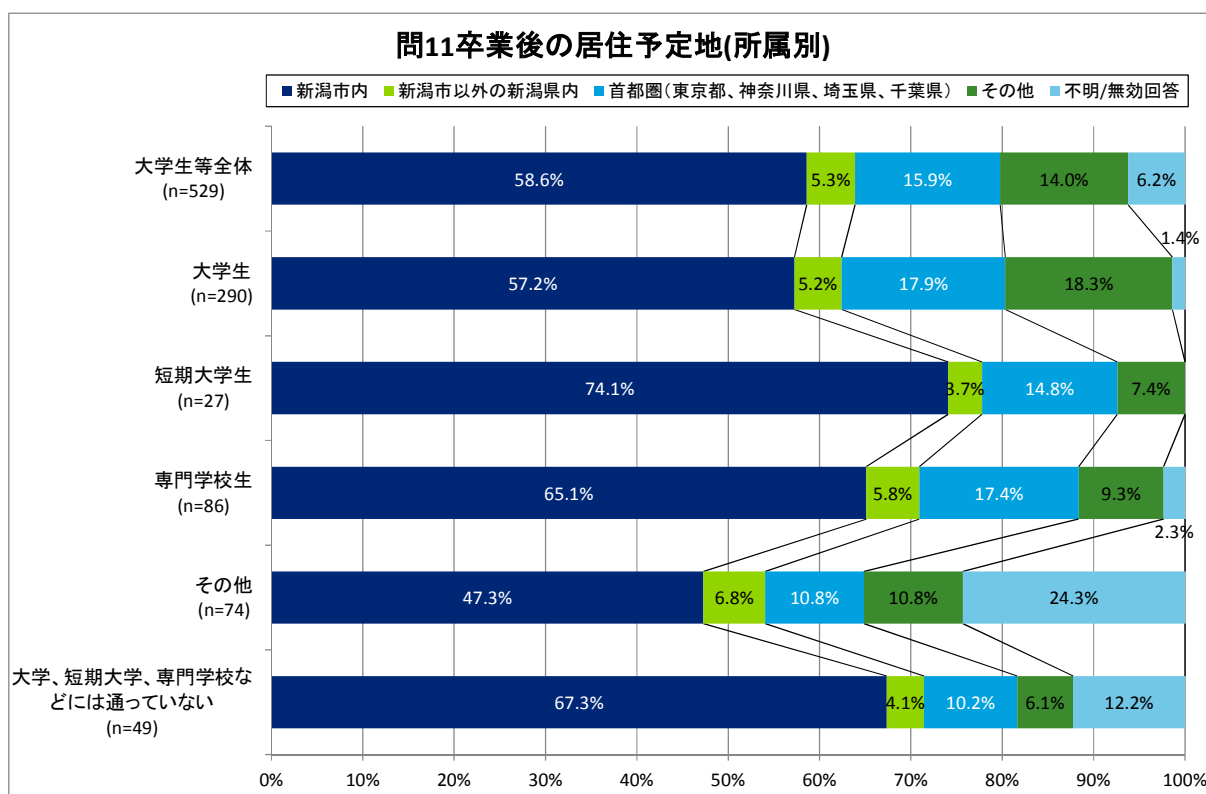
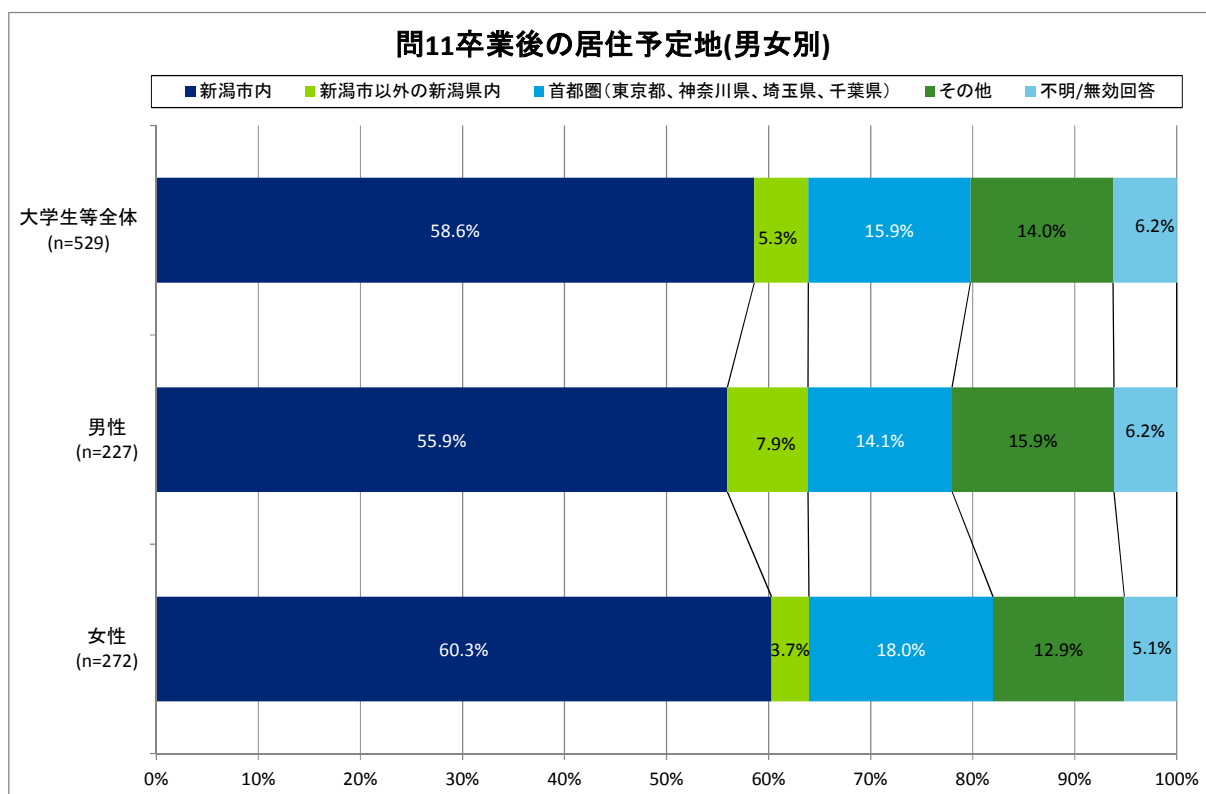


(2) 大学生年齢相当調査

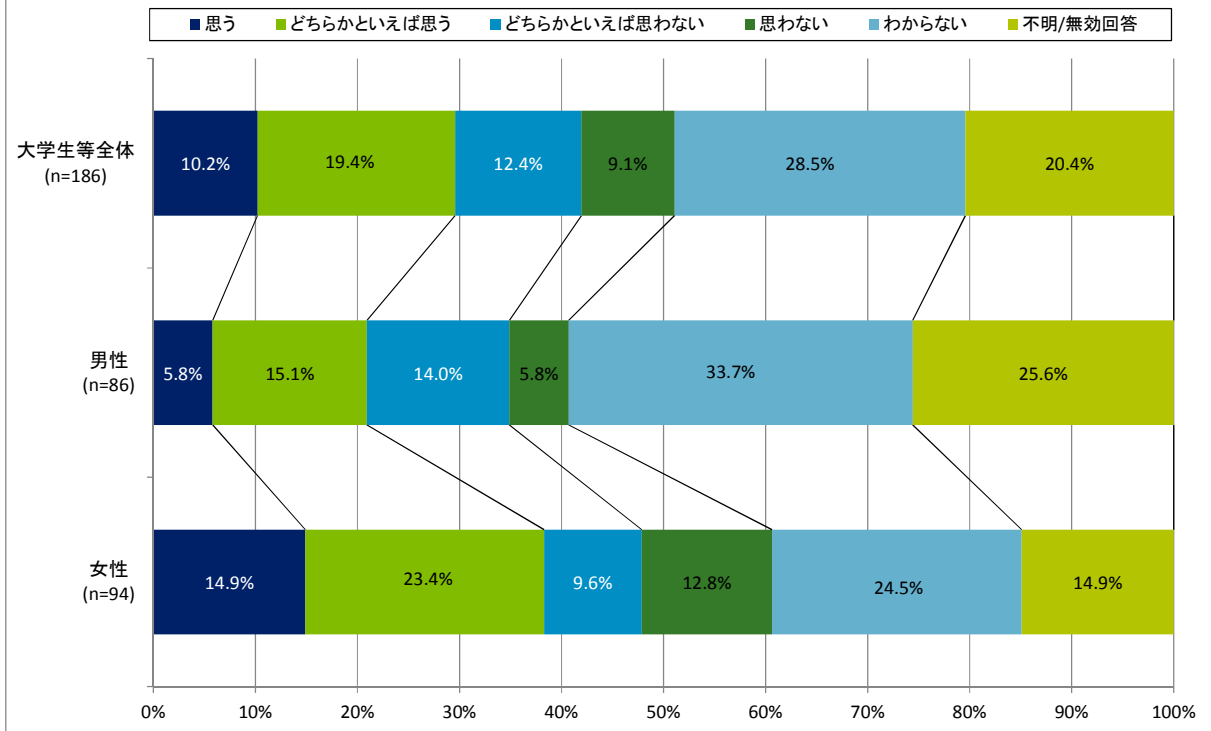
ア 進路について

- ・ 進学先に新潟市を選んだ理由は、「希望する進学先や就職先があったから (37.8%)」、「通学、通勤などの面で、経済的に楽であったから (30.1%)」、「地元での生活に慣れており、精神的に楽であったから (26.8%)」が挙げられる
- ・ 卒業後の居住予定地(就職等に伴う転出予定先)をみると、全体の約6割(58.6%)は新潟市内に住み続ける予定であるが、15.9%は首都圏への転出を予定している。
- ・ 男女別にみると、男性の首都圏への転出が14.1%であるのに対し、女性は18.0%となっている。
- ・ 所属別にみると、新潟市内に住み続ける予定の人の割合は、大学生(57.2%)より、短期大学生(74.1%)や専門学校生(65.1%)の方が高い。
- ・ 将来の新潟市へのUターン意向では、「思う」「どちらかといえば思う」を合わせると29.6%がUターン意向を示している。
- ・ 男女別にみると、女性の方がUターン意向が強い。(男性20.9%、女性38.3%)
- ・ 新潟市へいずれは戻りたい理由は、「出身地であるから(54.5%)」、「家族・親戚・知人など親しい人がいるから(54.5%)」、「食べ物や水、空気がおいしいから(41.8%)」の順で高い。
- ・ 新潟市に戻る時期については、「わからない(50.9%)」が半数以上を占めるが、次いで「結婚するとき(18.2%)」「定年退職したとき(7.3%)」の順で高い。

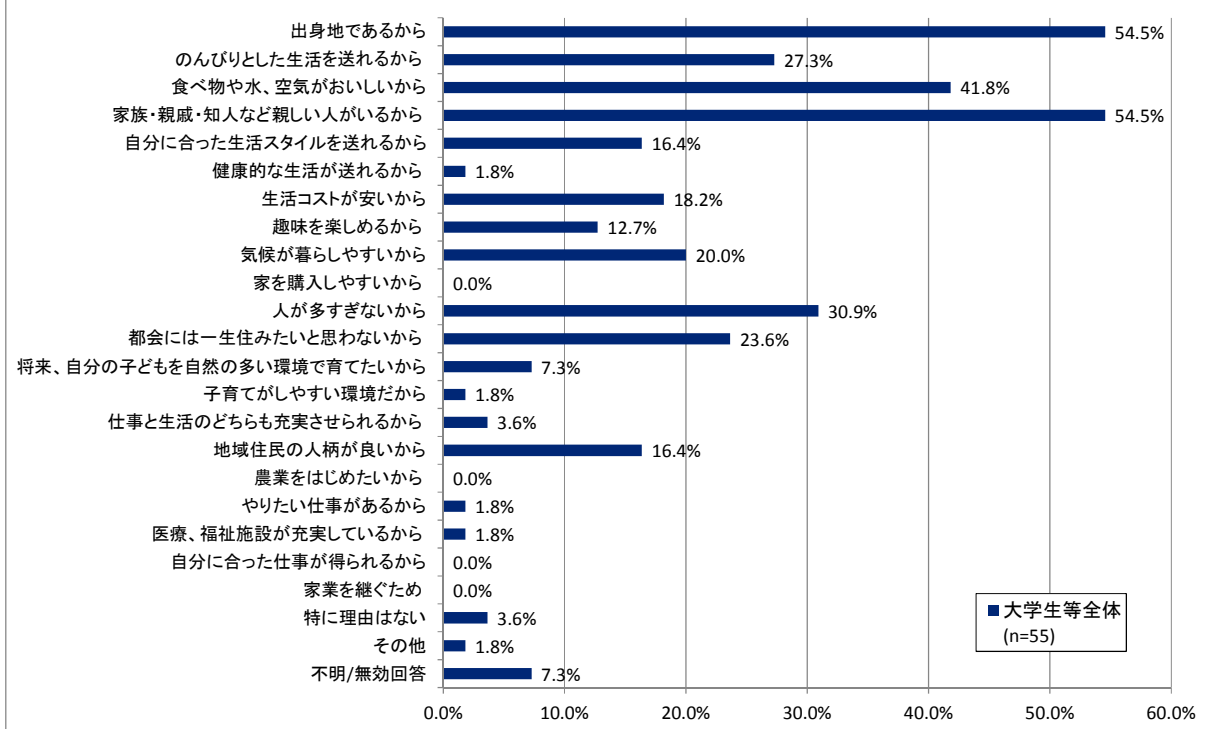




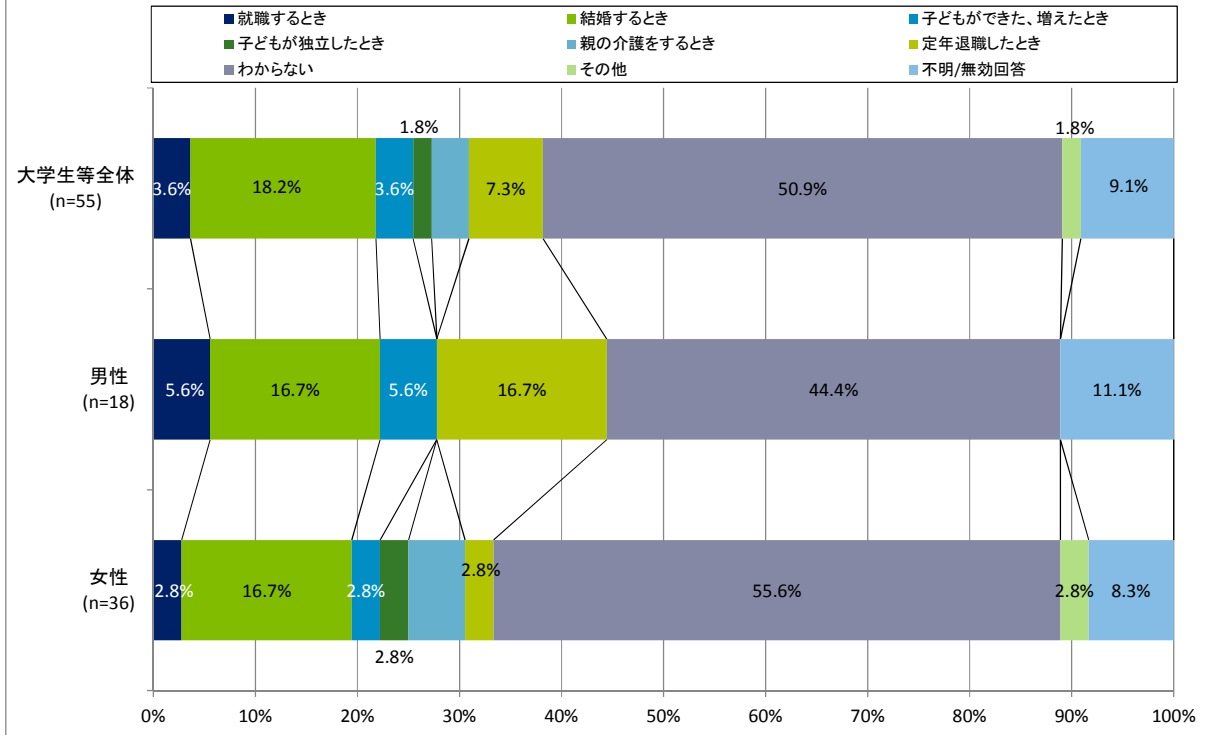
問11-2 将来の新潟市へのUターン意向(男女別)



問11-3 新潟市へいずれは戻りたいという理由

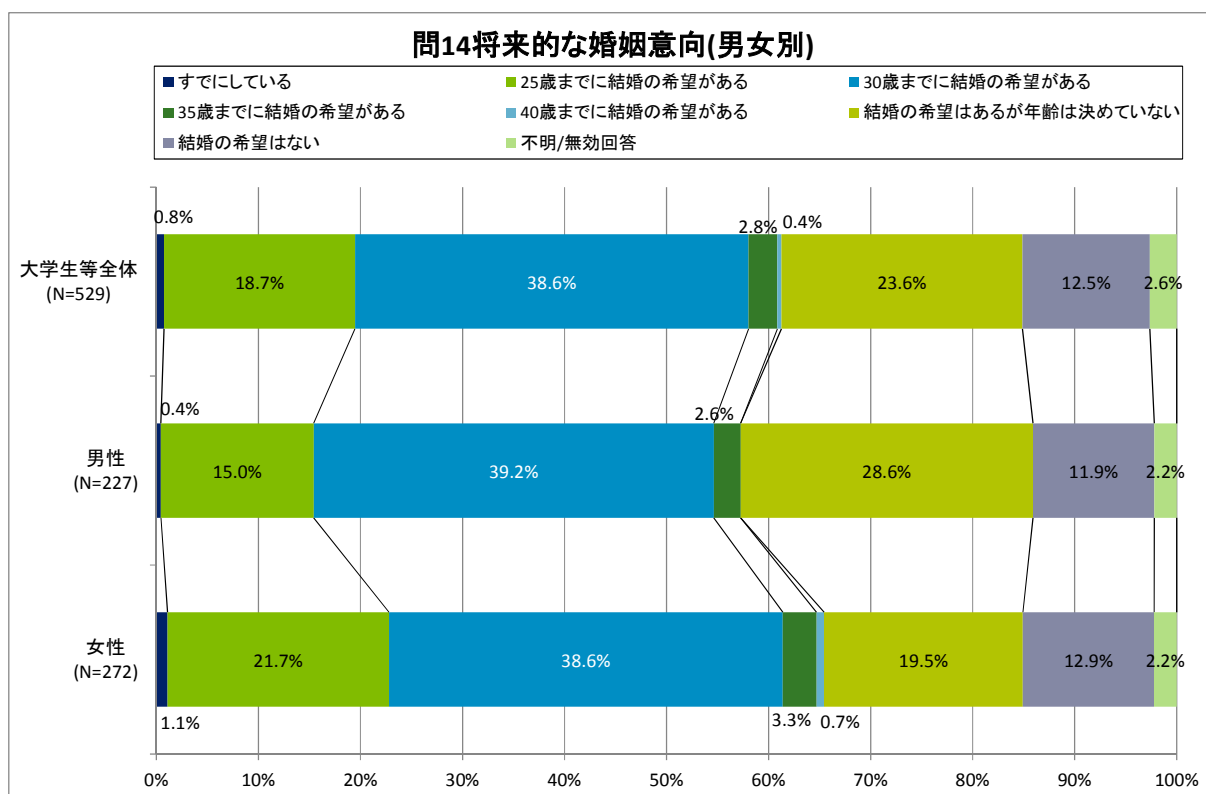


問11-4新潟市に戻る時期(男女別)

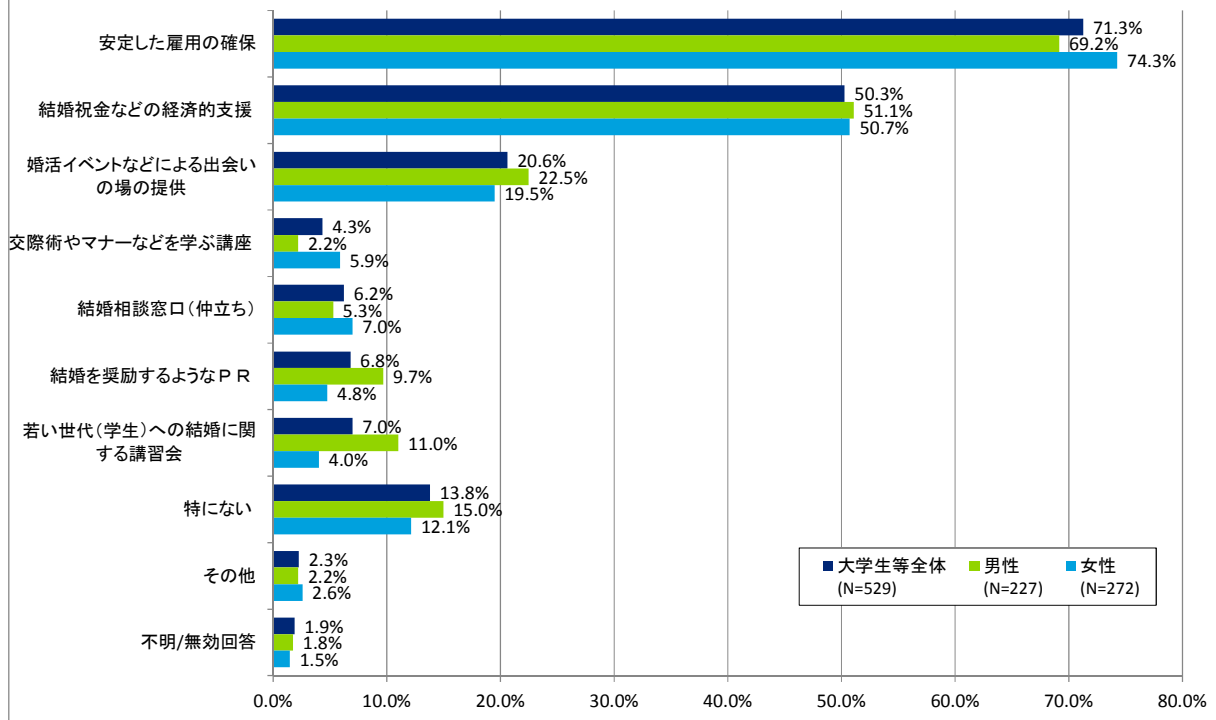


イ 結婚のしやすさについて

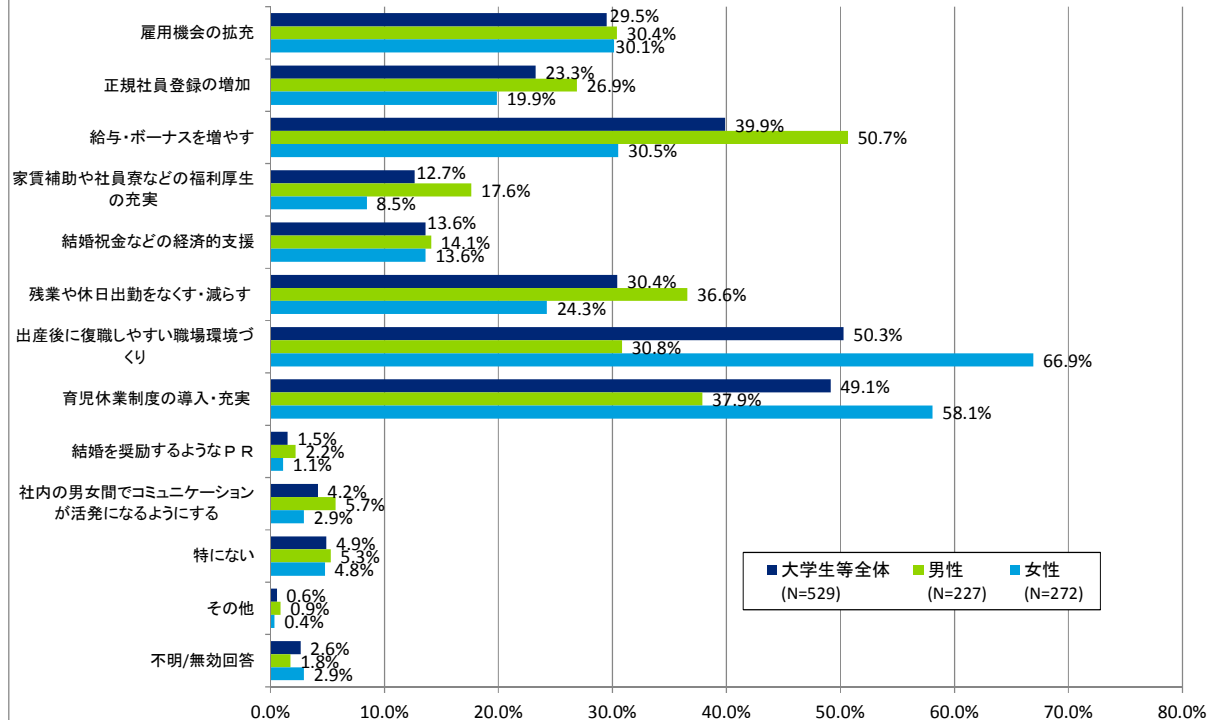
- ・ 将来的な婚姻意向については、男性は「30歳までに結婚の希望がある（39.2%）」、「結婚の希望はあるが年齢は決めていない（28.6%）」、「25歳までに結婚の希望がある（15.0%）」の順で高いのに対し、女性は「30歳までに結婚の希望がある（38.6%）」、「25歳までに結婚の希望がある（21.7%）」、「結婚の希望はあるが年齢は決めていない（19.5%）」の順で高い。
- ・ 結婚支援のために行政が取り組むべきことについては、「安定した雇用の確保（71.3%）」、「結婚祝い金などの経済的支援（50.3%）」の項目が男女ともに高い。
- ・ 一方で、企業が取り組むべきことについては、男性は「給与・ボーナスを増やす（50.7%）」、「育児休業制度の導入・拡充（37.9%）」、「残業や休日出勤をなくす・減らす（36.6%）」の順に高く、女性は「出産後に復帰しやすい職場環境づくり（66.9%）」、「育児休業制度の導入・拡充（58.1%）」、「給与・ボーナスを増やす（30.5%）」の順に高い。



問15結婚支援のために行政が取り組むべきこと(男女別)

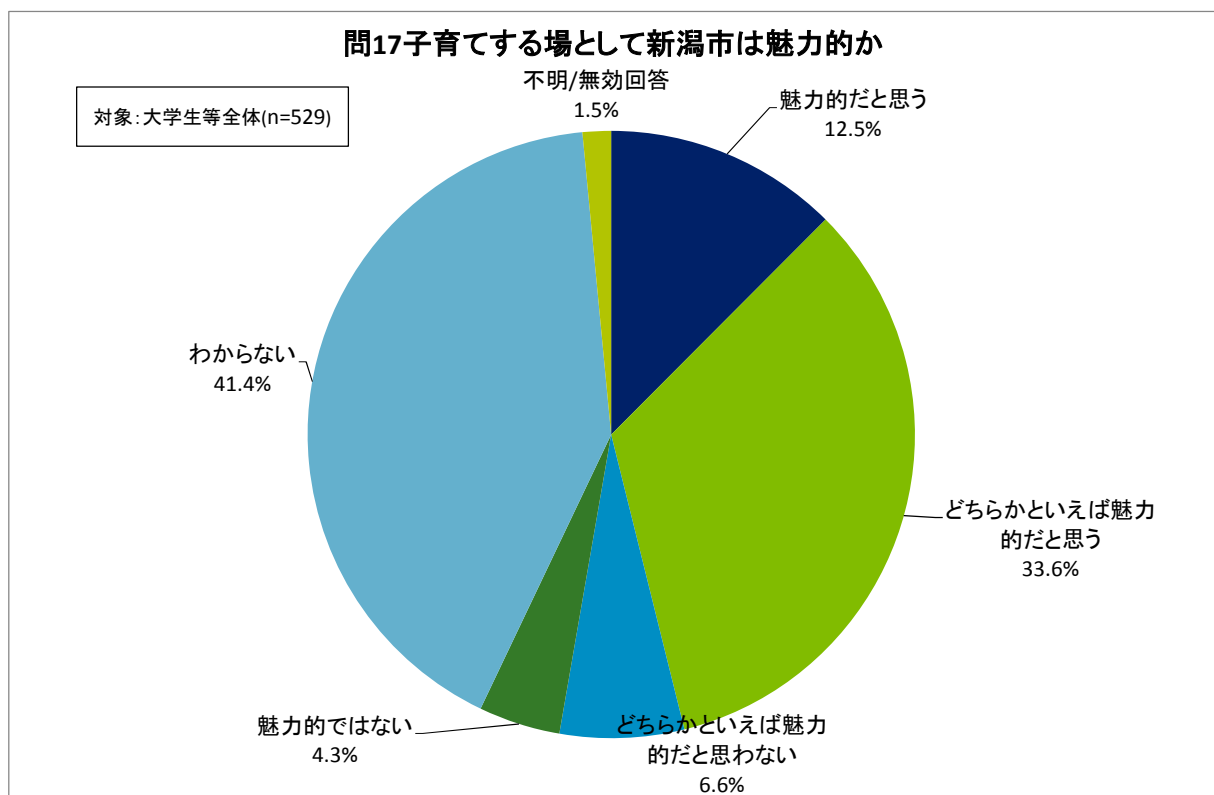


問16結婚支援のために企業が取り組むべきこと(男女別)

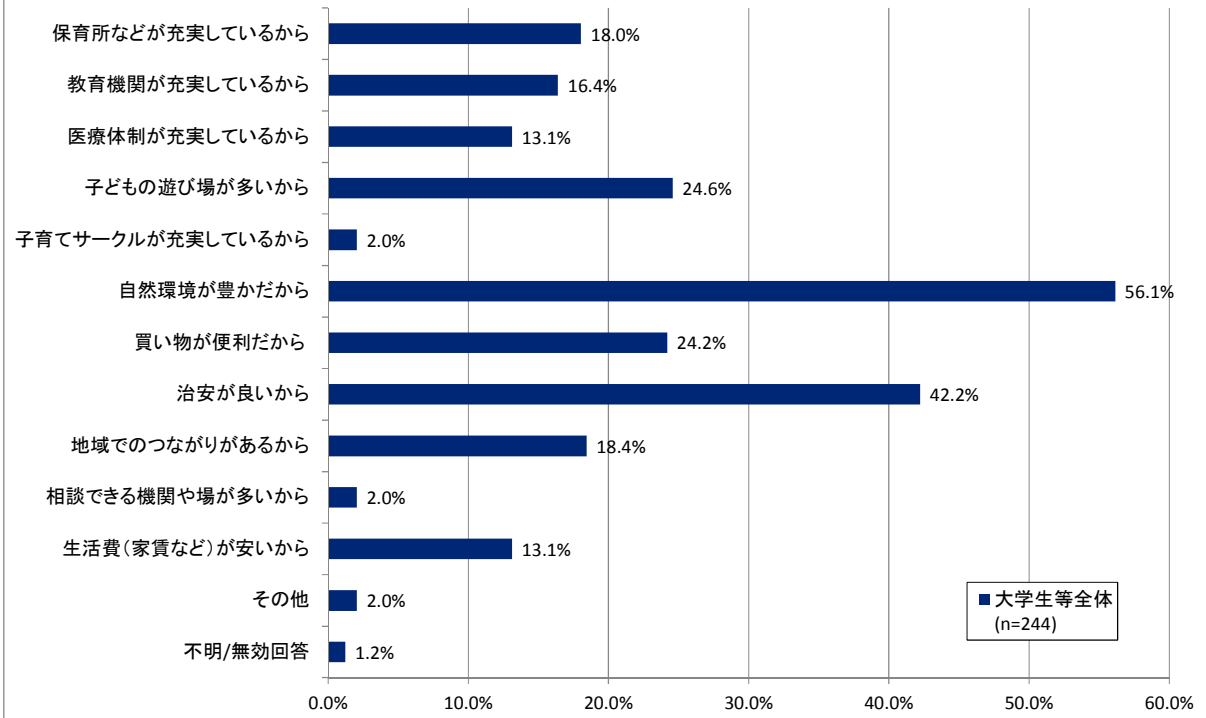


ウ 子育てのしやすさについて

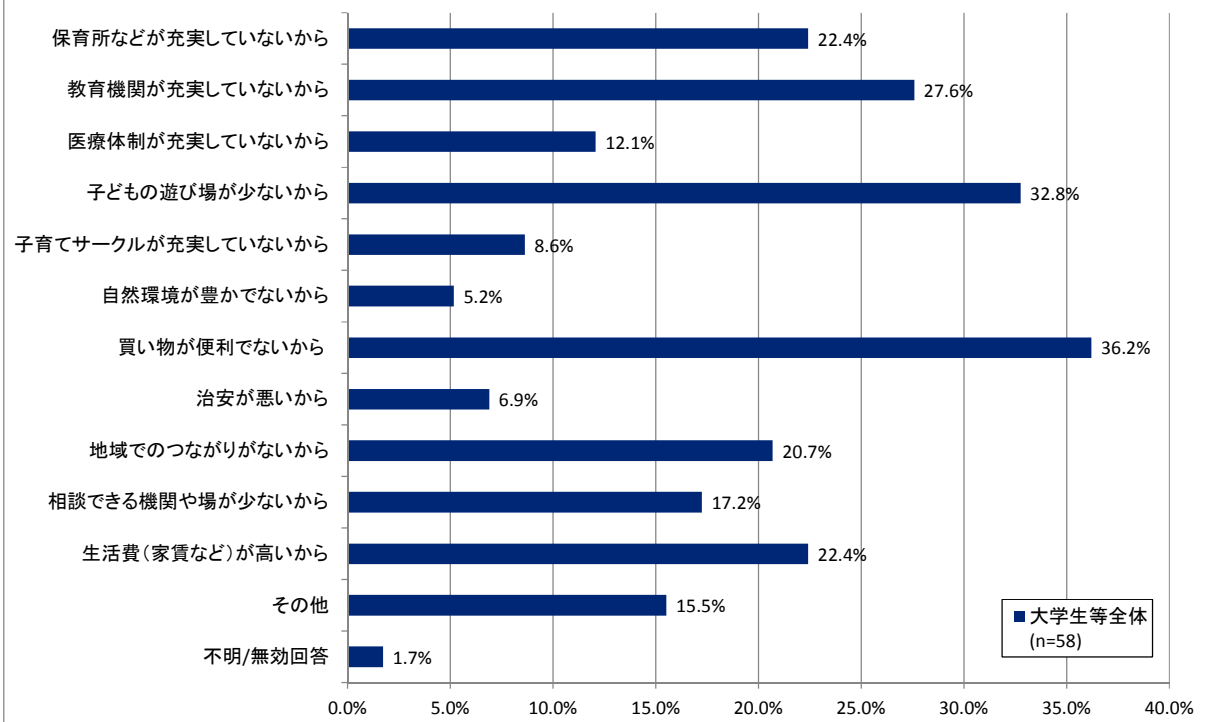
- ・ 子育てする場として新潟市は魅力的かについては、「魅力的だと思う (12.5%)」「どちらかといえば魅力的だと思う (33.6%)」をあわせると、約半数 (46.1%) が魅力的だと思っていることがわかる。
- ・ 魅力的だと思う理由として、「自然環境が豊かだから (56.1%)」、「治安が良いから (42.2%)」、「子どもの遊び場が多いから (24.6%)」が挙げられる。
- ・ 逆に、魅力的だと思わない理由として、「買い物が便利でないから (36.2%)」、「子どもの遊び場が少ないから (32.8%)」、「教育機関が充実していないから (27.6%)」が挙げられる。
- ・ 将来自分たちが持ちたい子どもの数については、「2人 (64.3%)」、「3人 (18.9%)」、「1人 (6.0%)」の順となっている。
- ・ 子どもの数が増えるための支援・対策については、「安定した雇用の確保 (46.5%)」、「子育てに伴う経済的負担の軽減 (46.5%)」、「子育てしやすい職場環境の整備 (36.3%)」の順で高い。

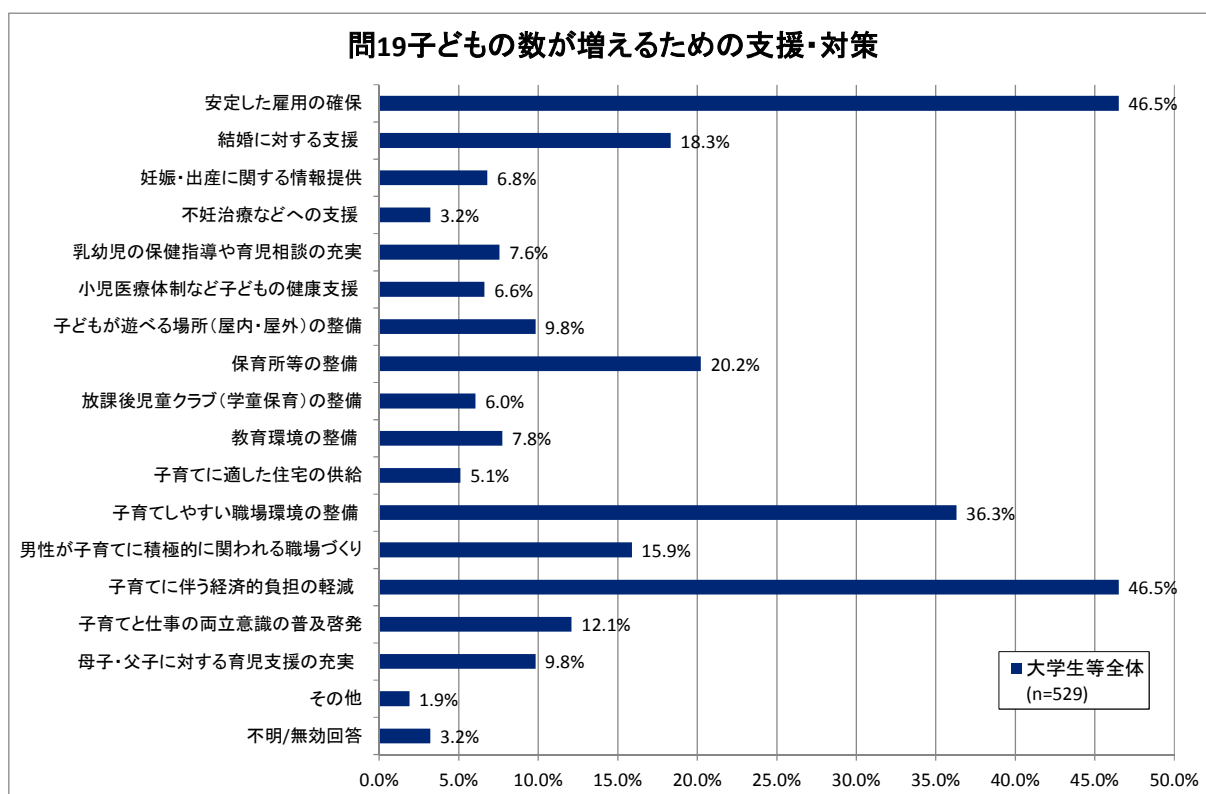
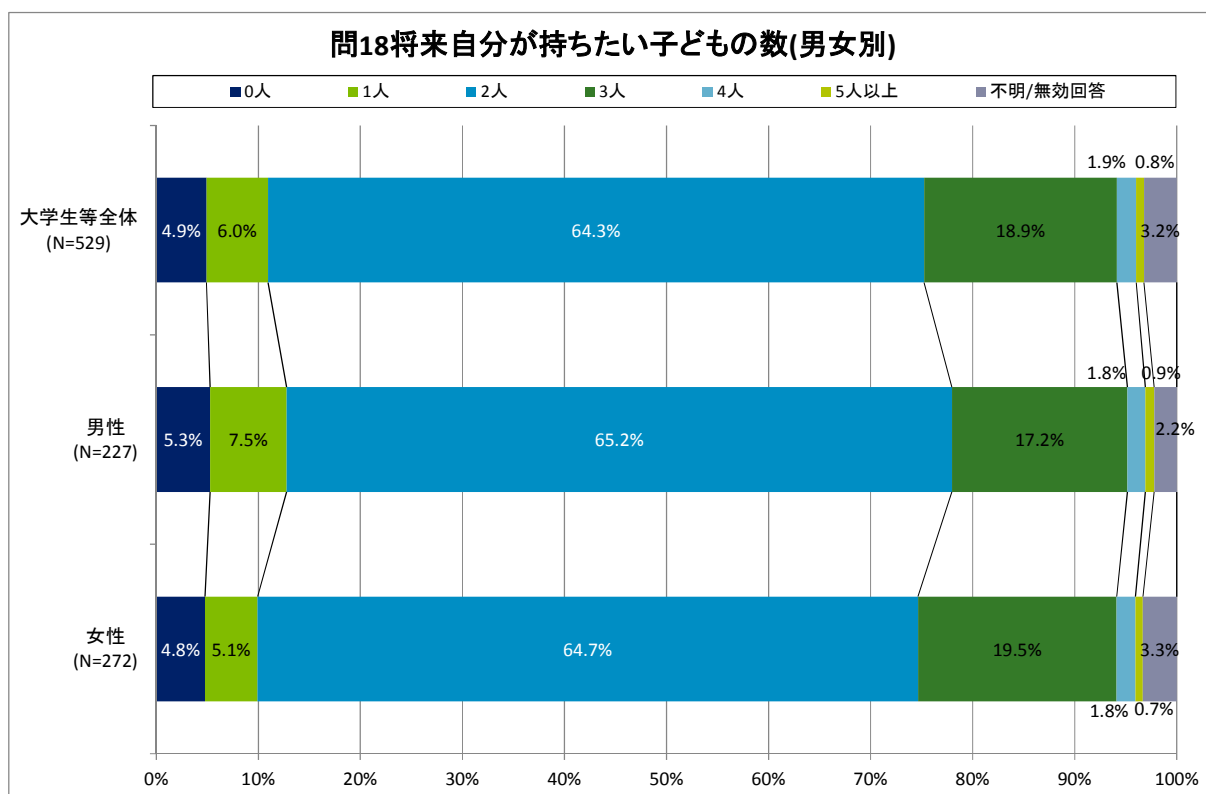


問17-1「新潟市が子育てする場として魅力的だと思う」理由



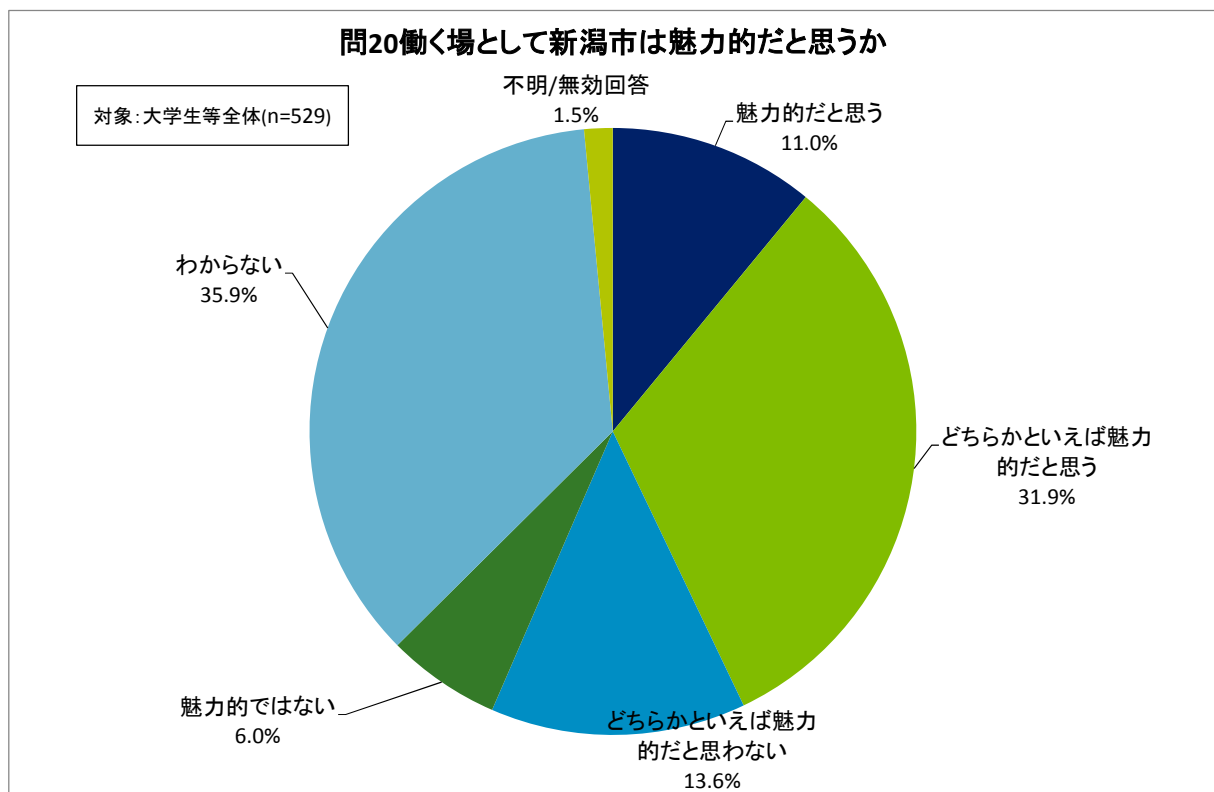
問17-2「新潟市が子育てする場として魅力的だと思わない」理由

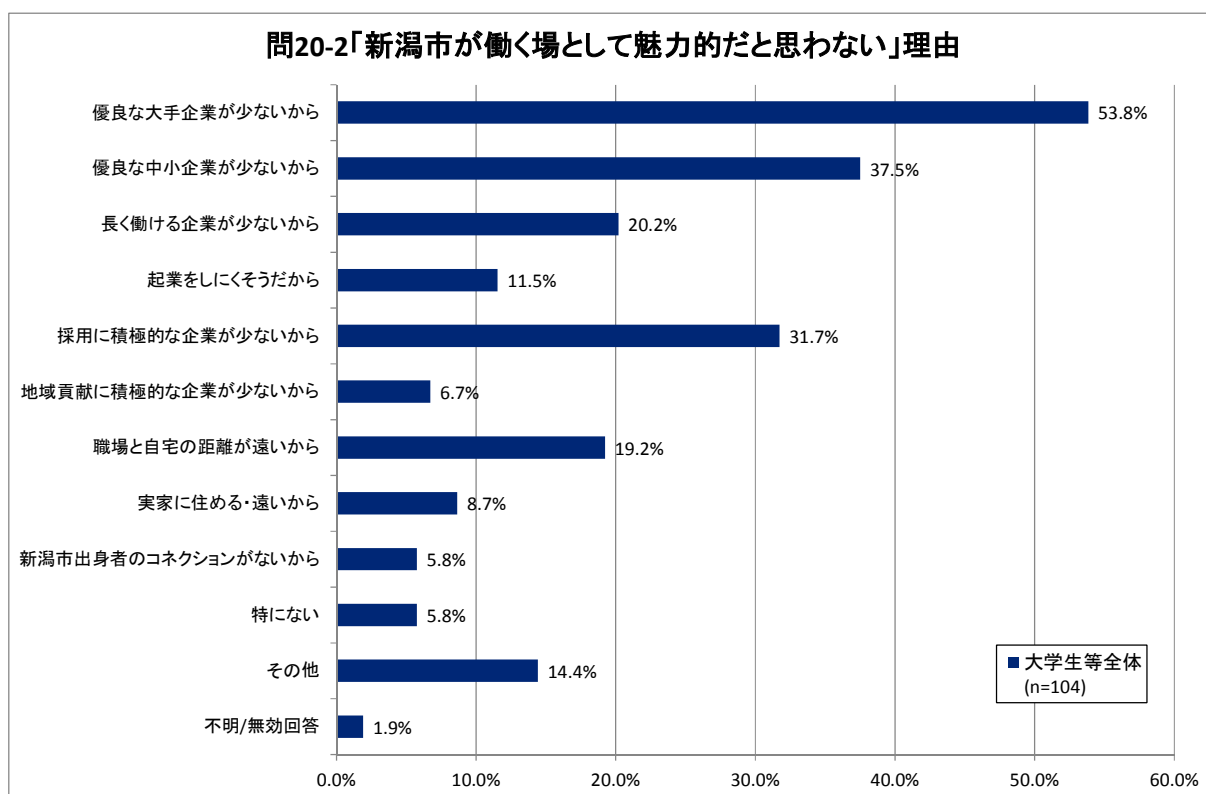
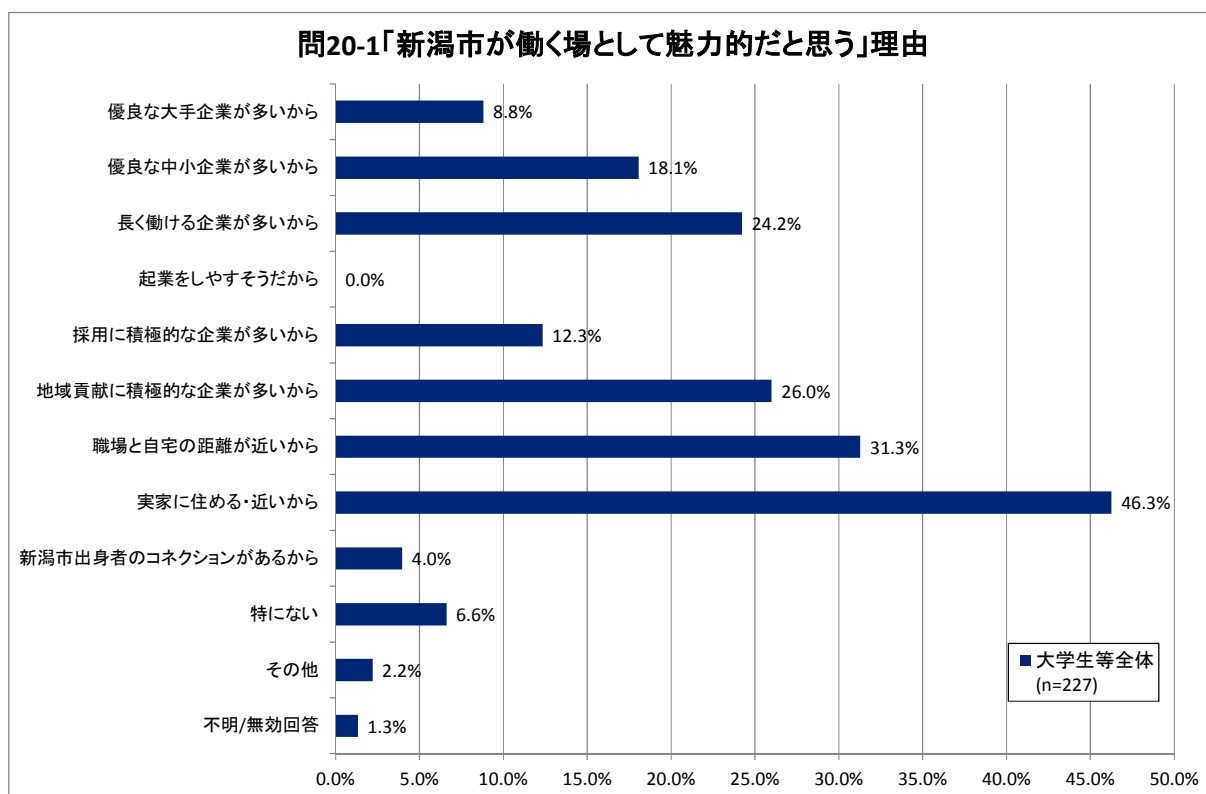




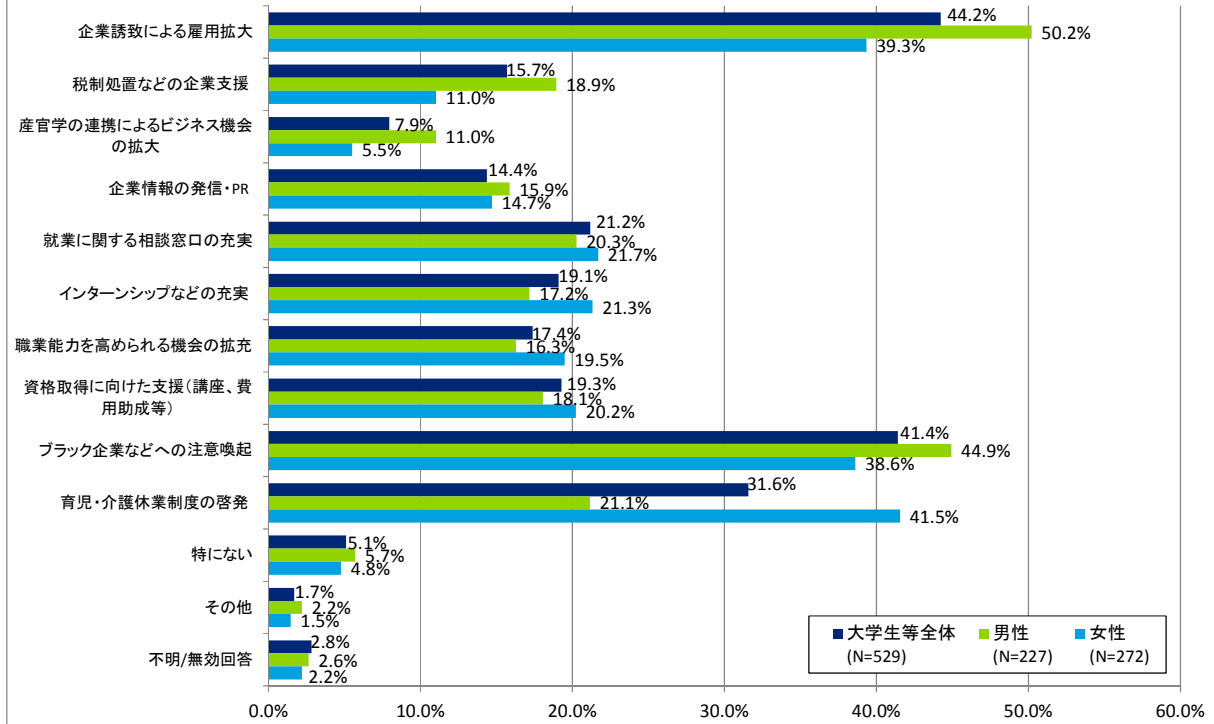
エ 働きやすさについて

- ・ 働く場として新潟市は魅力的かについては、「魅力的だと思う (11.0%)」「どちらかといえば魅力的だと思う (31.9%)」をあわせると、約4割 (42.9%) が魅力的だと思っていることがわかる。
- ・ 魅力的だと思う理由として、「実家に住める・近いから (46.3%)」、「職場と自宅の距離が近いから (31.3%)」、「地域貢献に積極的な企業が多いから (26.0%)」が挙げられる。
- ・ 逆に、魅力的だと思わない理由として、「優良な大手企業が少ないから (53.8%)」、「優良な中小企業が少ないから (37.5%)」、「採用に積極的な企業が少ないから (31.7%)」が挙げられる。
- ・ 行政が取り組むべき事業として、「企業誘致による雇用拡大 (44.2%)」、「ブラック企業などへの注意喚起 (41.4%)」、「育児・介護休業制度の啓発 (31.6%)」の順で高い。(ただし、「育児・介護休業制度の啓発」は男女差が大きく、男性 21.1%に対し、女性は 41.5%であった。)
- ・ 企業が取り組むべき事業として、「給与・ボーナスを増やす (48.6%)」、「雇用機会の拡充 (37.8%)」、「残業や休日出勤をなくす・減らす (37.4%)」の順に高い。
- ・ 男女差大きい項目としては、「出産後に復職しやすい職場環境づくり (男性:16.7%、女性:41.9%)」、「育児・介護休業制度の導入・拡充 (男性:28.6%、女性:45.2%)」は男性に比べ、女性のポイントが高い。一方で、「給与・ボーナスを増やす (男性:56.8%、女性:40.1%)」は女性に比べ、男性のポイントが高い。

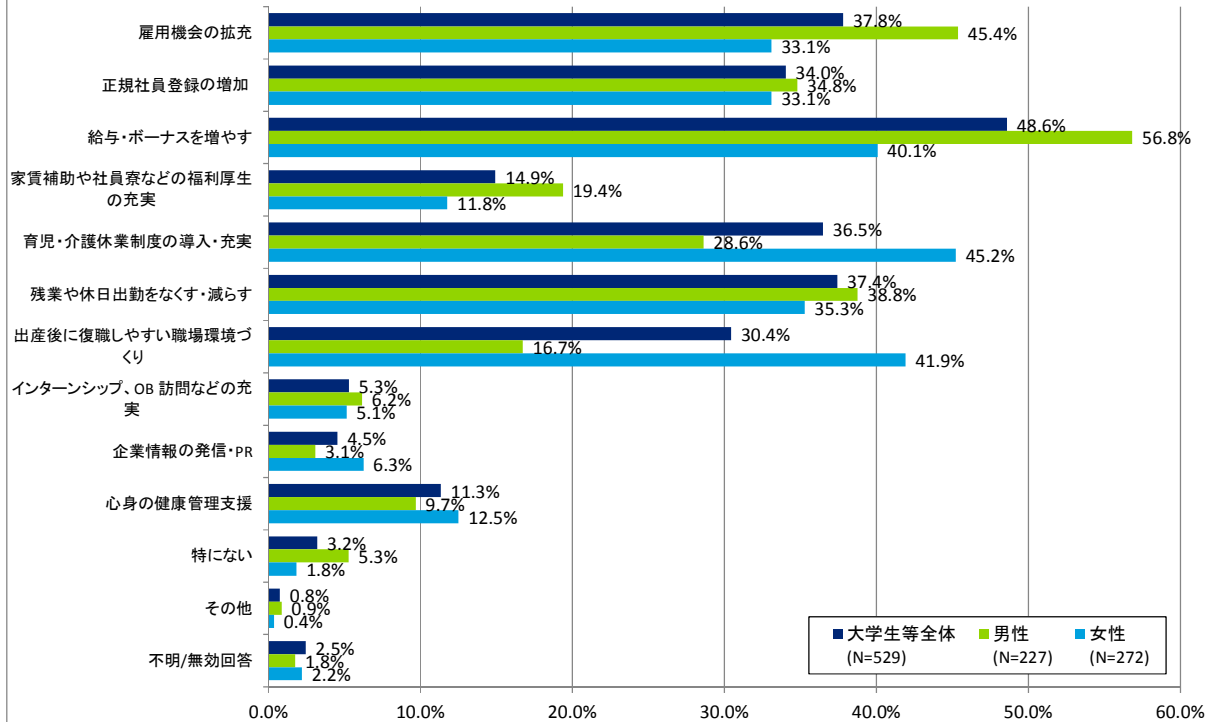




問22働きやすさのために行政が取り組むべき事業(男女別)

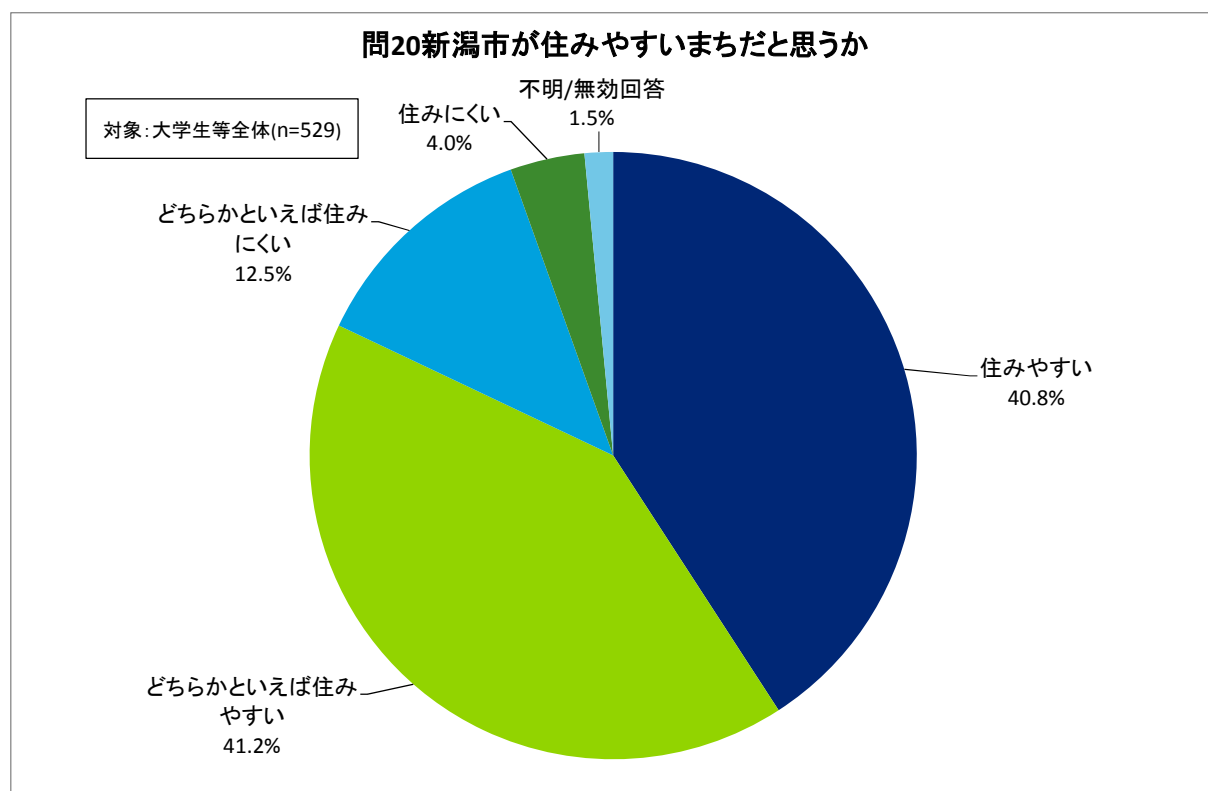


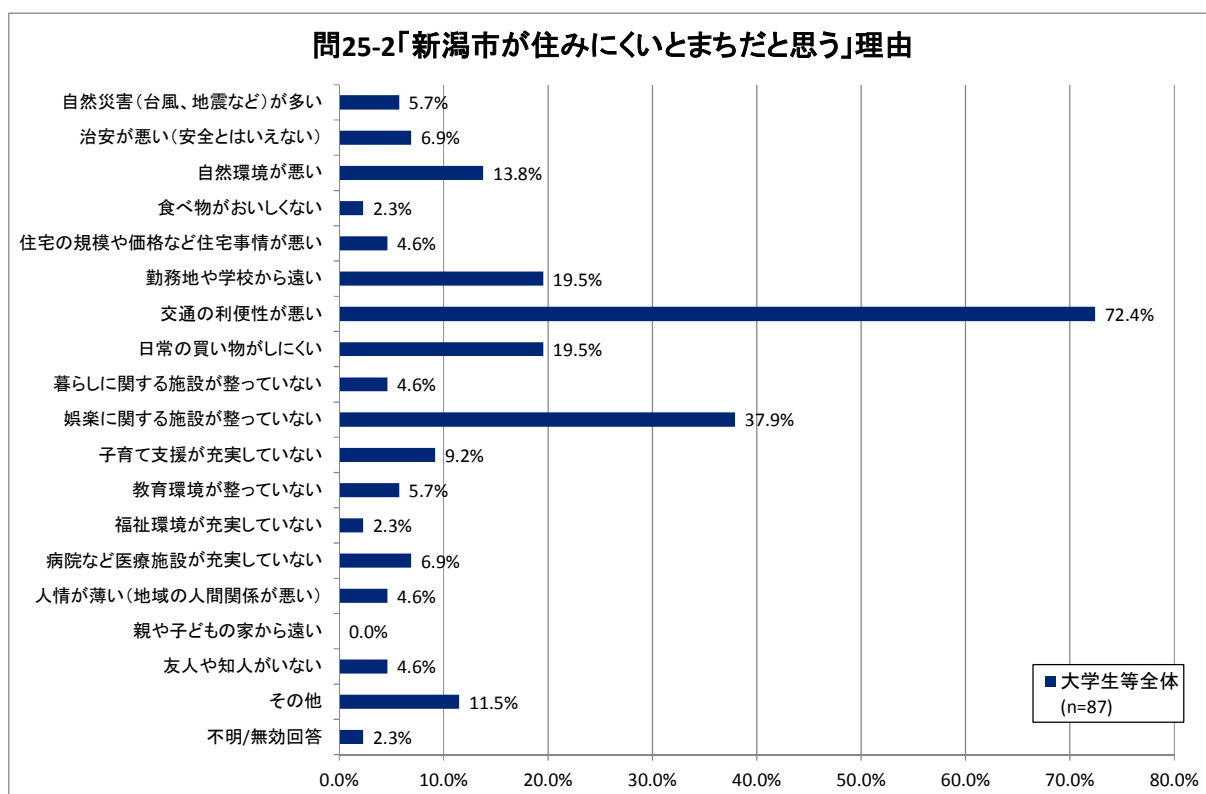
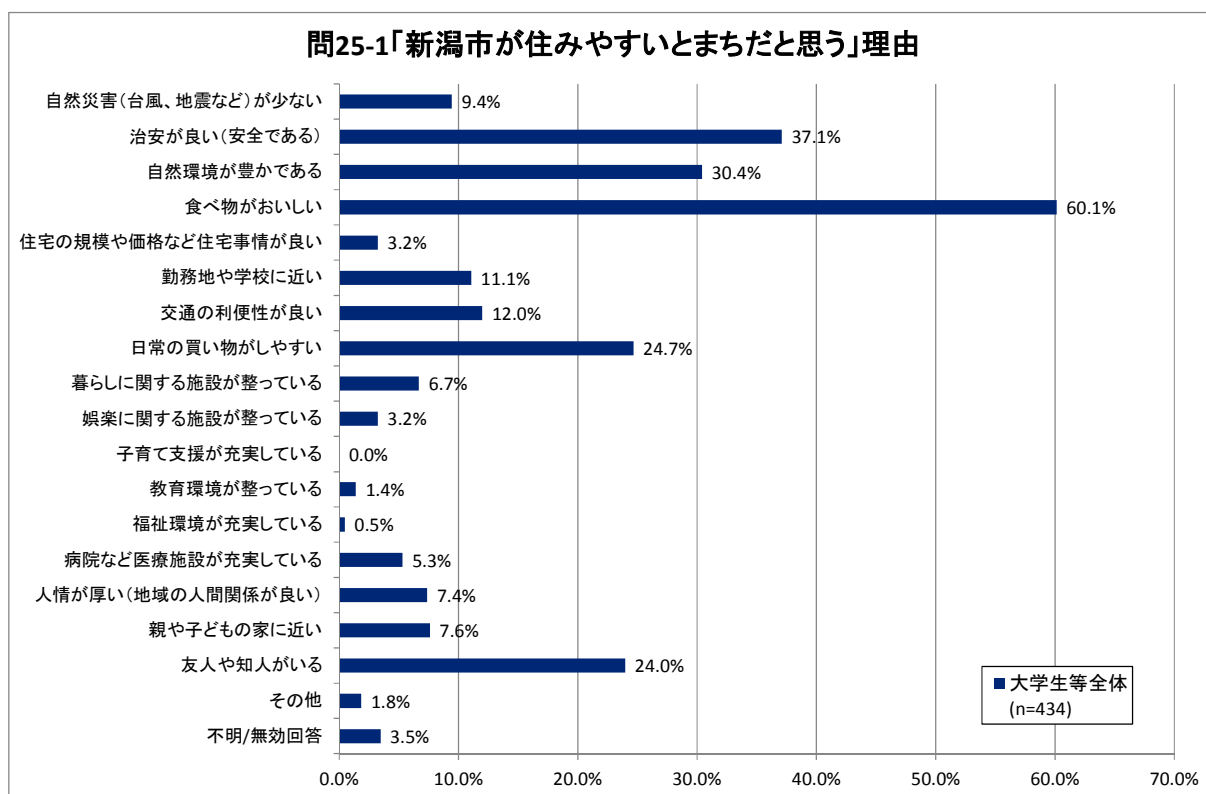
問23働きやすさのために企業が取り組むべき事業(男女別)

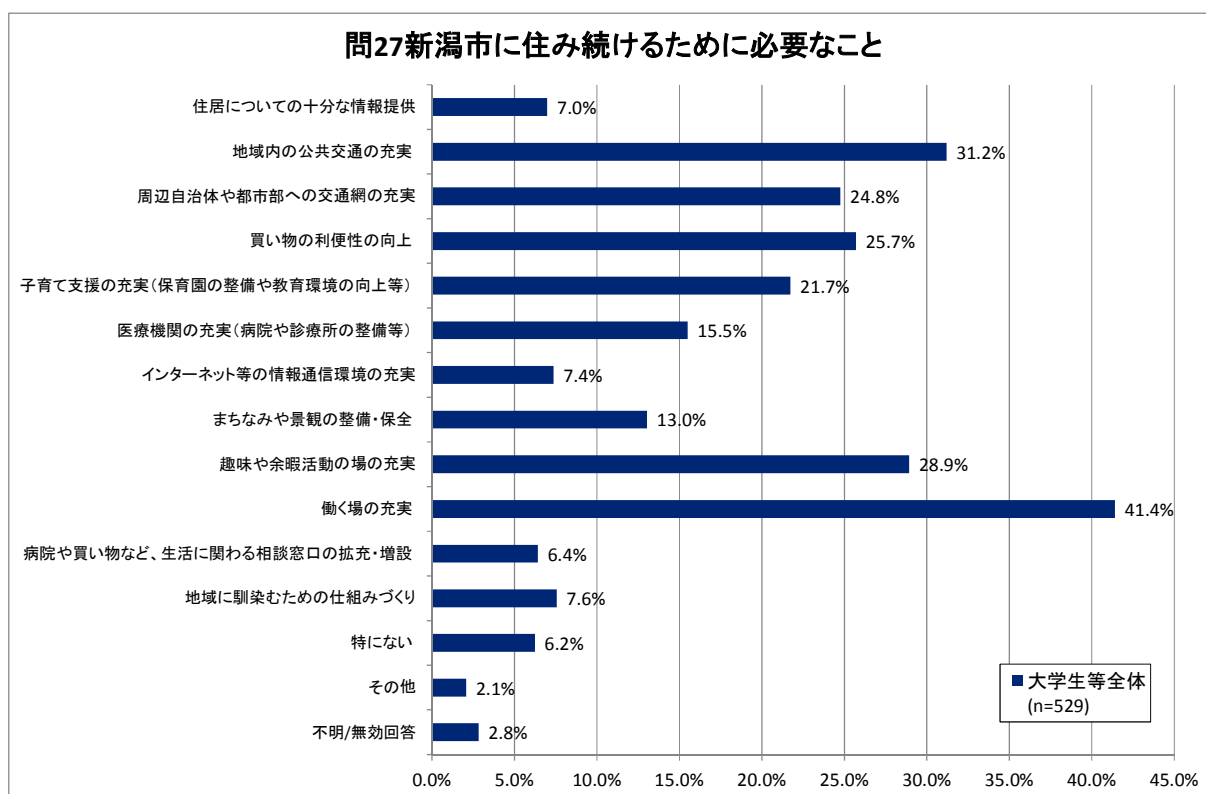
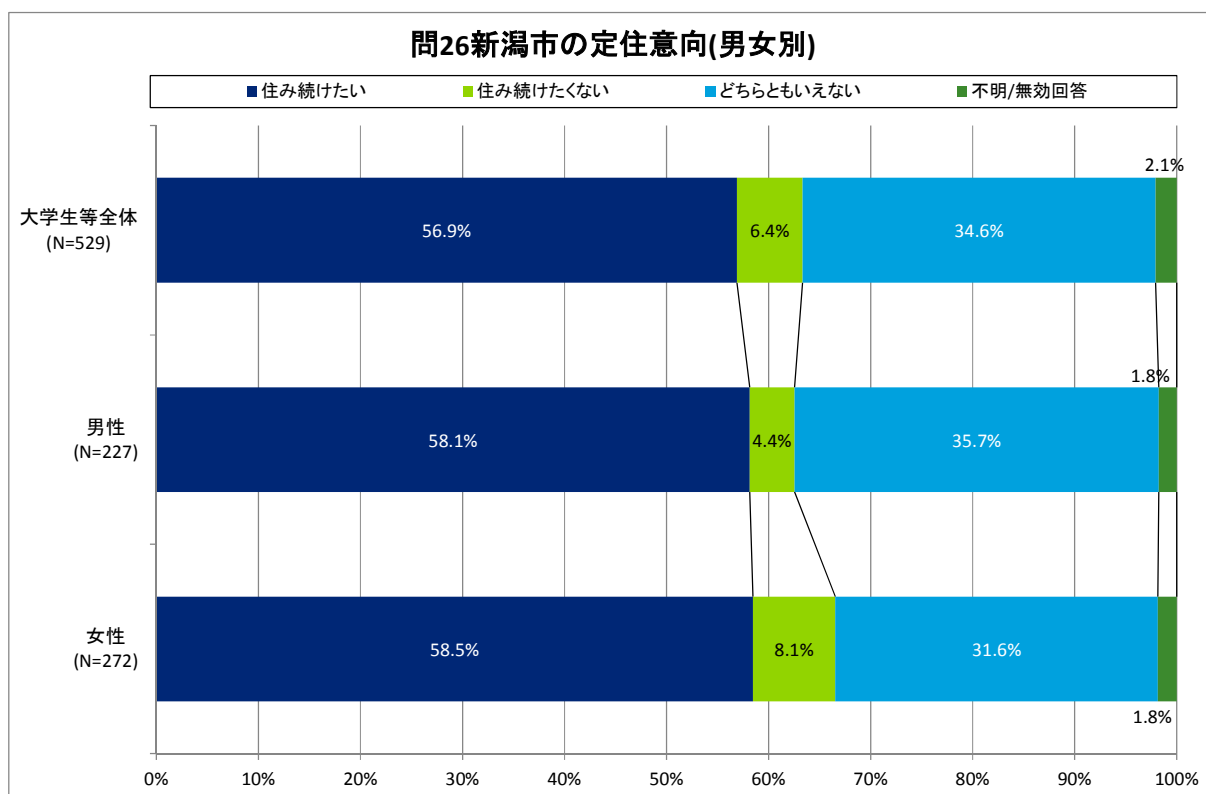


オ 住みやすさについて

- 新潟市が住みやすいまちだと思うかについては、「住みやすい (40.8%)」「どちらかといえば住みやすい (41.2%)」をあわせると、約8割 (82.0%) が住みやすいと思っていることがわかる。
- 住みやすい理由として、「食べ物がおいしい (60.1%)」、「治安が良い (37.1%)」、「自然環境が豊かである (30.4%)」が挙げられる。
- 逆に住みにくい理由として、「交通の利便性が悪い (72.4%)」、「娯楽に関する施設が整っていない (37.9%)」、「勤務地や学校から遠い (19.5%)」、「日常の買い物がしにくい (19.5%)」が挙げられる。
- 新潟市の定住意向については、「住み続けたい (56.9%)」、「住み続けたくない (6.4%)」、「どちらともいえない (34.6%)」となっている。
- 新潟市に住み続けるために必要なこととしては、「働く場の拡充 (41.1%)」、「地域内の公共交通の充実 (31.2%)」、「趣味や余暇活動の充実 (28.9%)」の順に高い。



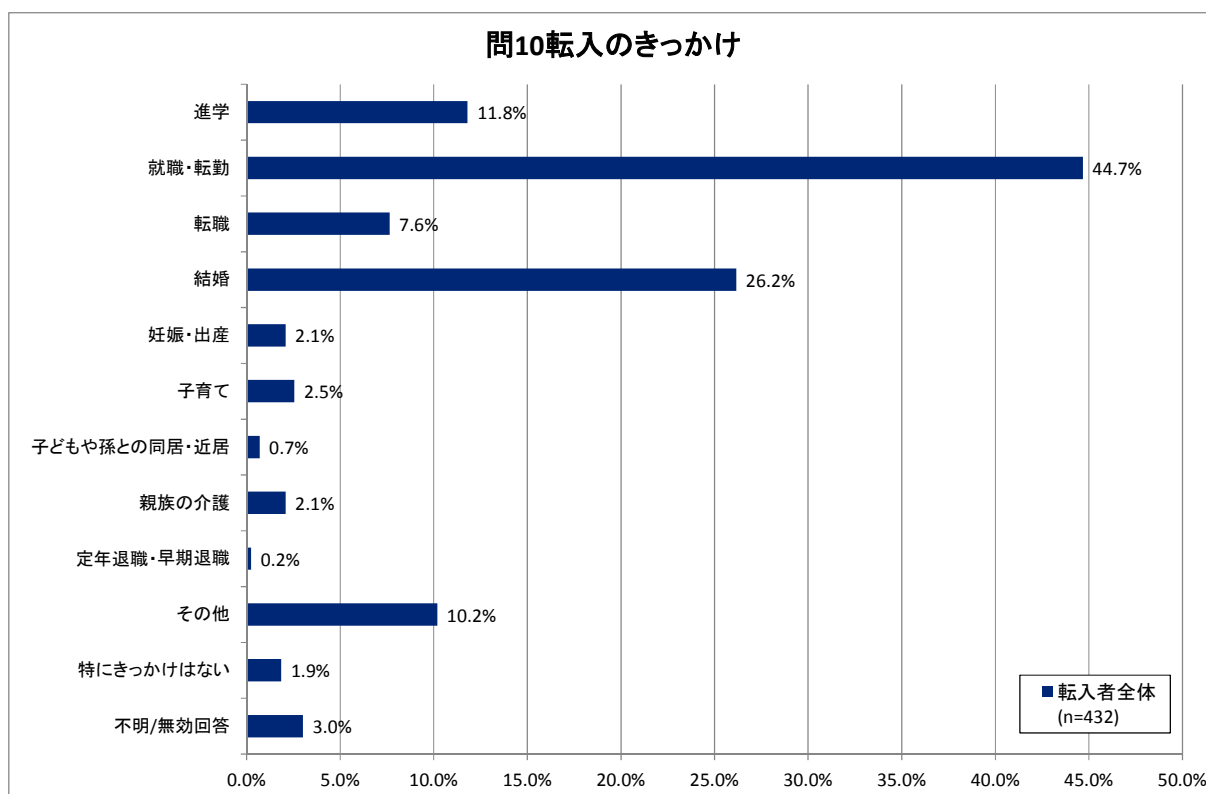




(3) 在住者・転入者調査

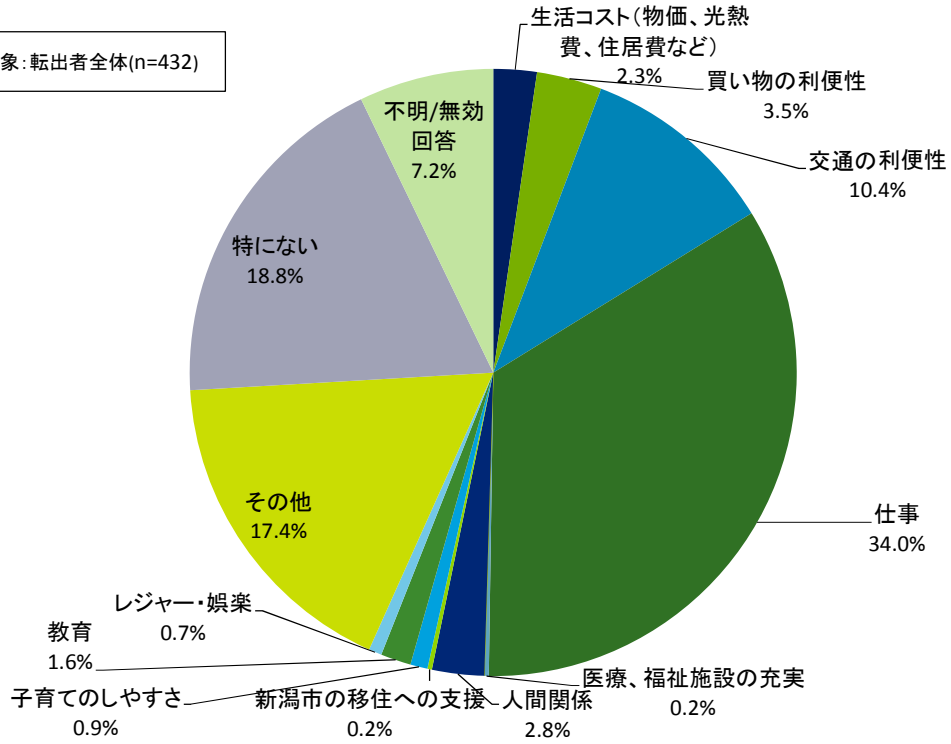
ア 転入について

- ・ 転入にきっかけは、「就職・転勤 (44.7%)」、「結婚 (26.2%)」、「進学 (11.8%)」の順に高い。
- ・ 転入先として新潟市を選んだ理由は、「仕事 (34.0%)」、「交通の利便性 (10.4%)」、「買い物の利便性 (3.5%)」の順で高い。
- ・ 今後の居住予定地をみると、「新潟市内 (65.3%)」、「首都圏 (6.0%)」、「新潟市以外の新潟市内 (5.3%)」となっている。
- ・ 将来の新潟市へのUターン意向では、「思う」「どちらかといえば思う」を合わせると14.7%がUターン意向を示している。
- ・ 新潟市へいずれは戻りたい理由は、「食べ物や水、空気がおいしいから (42.9%)」、「家族・親戚・知人など親しい人がいるから (42.9%)」、「生活コストが安いから (35.7%)」、「人が多すぎないから (35.7%)」の順で高い。



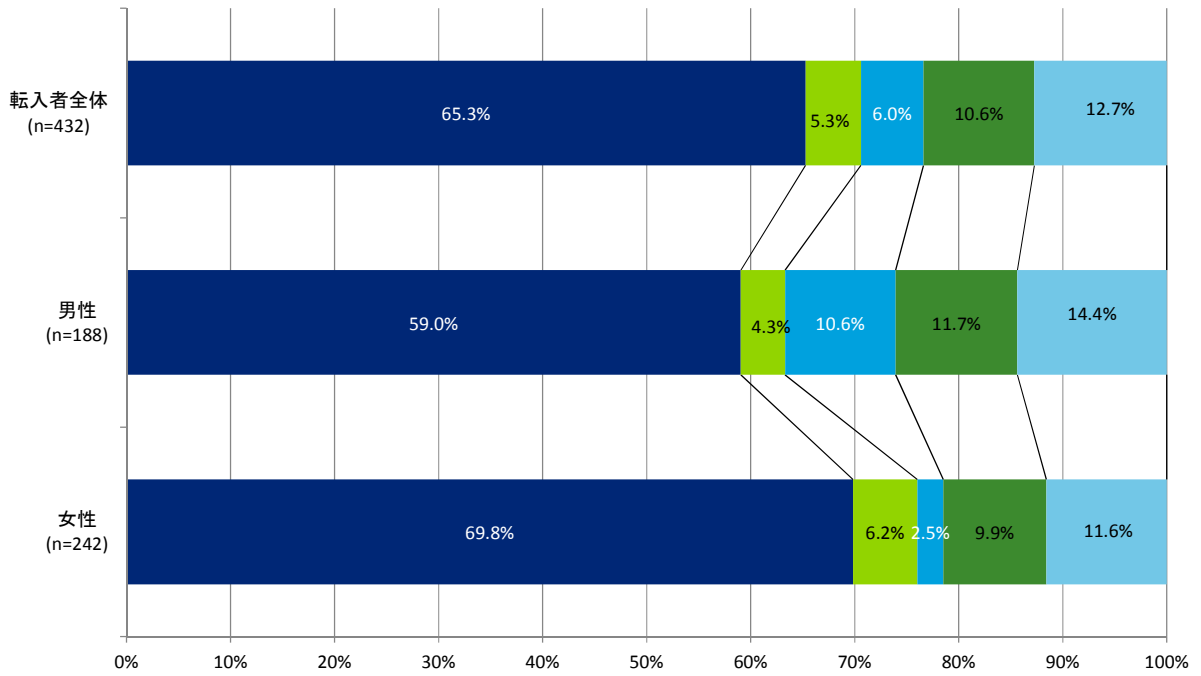
問11 転入先として新潟市を選んだ理由(重視した条件)

対象: 転出者全体(n=432)

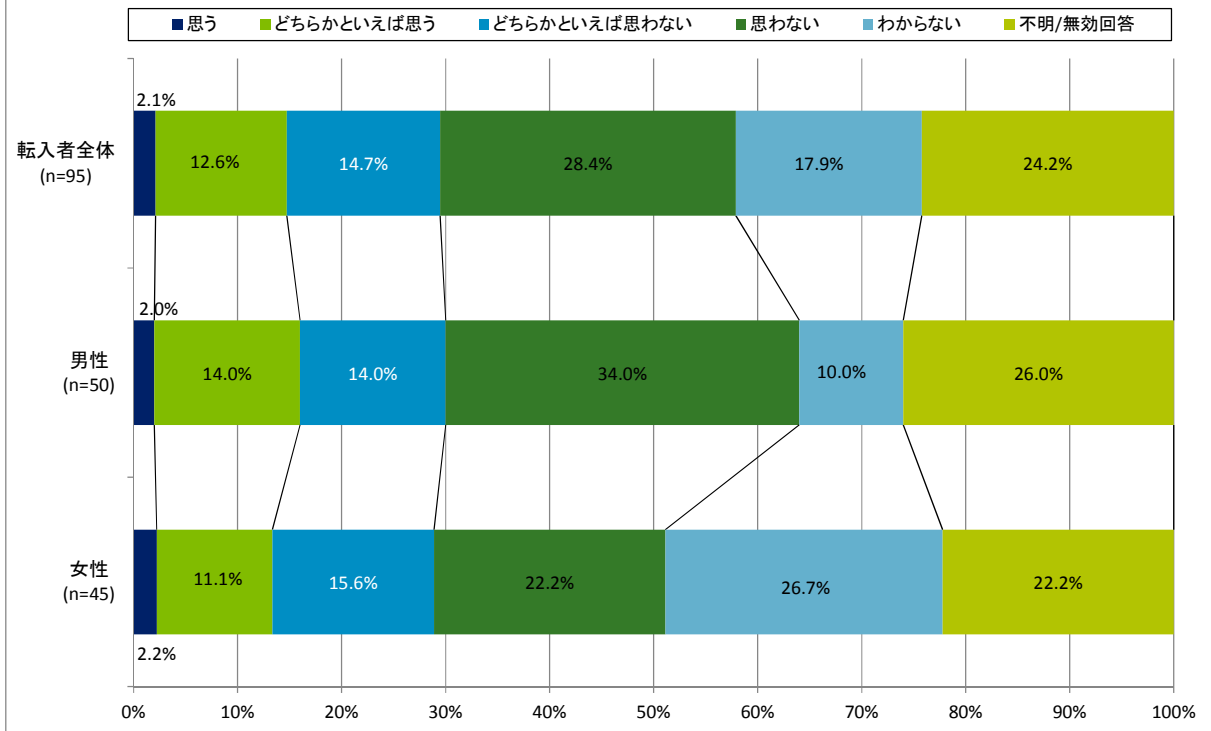


問14 今後の居住予定地(男女別)

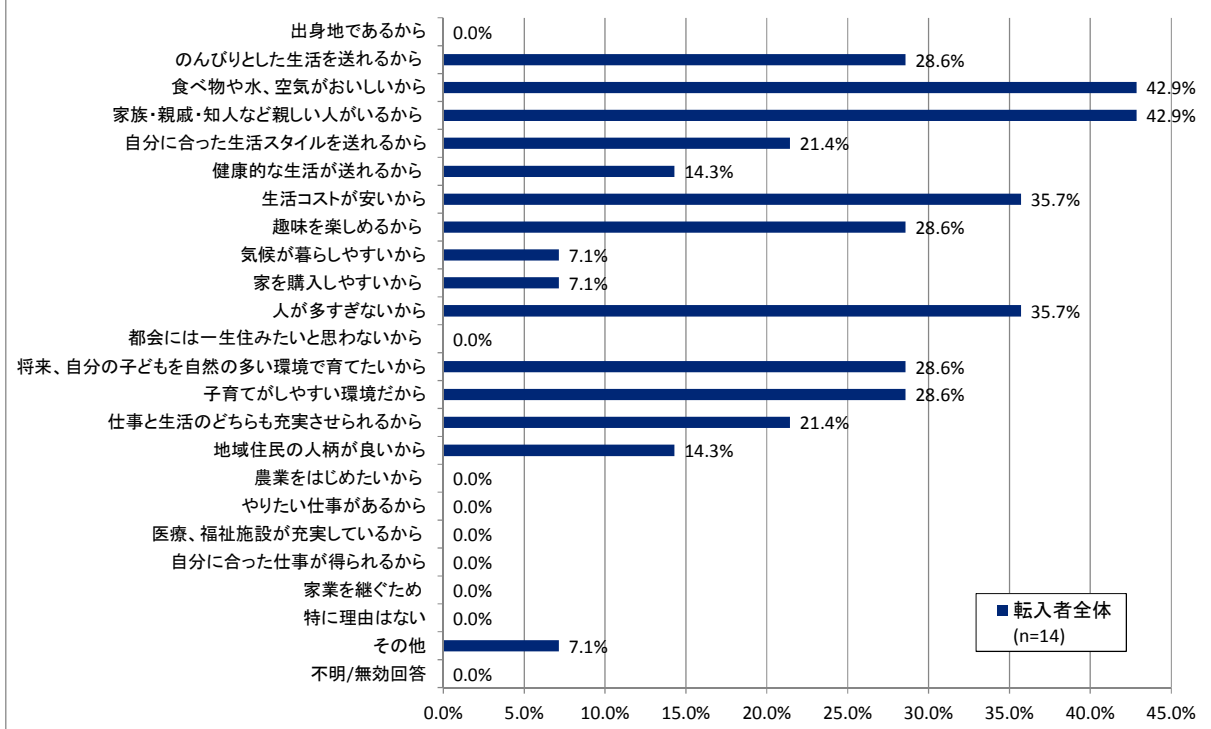
■新潟市内 ■新潟市以外の新潟県内 ■首都圏(東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県) ■その他 ■不明/無効回答



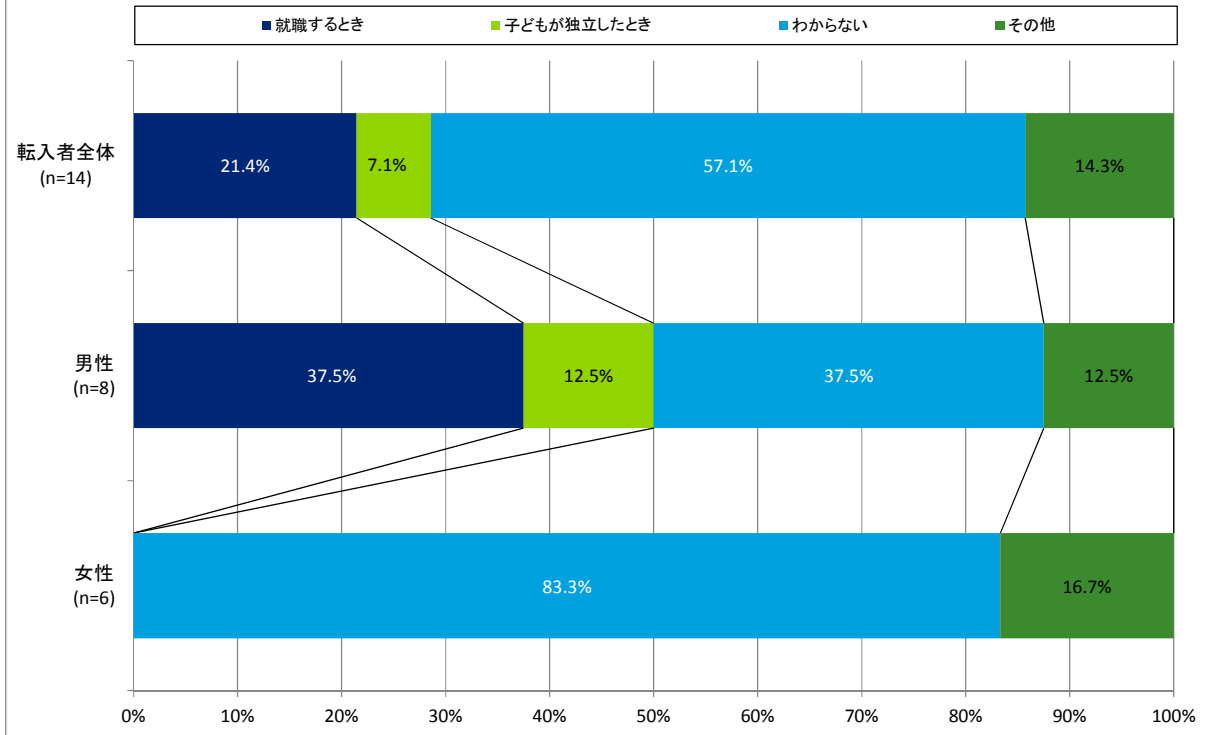
問14-2 将来の新潟市へのUターン意向(男女別)



問14-3 新潟市へいずれは戻りたいという理由

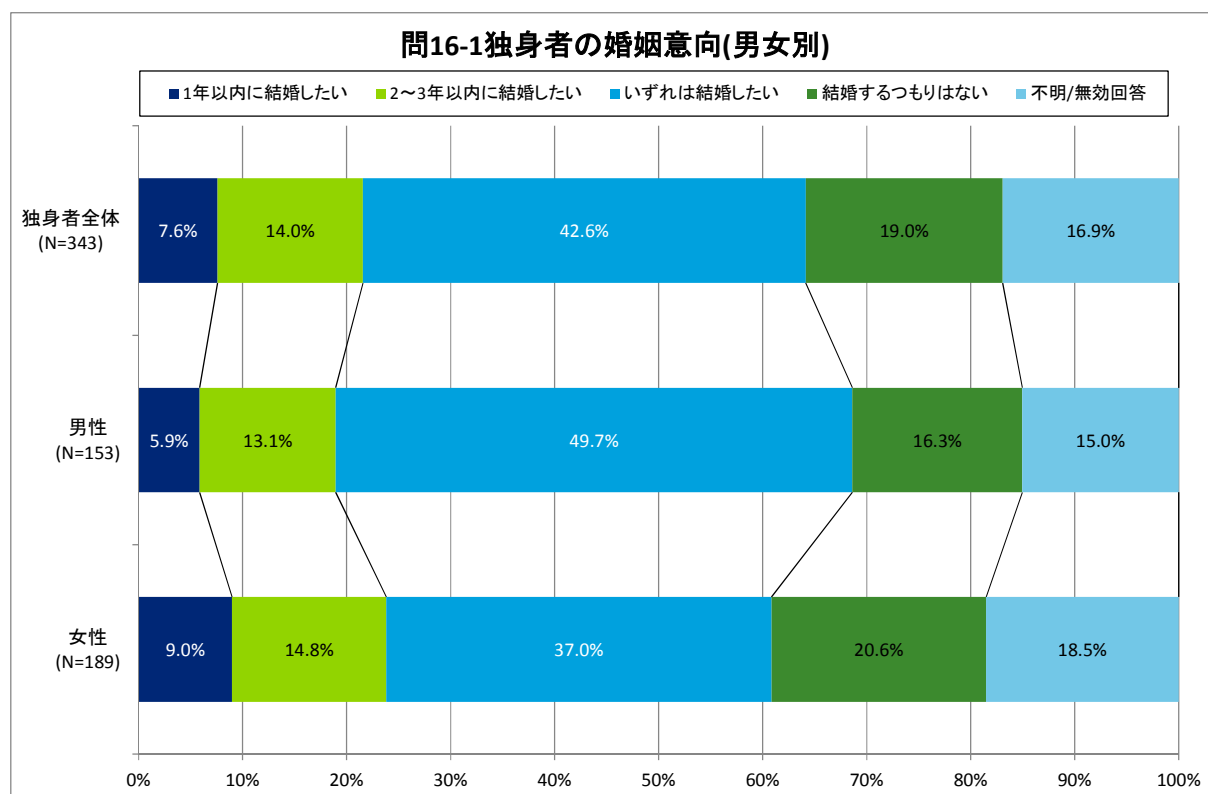


問14-4新潟市に戻る時期(男女別)

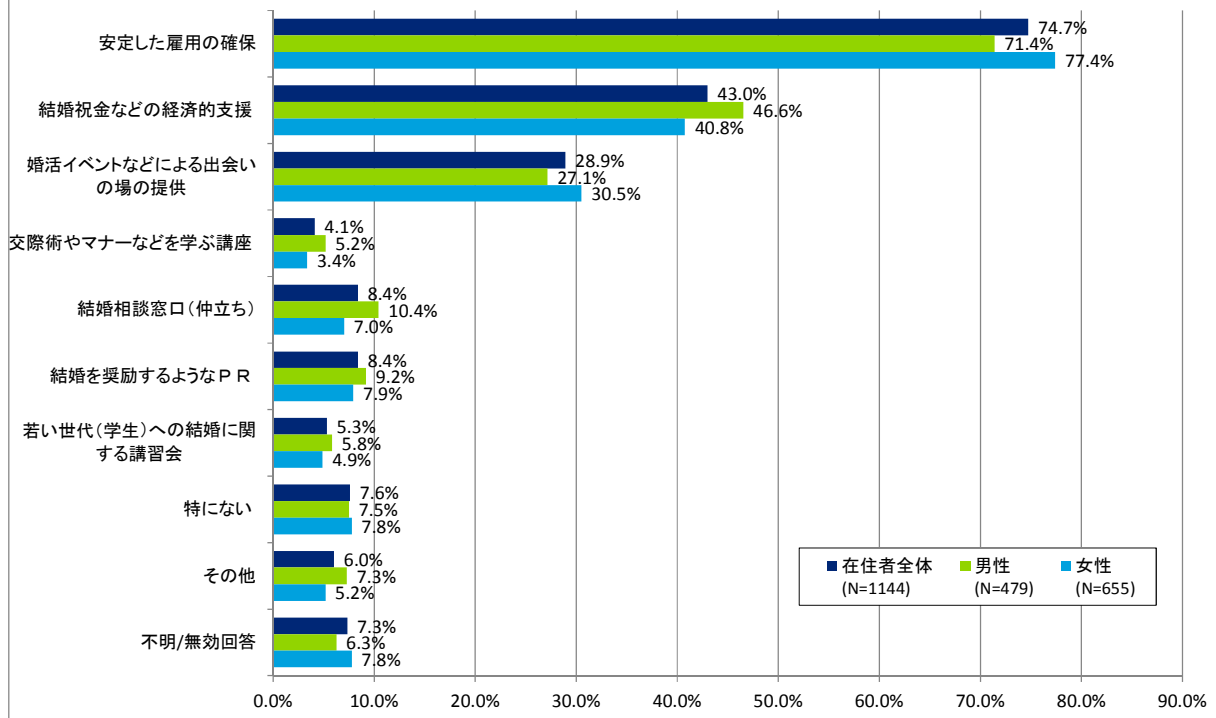


イ 結婚のしやすさについて

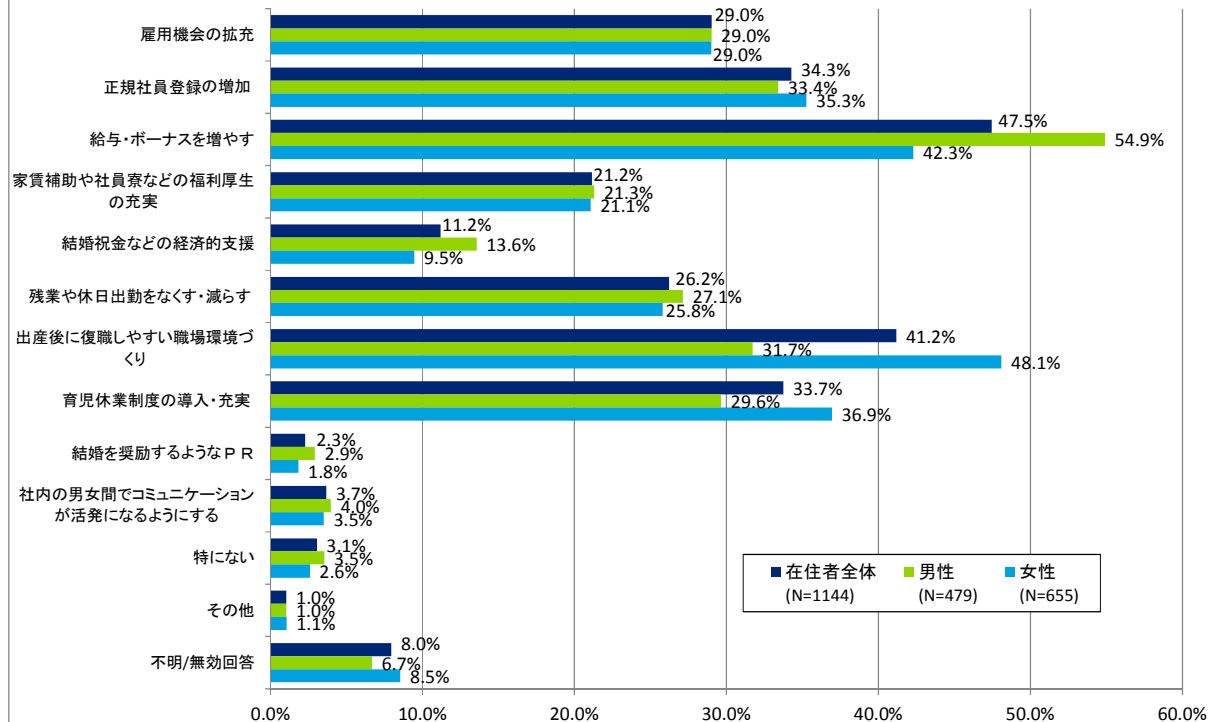
- 独身者の婚姻意向については、「いずれは結婚したい (42.6%)」、「結婚するつもりはない (19.0%)」、「2～3年以内に結婚したい (14.0%)」、「1年以内に結婚したい (7.6%)」の順で高い
- 男女別にみると、「いずれは結婚したい」については男性が49.7%であるのに対し、女性は37.0%と差があることがわかる。
- 結婚支援のために行政が取り組むべきことについては、「安定した雇用の確保 (74.7%)」、「結婚祝い金などの経済的支援 (43.0%)」の項目が男女ともに高い。
- 一方で、企業が取り組むべきことについては、男性は「給与・ボーナスを増やす (54.7%)」、「育児休業制度の導入・拡充 (33.4%)」、「出産後に復帰しやすい職場環境づくり (31.7%)」の順に高い。女性は「出産後に復帰しやすい職場環境づくり (48.1%)」、「給与・ボーナスを増やす (42.3%)」、「育児休業制度の導入・拡充 (36.9%)」、の順に高い。



問17結婚支援のために行政が取り組むべきこと(男女別)

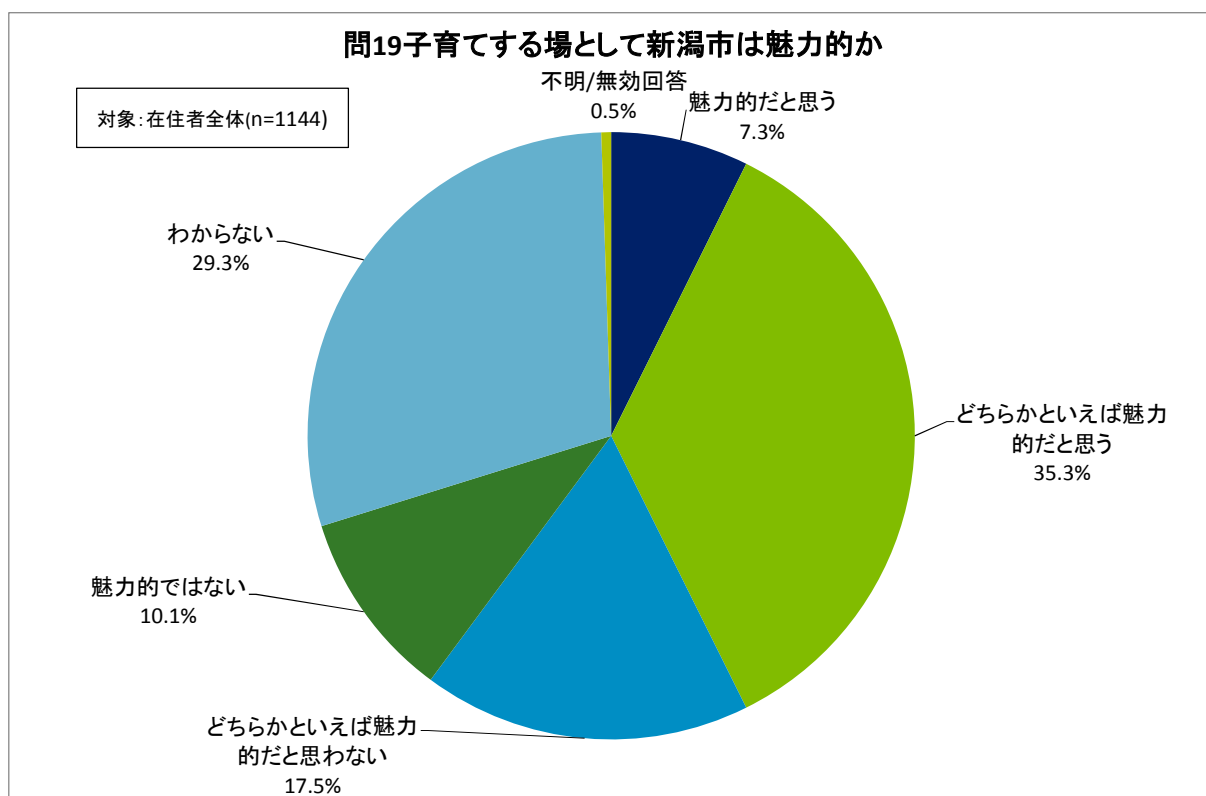


問18結婚支援のために企業が取り組むべきこと(男女別)

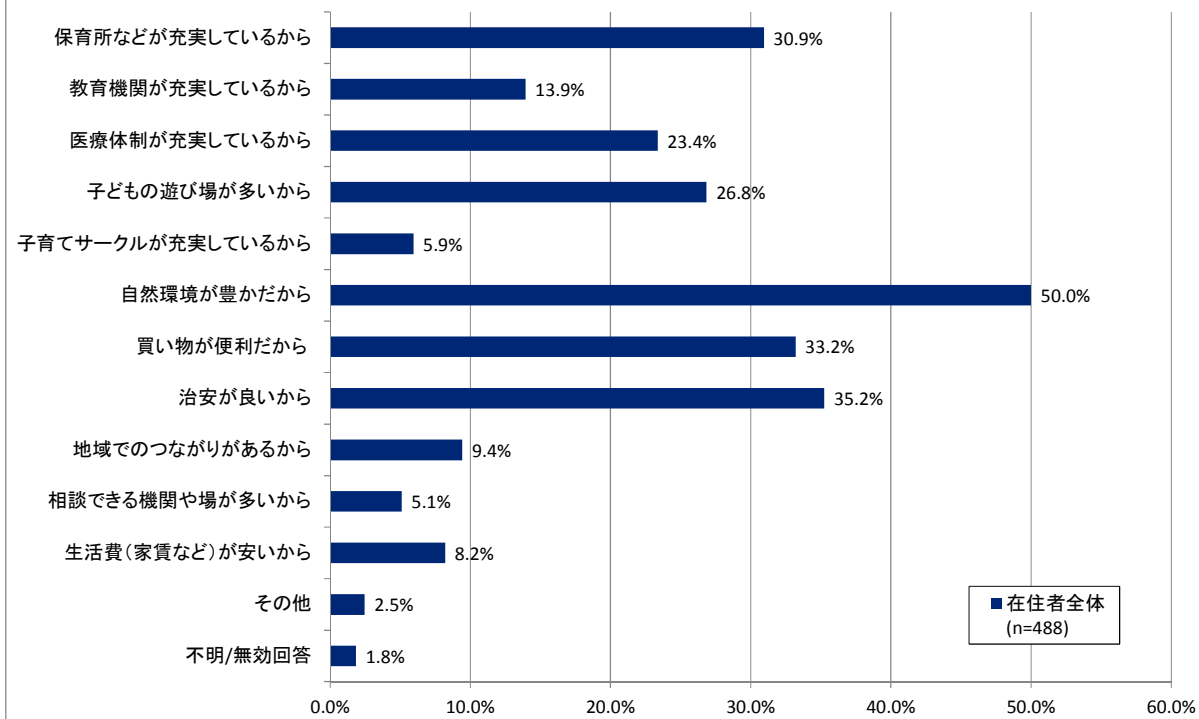


ウ 子育てのしやすさについて

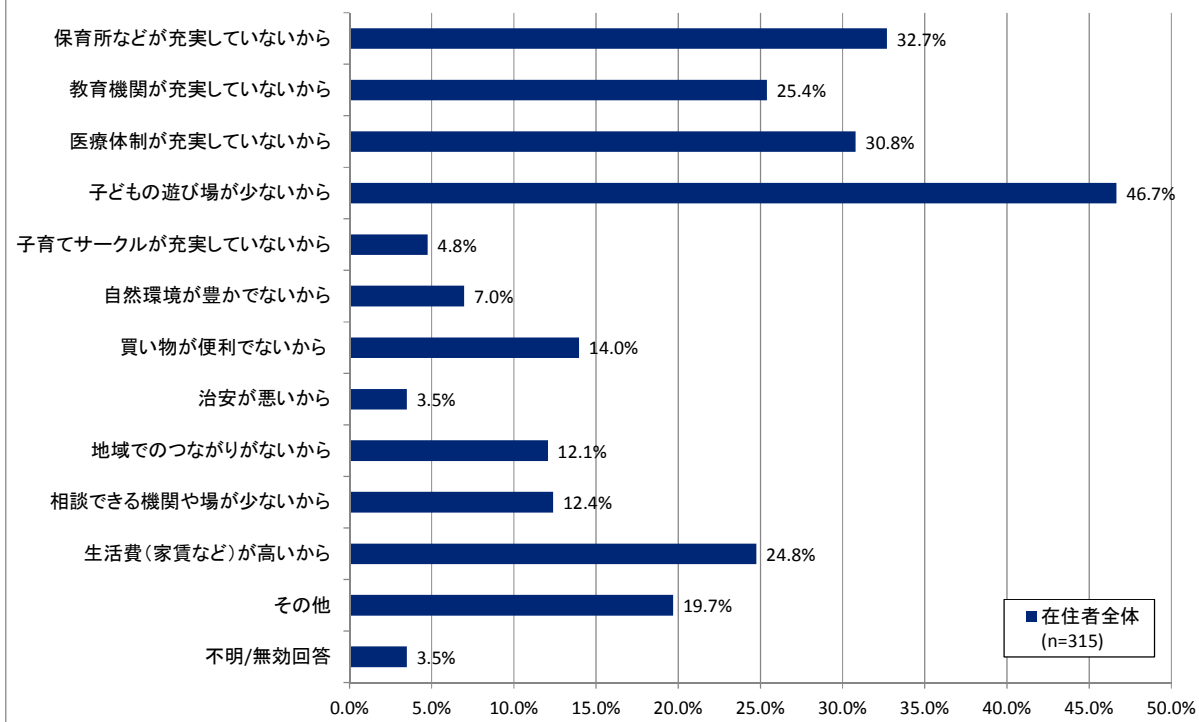
- ・ 子育てする場として新潟市は魅力的かについては、「魅力的だと思う (7.3%)」「どちらかといえば魅力的だと思う (35.3%)」をあわせると、約 4 割 (42.6%) が魅力的だと思っていることがわかる。
- ・ 魅力的だと思う理由として、「自然環境が豊かだから (50.0%)」、「治安が良いから (35.2%)」、「買い物が便利だから (33.2%)」が挙げられる。
- ・ 逆に、魅力的だと思わない理由として、「子どもの遊び場が少ないから (46.7%)」、「保育所などが充実していないから (32.7%)」、「医療体制が充実していないから (30.8%)」が挙げられる。
- ・ 現在の子どもの数については、「0 人 (32.9%)」、「2 人 (30.0%)」、「1 人 (22.4%)」、「3 人 (8.7%)」の順となっている。
- ・ 今後の子どもの予定数については、「0 人 (54.2%)」、「2 人 (20.7%)」、「1 人 (12.0%)」、「3 人 (4.5%)」の順となっている。
- ・ 理想的な子どもの数については、「2 人 (48.1%)」、「3 人 (39.2%)」、「1 人 (3.8%)」、「0 人 (2.3%)」の順となっている。
- ・ 子どもが増えるための支援・対策については、「子育てに伴う経済的負担の軽減 (52.8%)」、「安定した雇用の確保 (50.4%)」、「子育てしやすい職場環境の整備 (36.0%)」の順で高い。

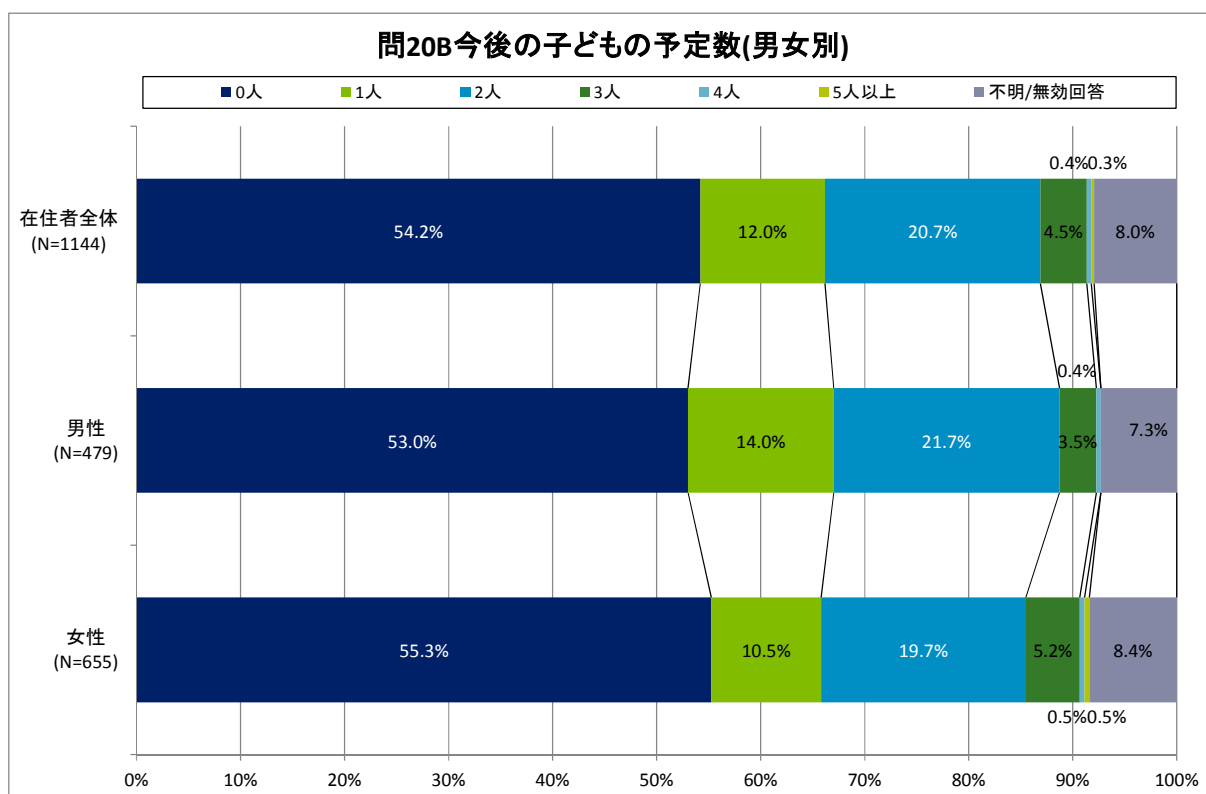
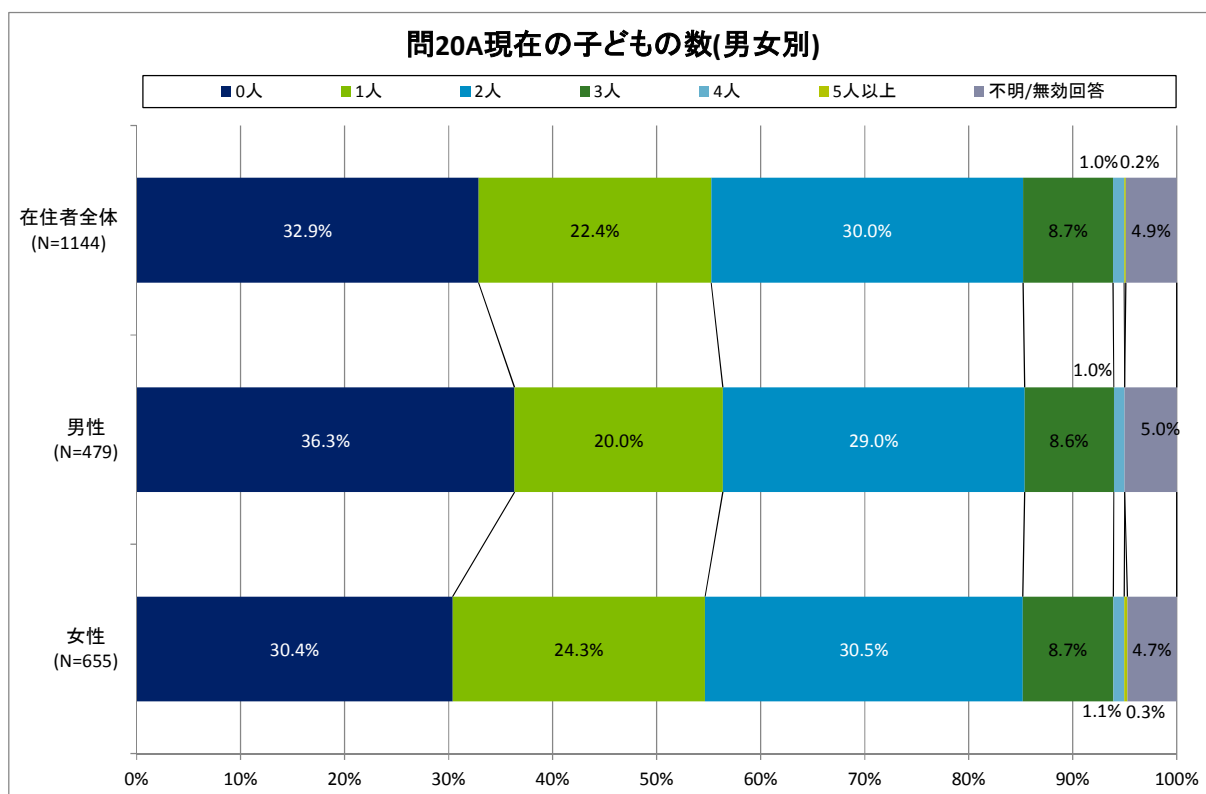


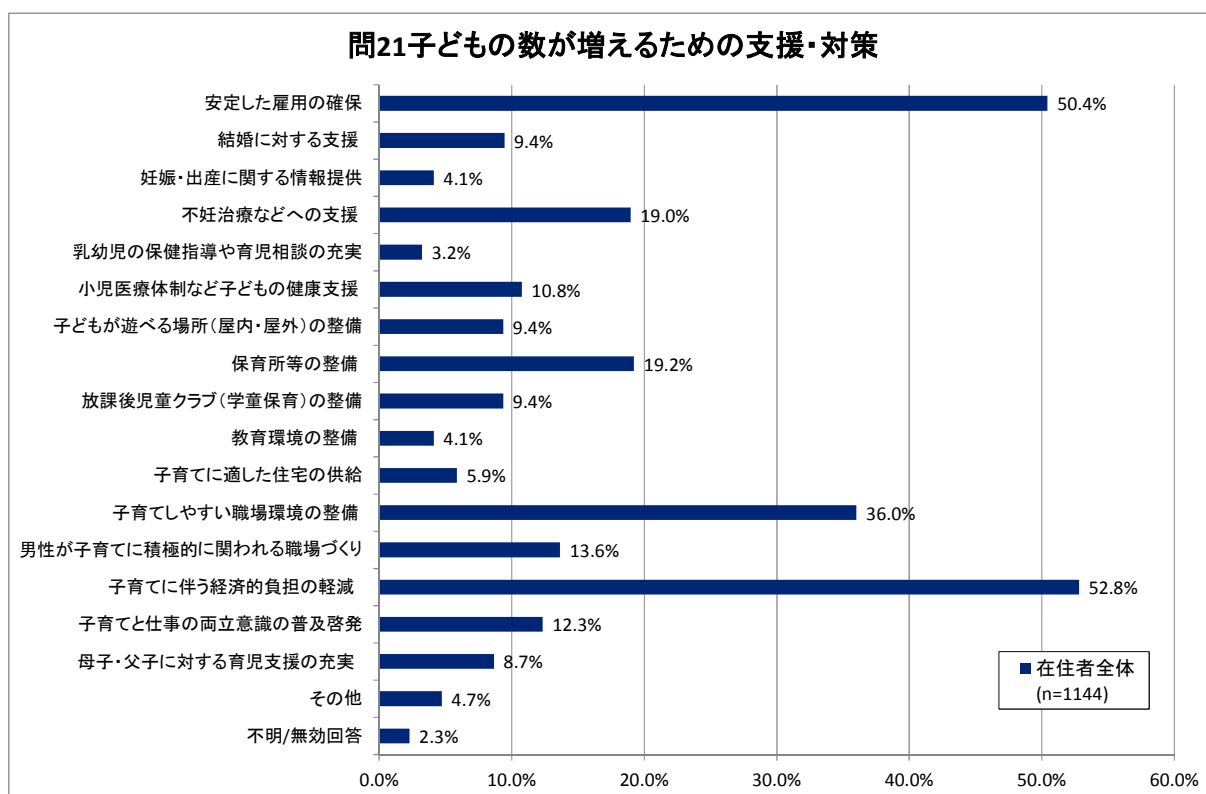
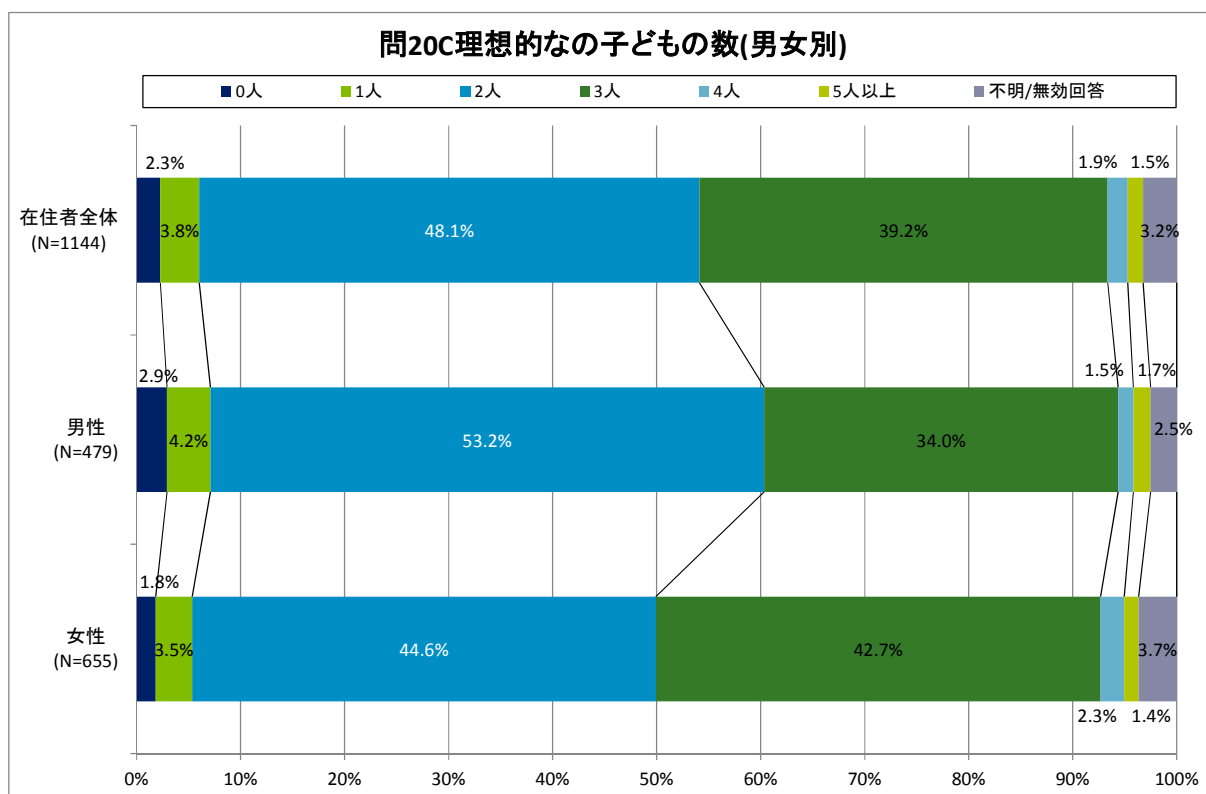
問17-1「新潟市が子育てする場として魅力的だと思う」理由



問19-2「新潟市が子育てする場として魅力的だと思わない」理由

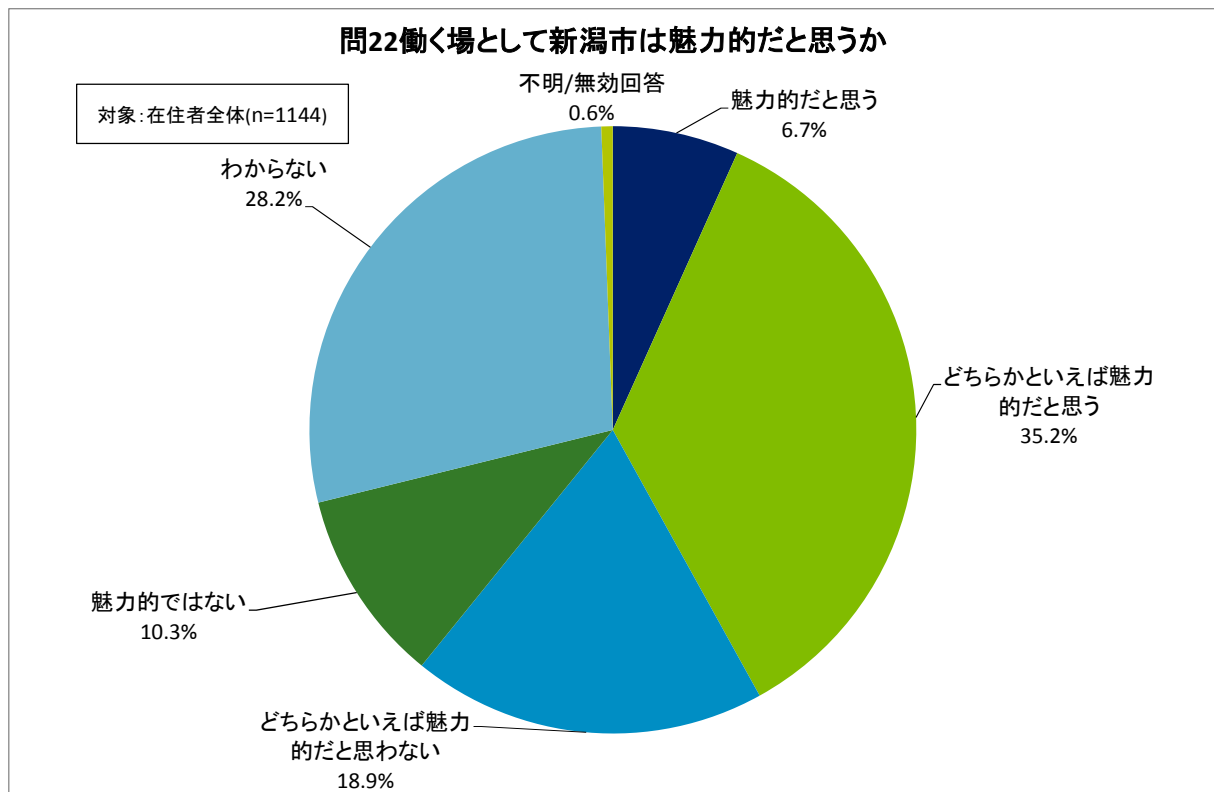




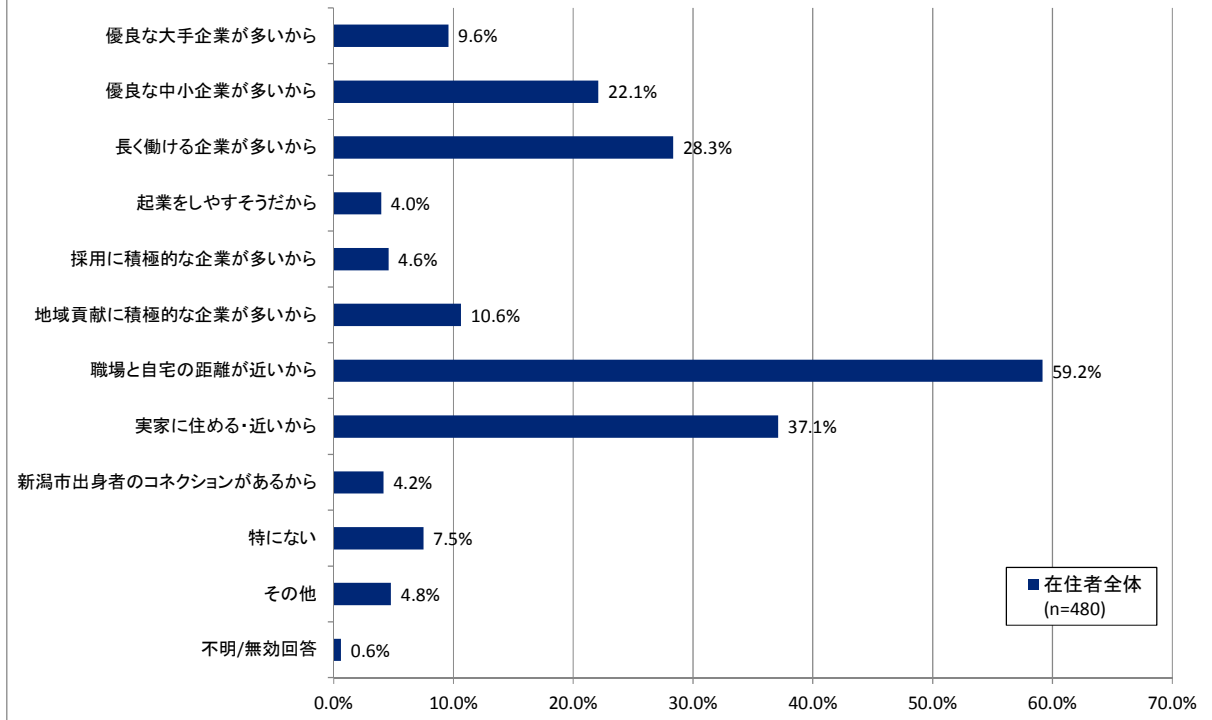


エ 働きやすさについて

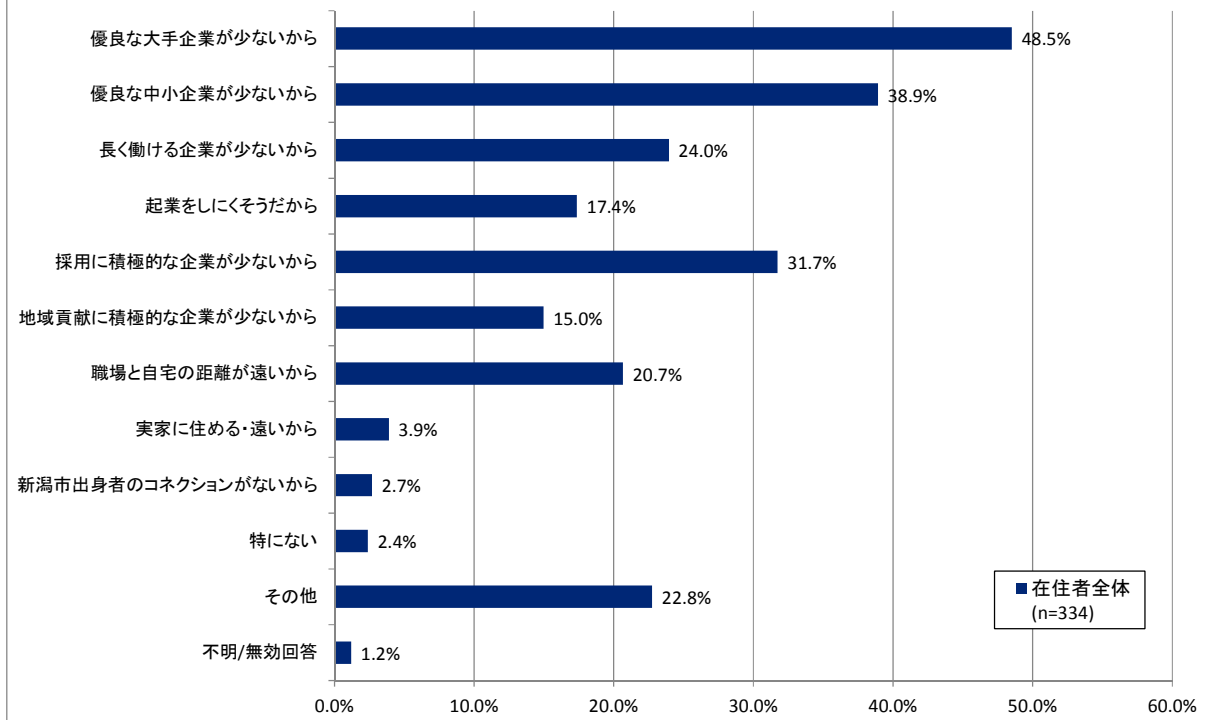
- ・ 働く場として新潟市は魅力的かについては、「魅力的だと思う（6.7%）」「どちらかといえば魅力的だと思う（35.2%）」をあわせると、約4割（41.9%）が魅力的だと思っていることがわかる。
- ・ 魅力的だと思う理由として、「職場と自宅の距離が近いから（59.2%）」、「実家に住める・近いから（37.1%）」、「長く働ける企業が多いから（28.3%）」が挙げられる。
- ・ 逆に、魅力的だと思わない理由として、「優良な大手企業が少ないから（48.5%）」、「優良な中小企業が少ないから（38.9%）」、「採用に積極的な企業が少ないから（31.7%）」が挙げられる。
- ・ 行政が取り組むべき事業として、「企業誘致による雇用拡大（48.9%）」、「育児・介護休業制度の啓発（41.3%）」、「ブラック企業などへの注意喚起（33.6%）」の順で高い。（ただし、「育児・介護休業制度の啓発」は男女差が大きく、男性30.7%に対し、女性は49.2%であった。）
- ・ 企業が取り組むべき事業として、「給与・ボーナスを増やす（61.5%）」、「正規社員登録の増加（38.9%）」、「雇用機会の拡充（35.8%）」の順で高い。
- ・ なお、「出産後に復職しやすい職場環境づくり（男性：20.3%、女性：38.6%）」、「育児・介護休業制度の導入・拡充（男性：21.3%、女性：38.5%）」については、男性に比べ、女性のポイントが高い。

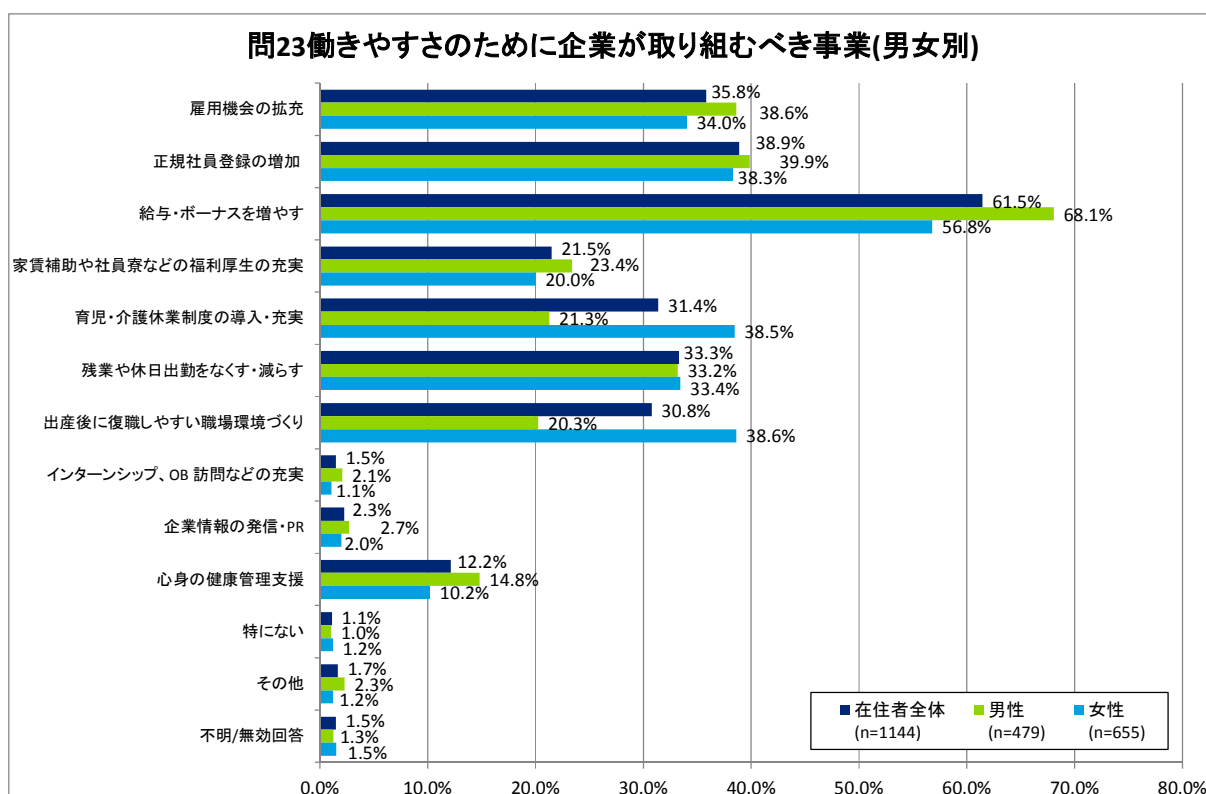
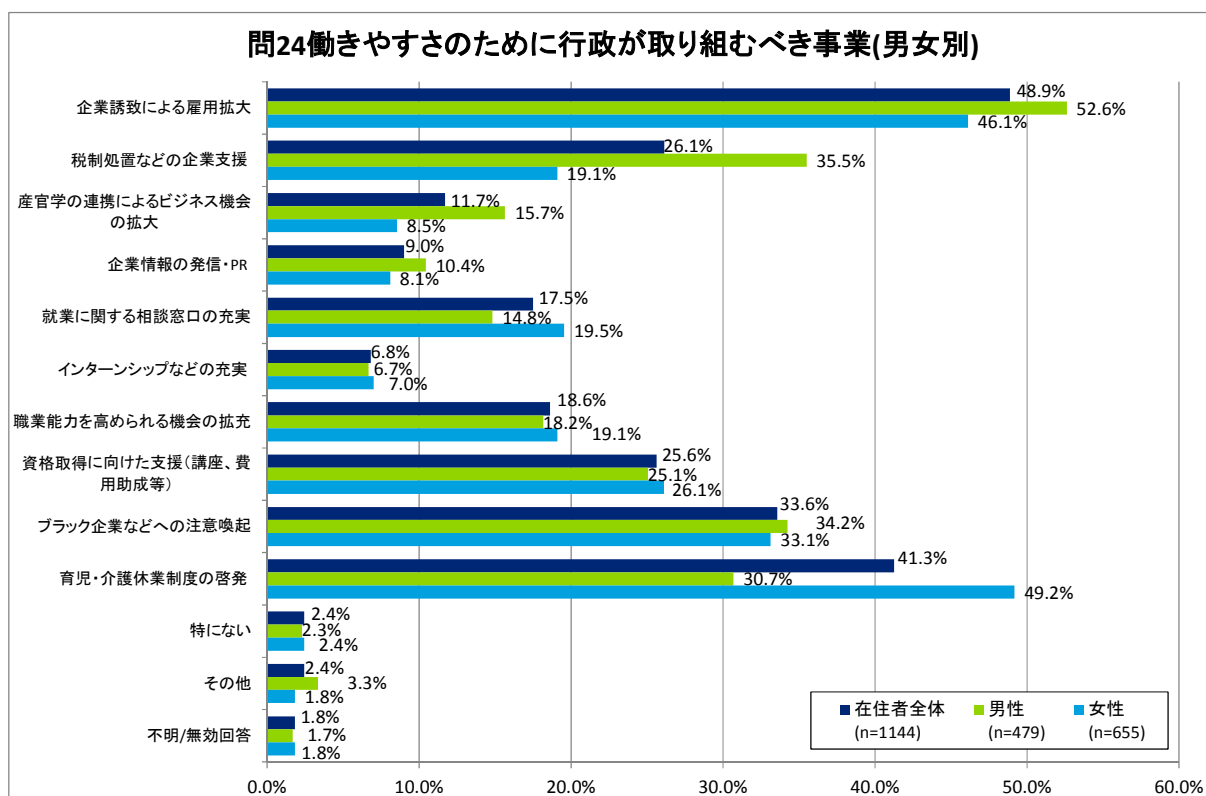


問22-1「新潟市が働く場として魅力的だと思う」理由



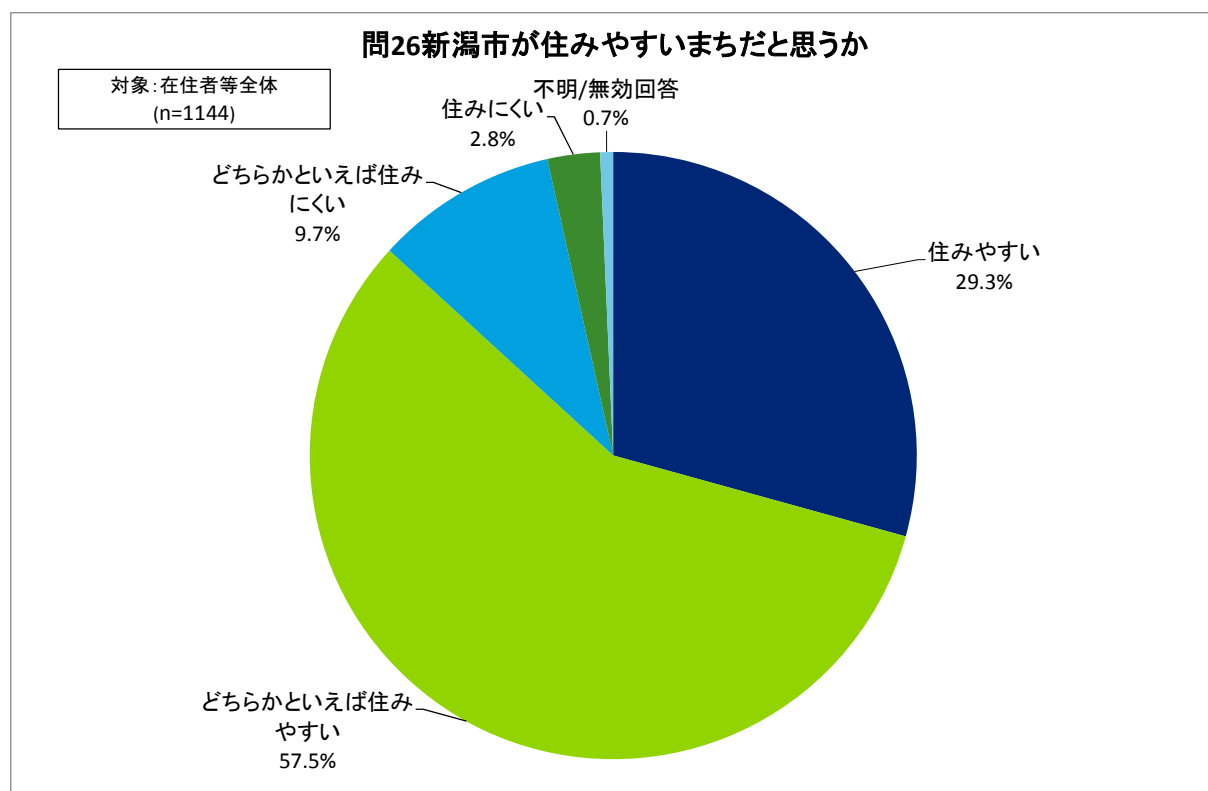
問22-2「新潟市が働く場として魅力的だと思わない」理由

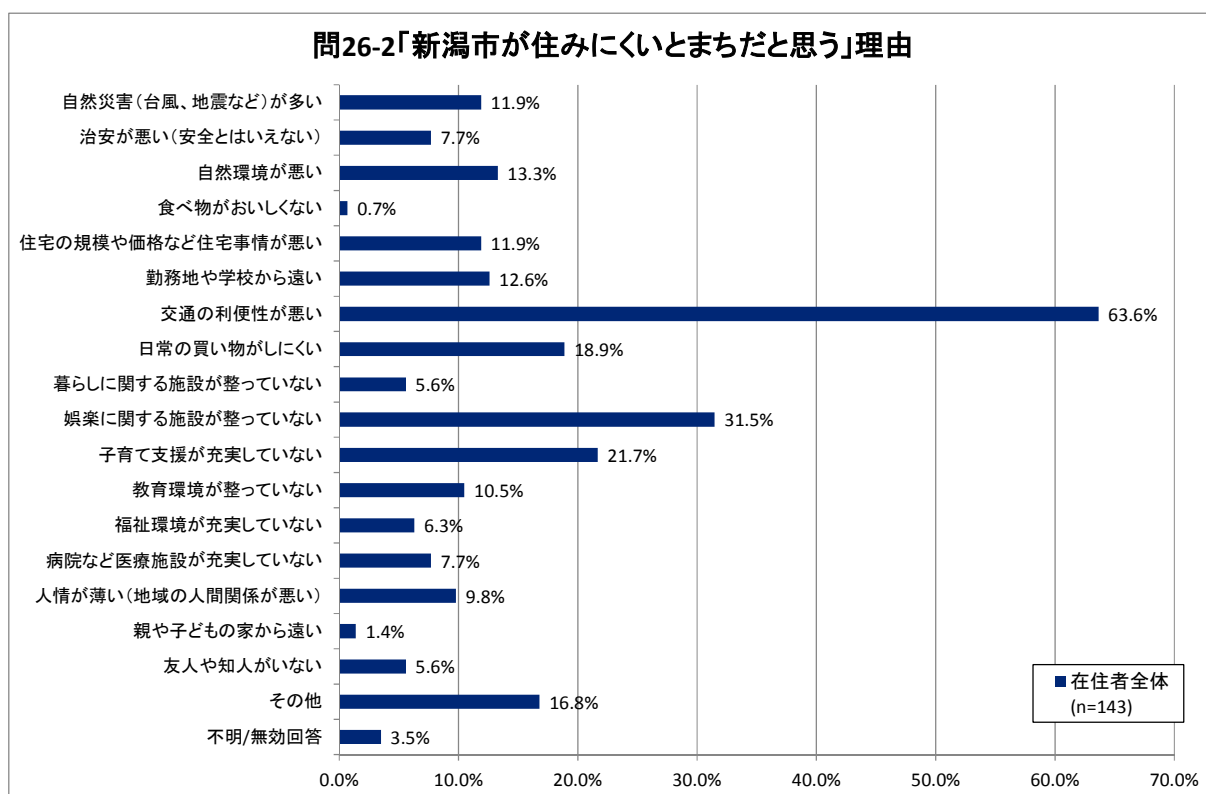
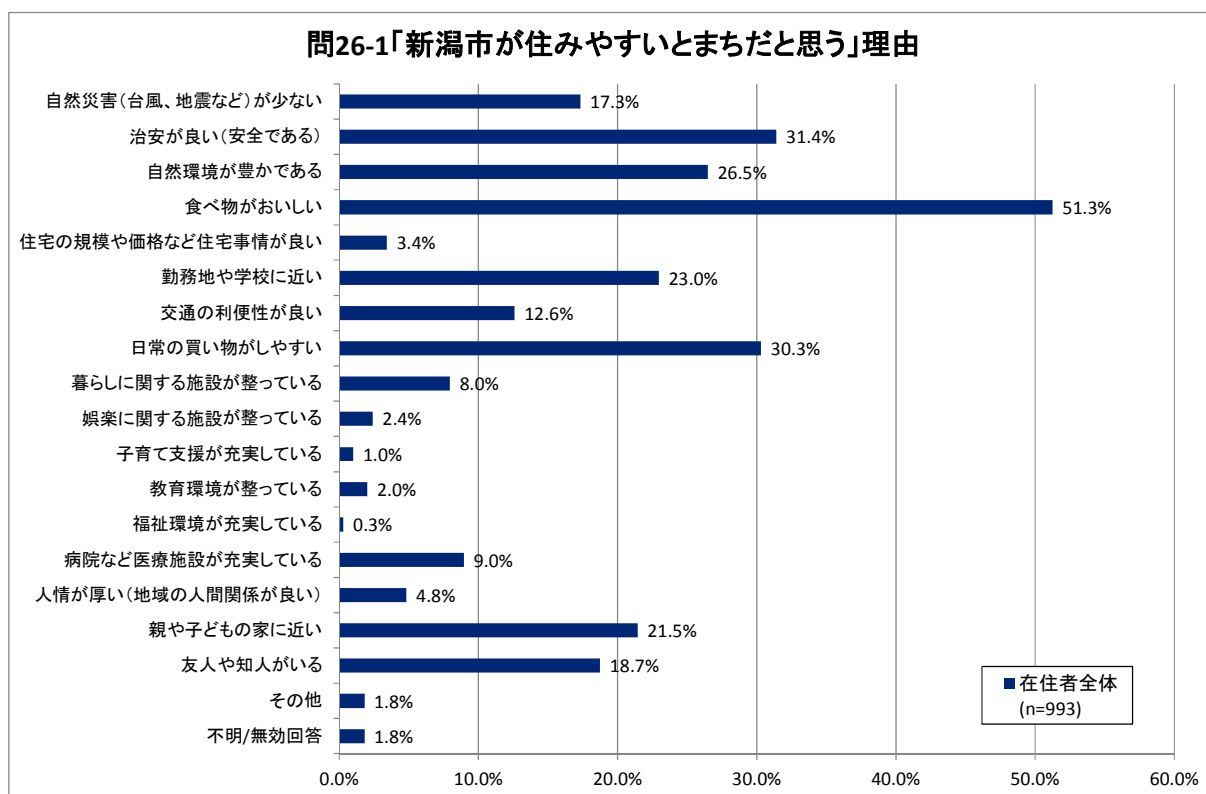


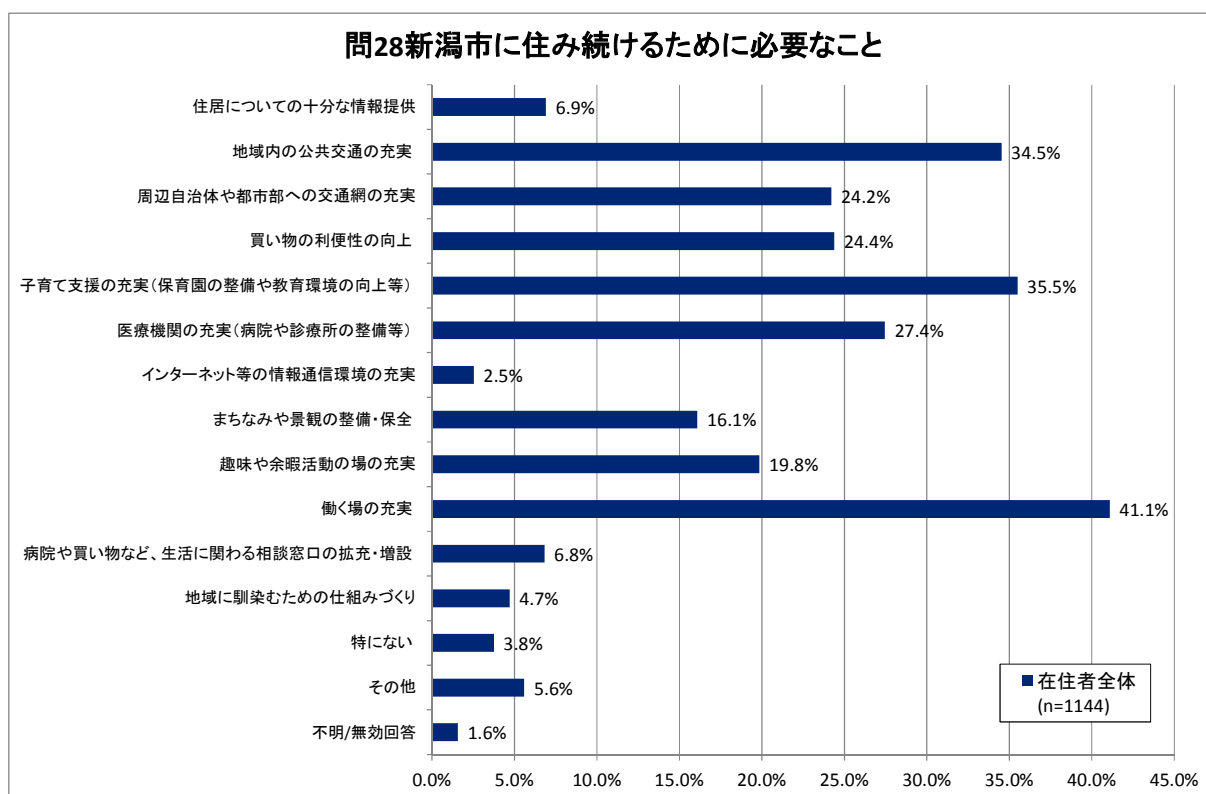
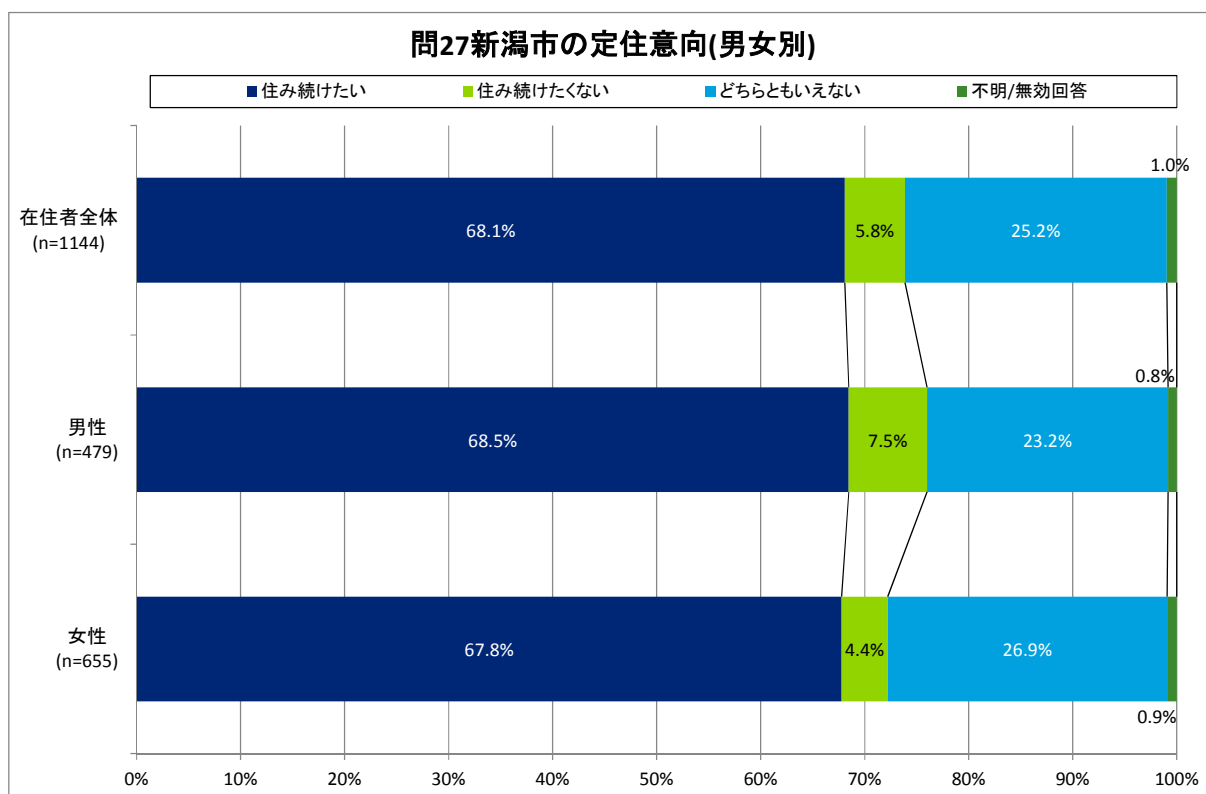


オ 住みやすさについて

- 新潟市が住みやすいまちだと思うかについては、「住みやすい (29.3%)」「どちらかといえば住みやすい (57.5%)」をあわせると、9割弱 (86.8%) が住みやすいと思っていることがわかる。
- 住みやすい理由として、「食べ物がおいしい (51.3%)」、「治安が良い (31.4%)」、「日常の買い物がしやすい (30.3%)」が挙げられる。
- 逆に住みにくい理由として、「交通の利便性が悪い (63.6%)」、「娯楽に関する施設が整っていない (31.5%)」、「子育て支援が充実していない (21.7%)」が挙げられる。
- 新潟市の定住意向については、「住み続けたい (68.1%)」、「住み続けたくない (5.8%)」、「どちらともいえない (25.2%)」となっている。
- 新潟市に住み続けるために必要なこととしては、「働く場の拡充 (41.1%)」、「子育て支援の充実 (35.5%)」、「地域内の公共交通の充実 (34.5%)」の順に高い。



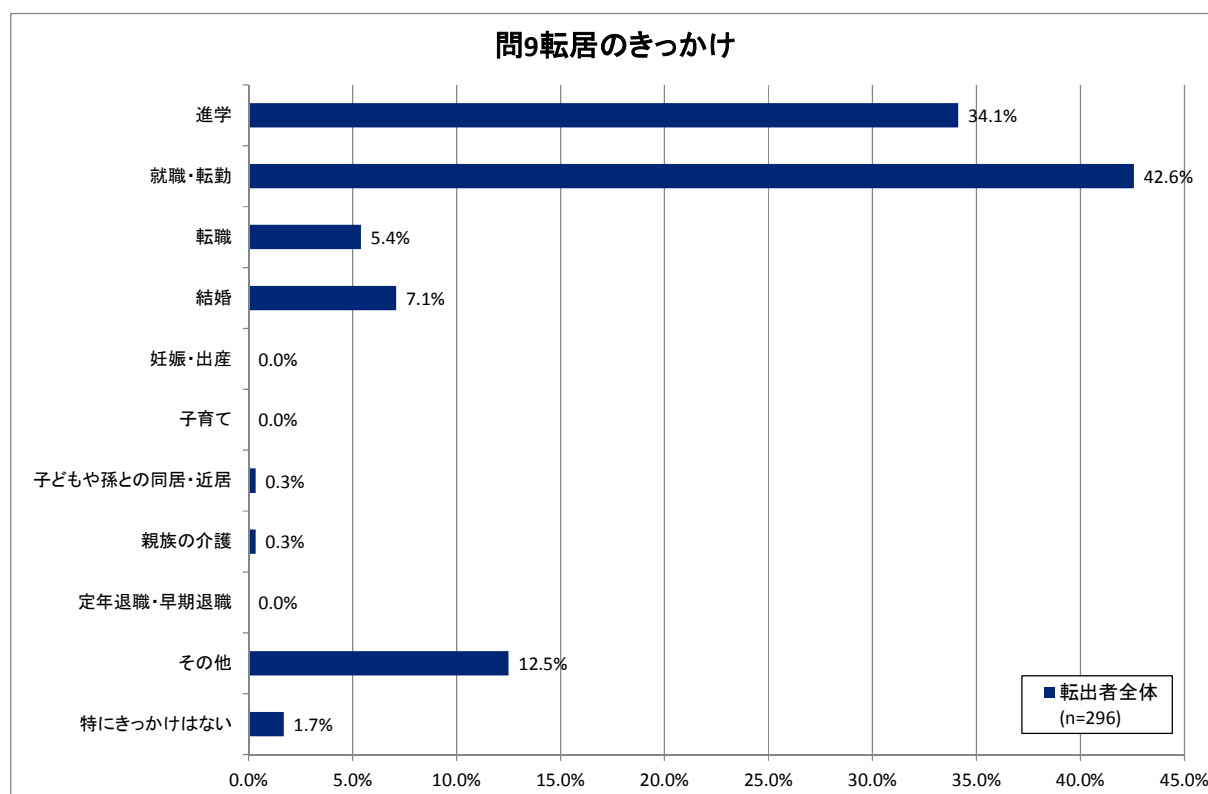




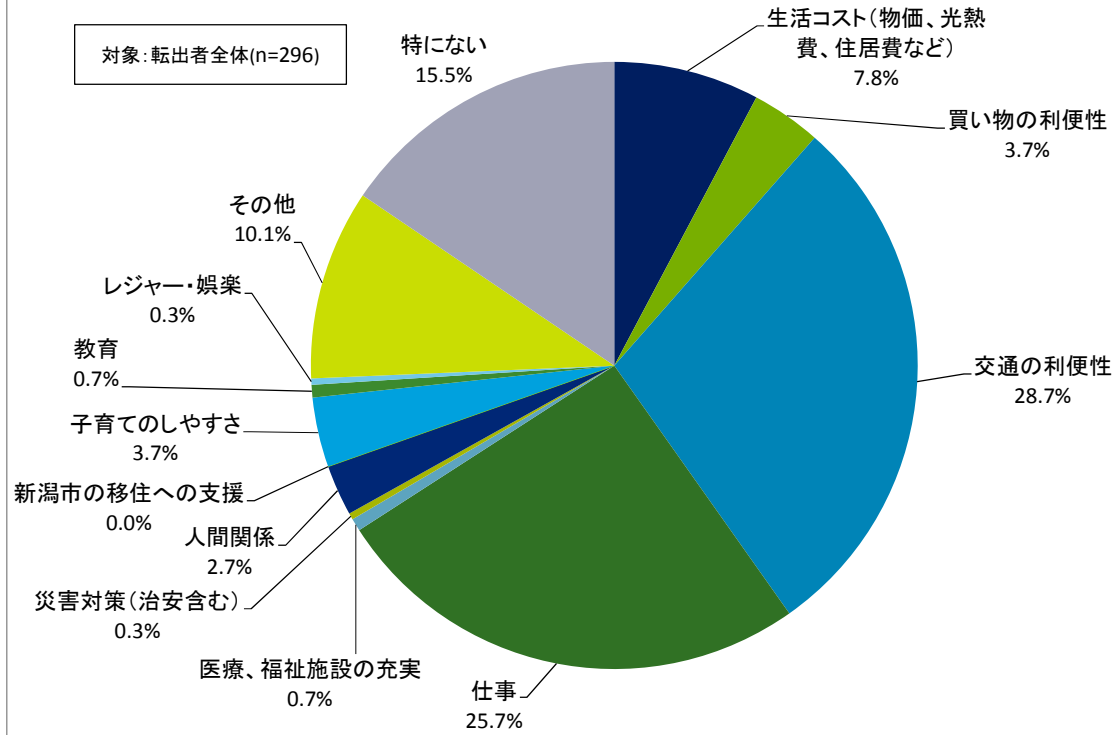
(4) 転出者調査

ア 転出について

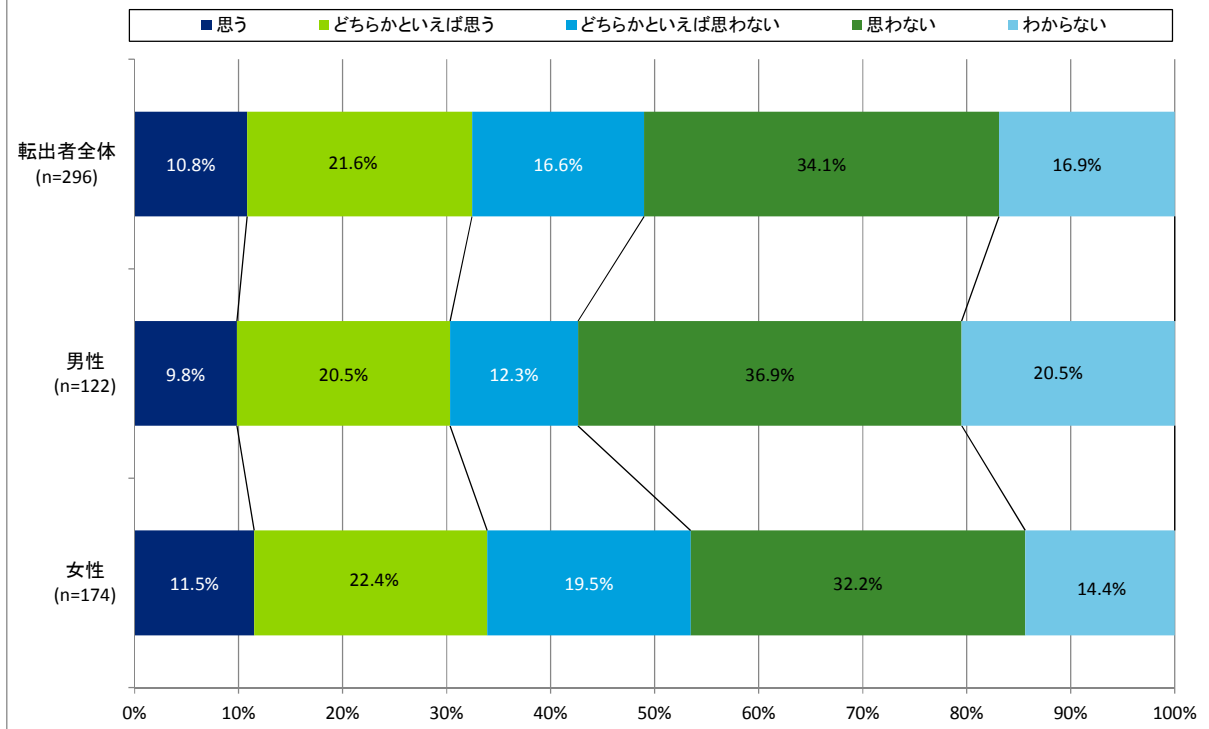
- ・ 転出にきっかけは、「就職・転勤 (42.6%)」、「進学 (34.1%)」、「結婚 (7.1%)」の順に高い。
- ・ 転居先を選んだ理由は、「交通の利便性 (28.7%)」、「仕事 (25.7%)」、「生活コスト (7.8%)」の順で高い。
- ・ 将来の新潟市への UJI ターン意向では、「思う」「どちらかといえば思う」を合わせると 32.4%が UJI ターン意向を示している。
- ・ 新潟市へいずれは戻りたい理由は、「食べ物や水、空気がおいしいから (72.9%)」、「出身地であるから (68.8%)」、「家族・親戚・知人など親しい人がいるから (61.5%)」、「のんびりとした生活を送れるから (52.1%)」の順で高い。
- ・ 新潟市に戻る時期については、「わからない (40.6%)」、「定年退職したとき (14.6%)」、「就職・転職するとき (13.5%)」の順で高い。
- ・ なお、「定年退職したとき (男性：24.3%、女性：8.5%)」、「就職・転職するとき (男性：18.9%、女性：10.2%)」については、女性に比べ、男性のポイントが高い。



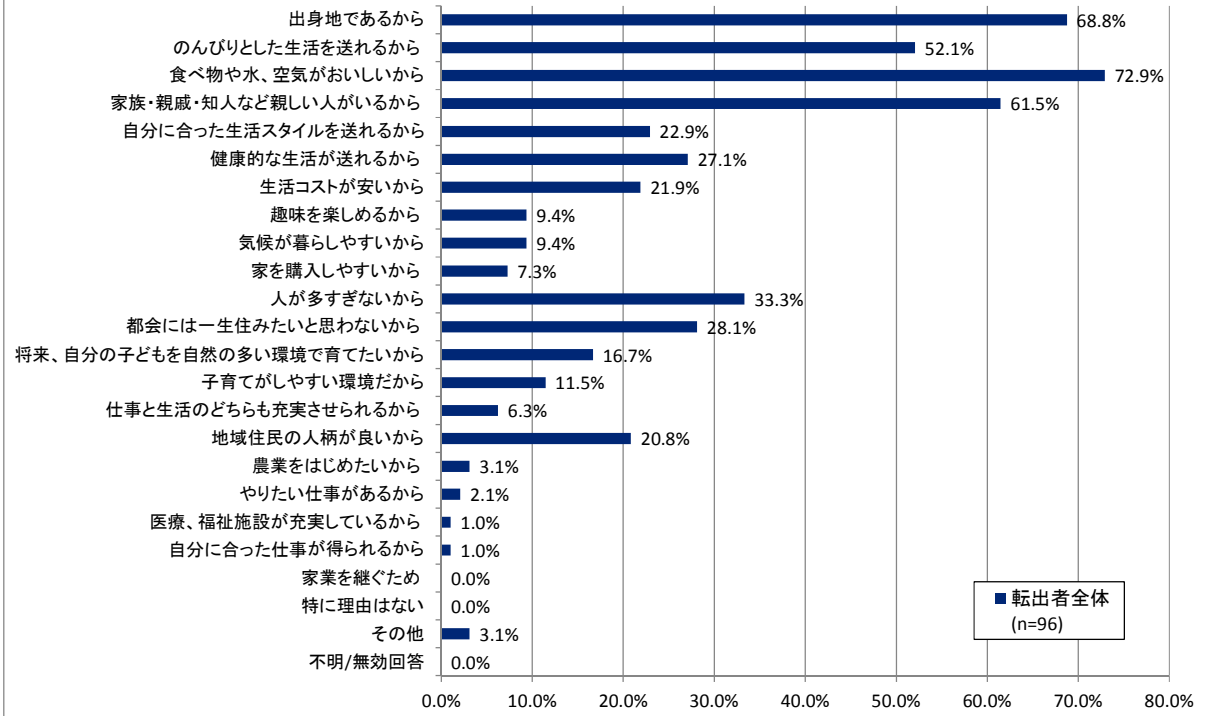
問10転居先を選んだ理由(重視した条件)



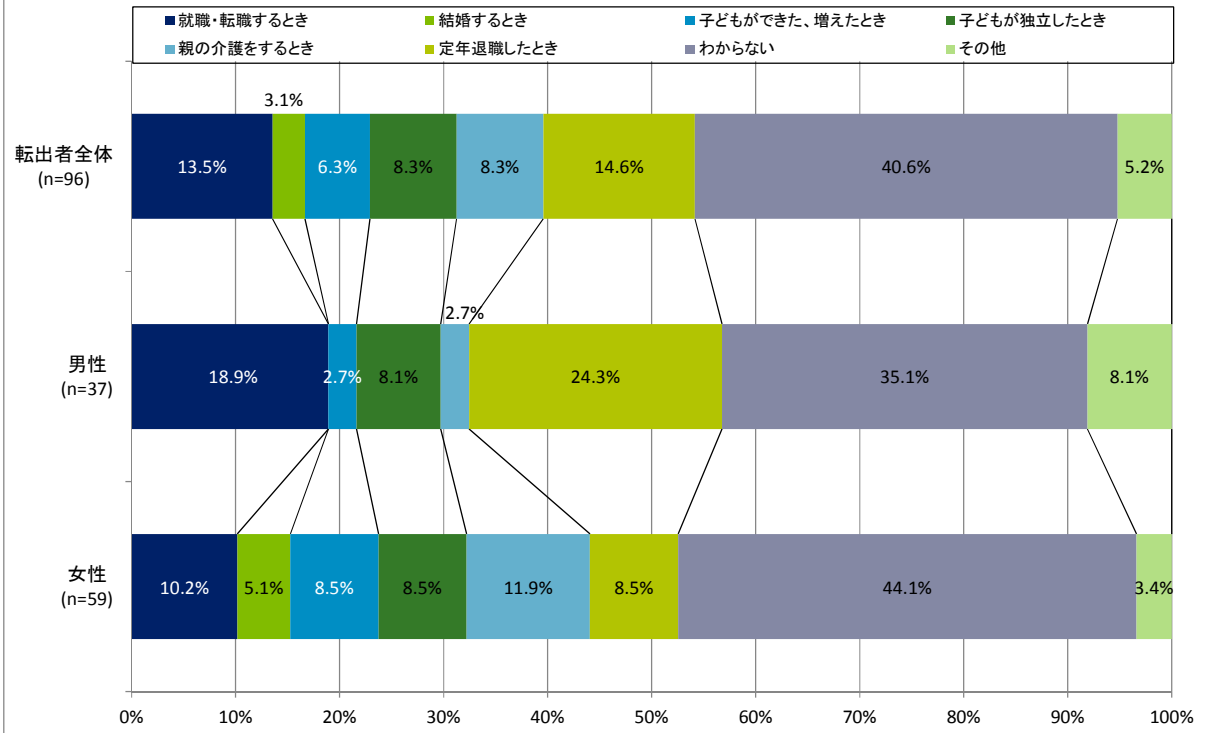
問11将来の新潟市へのUターン意向(男女別)



問11-1 新潟市へいずれは戻りたいという理由

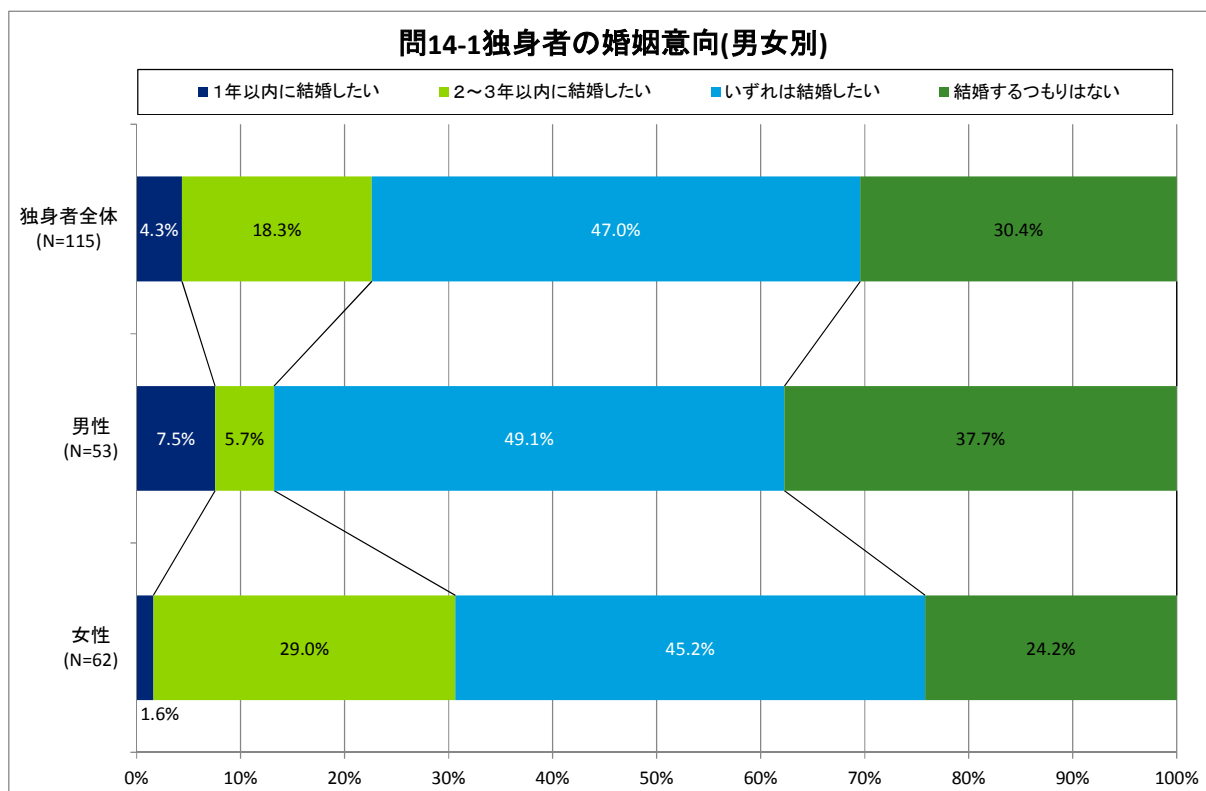


問11-2新潟市に戻る時期(男女別)

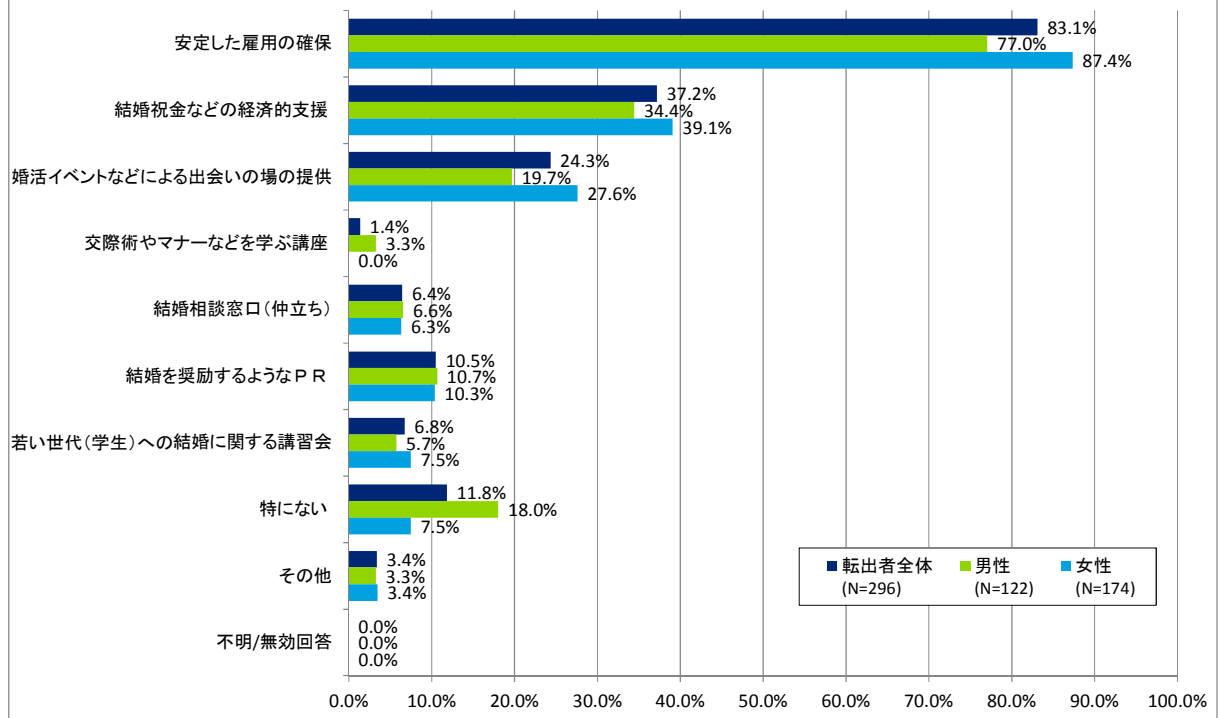


イ 結婚のしやすさについて

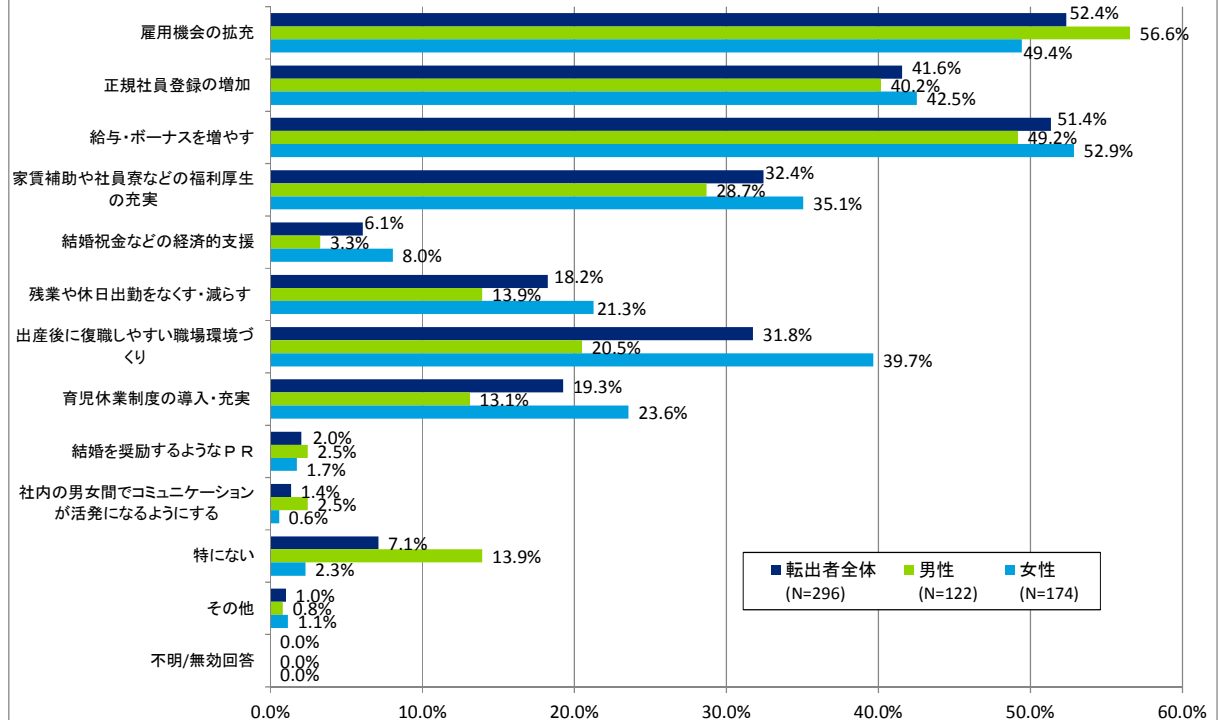
- 独身者の婚姻意向については、「いずれは結婚したい (47.0%)」、「結婚するつもりはない (30.4%)」、「2～3年以内に結婚したい (18.3%)」、「1年以内に結婚したい (4.3%)」の順で高い。
- 男女別にみると、「2～3年以内に結婚したい」については、男性が5.7%であるのに対し、女性は29.0%と高いことがわかる。
- 結婚支援のために行政が取り組むべきことについては、「安定した雇用の確保 (83.1%)」、「結婚祝い金などの経済的支援 (37.2%)」、「婚活イベントなどによる出会いの場の提供 (24.3%)」の順に高い。
- 一方で、企業が取り組むべきことについては、「雇用機会の拡充 (52.4%)」、「給与・ボーナスを増やす (51.4%)」、「正規社員登録の増加 (41.6%)」の順に高い。



問15結婚支援のために行政が取り組むべきこと(男女別)

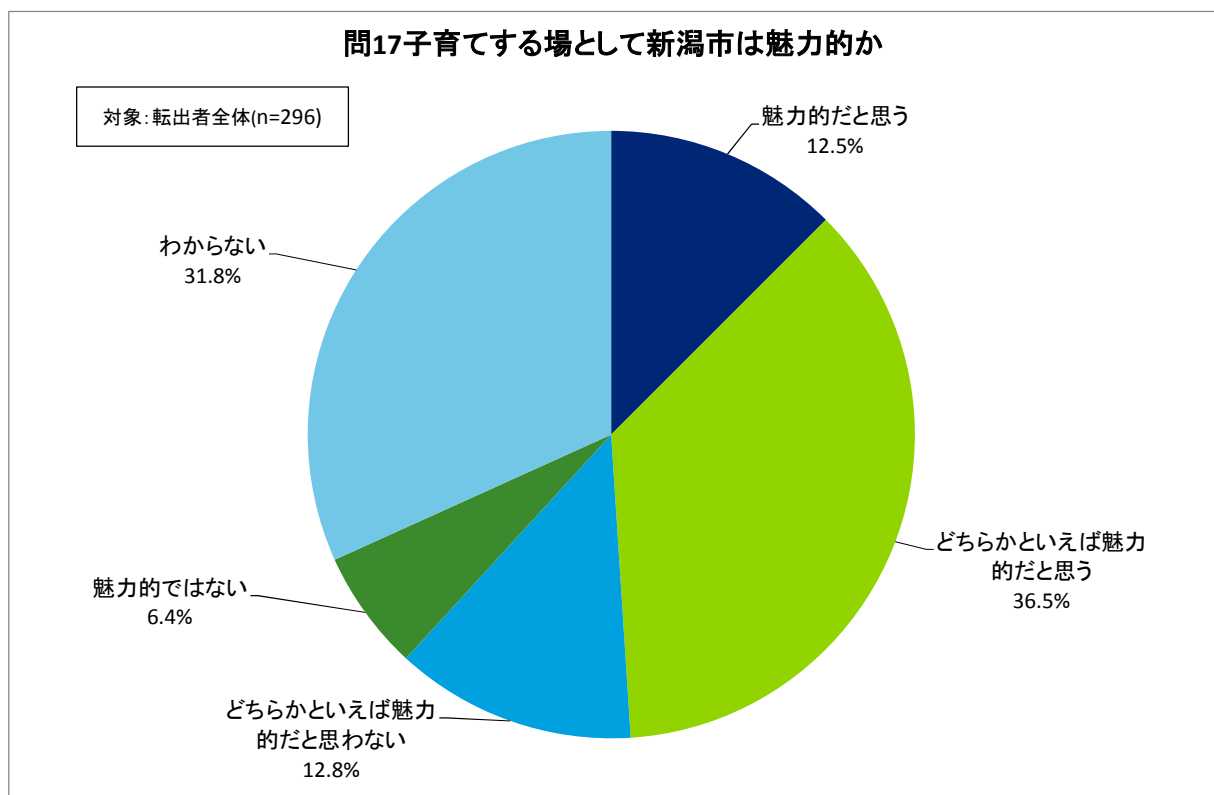


問16結婚支援のために企業が取り組むべきこと(男女別)

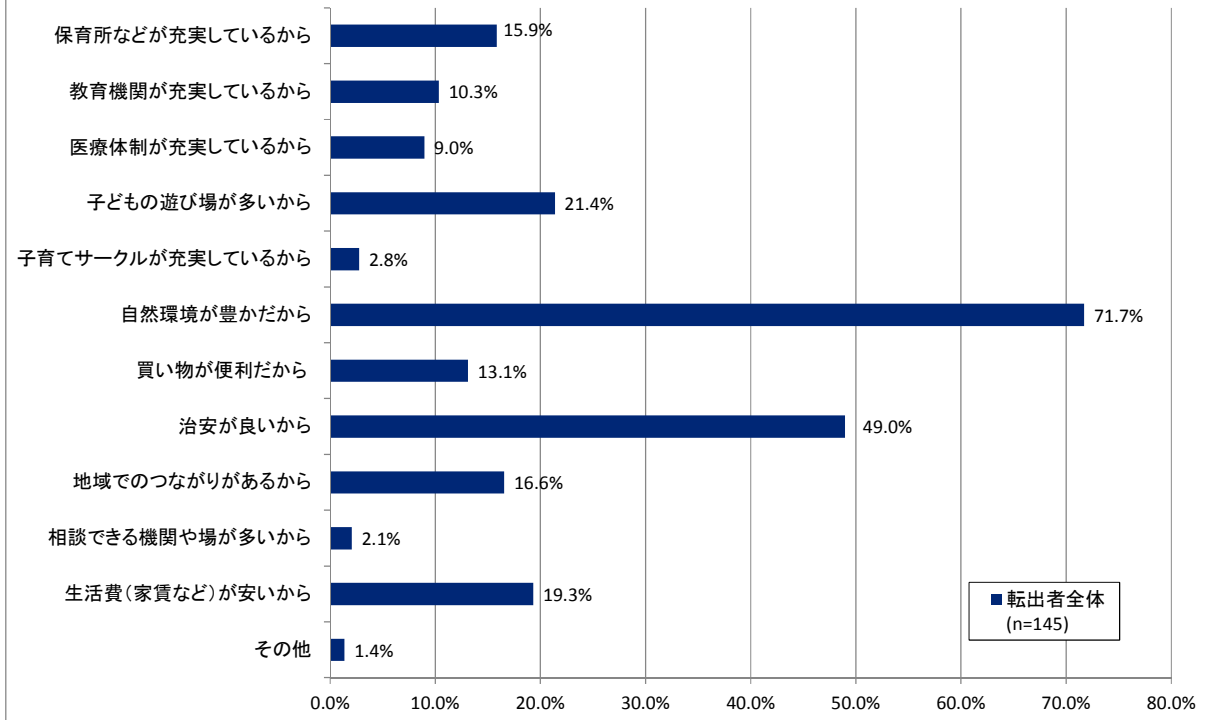


ウ 子育てのしやすさについて

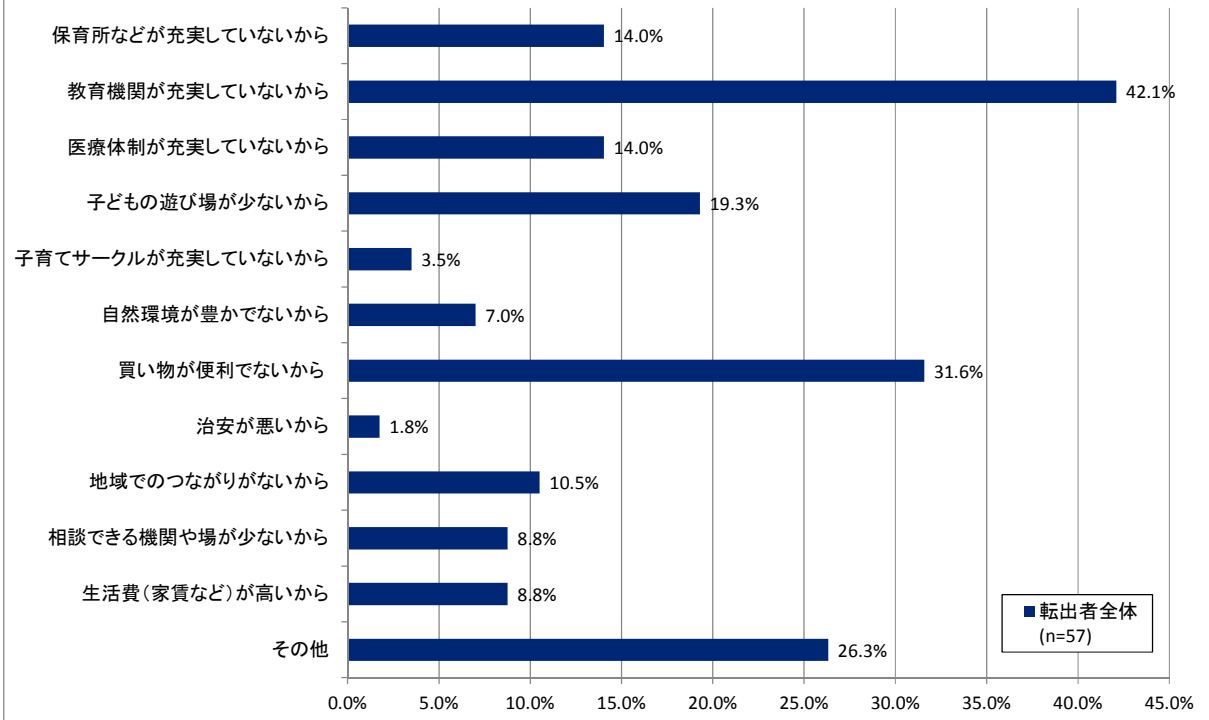
- ・ 子育てする場として新潟市は魅力的かについては、「魅力的だと思う (12.5%)」「どちらかといえば魅力的だと思う (36.5%)」をあわせると、約半数 (49.0%) が魅力的だと思っていることがわかる。
- ・ 魅力的だと思う理由として、「自然環境が豊かだから (71.7%)」、「治安が良いから (49.0%)」、「子どもの遊び場が多いから (21.4%)」が挙げられる。
- ・ 逆に、魅力的だと思わない理由として、「教育機関が充実していないから (42.1%)」、「買い物が便利でないから (31.6%)」、「子どもの遊び場が少ないから (19.3%)」が挙げられる。
- ・ 理想的な子どもの数については、「2人 (52.4%)」、「3人 (23.3%)」、「0人 (15.9%)」、「1人 (7.1%)」、の順となっている。
- ・ 子どもの数が増えるための支援・対策については、「安定した雇用の確保 (65.9%)」、「子育てしやすい職場環境の整備 (32.4%)」、「子育てに伴う経済的負担の軽減 (32.1%)」、の順で高い。



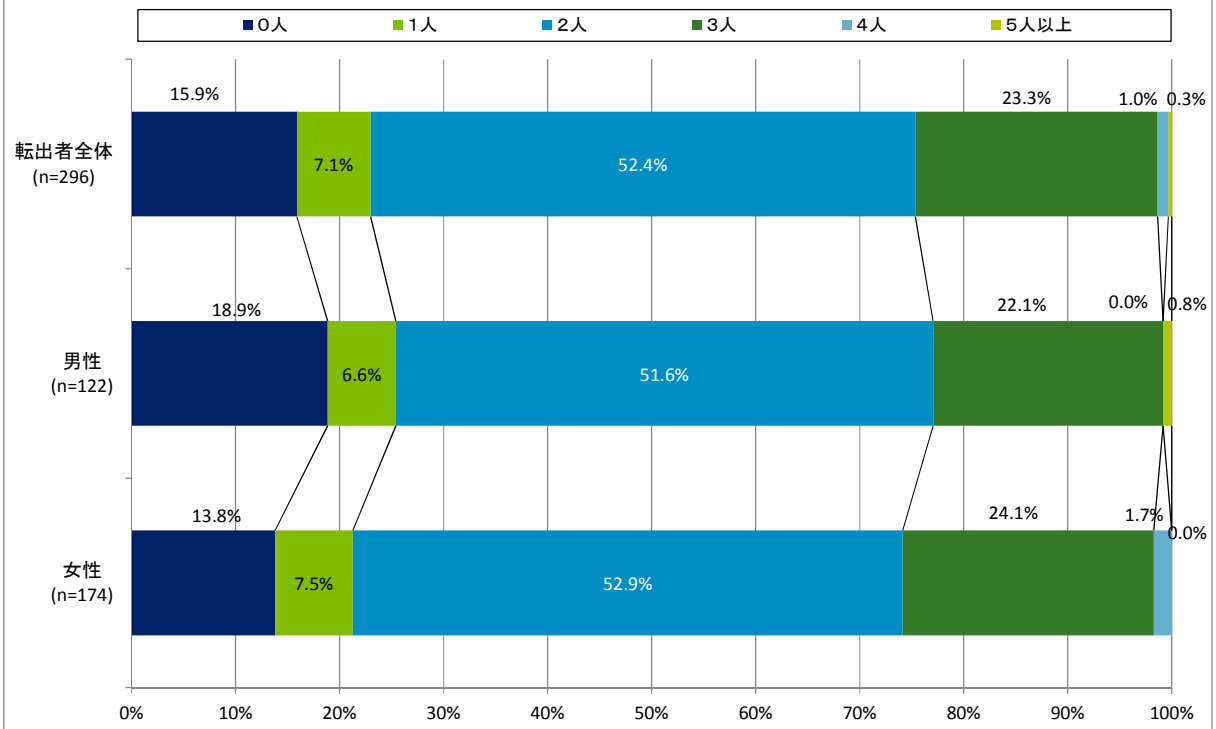
問17-1「新潟市が子育てする場として魅力的だと思う」理由



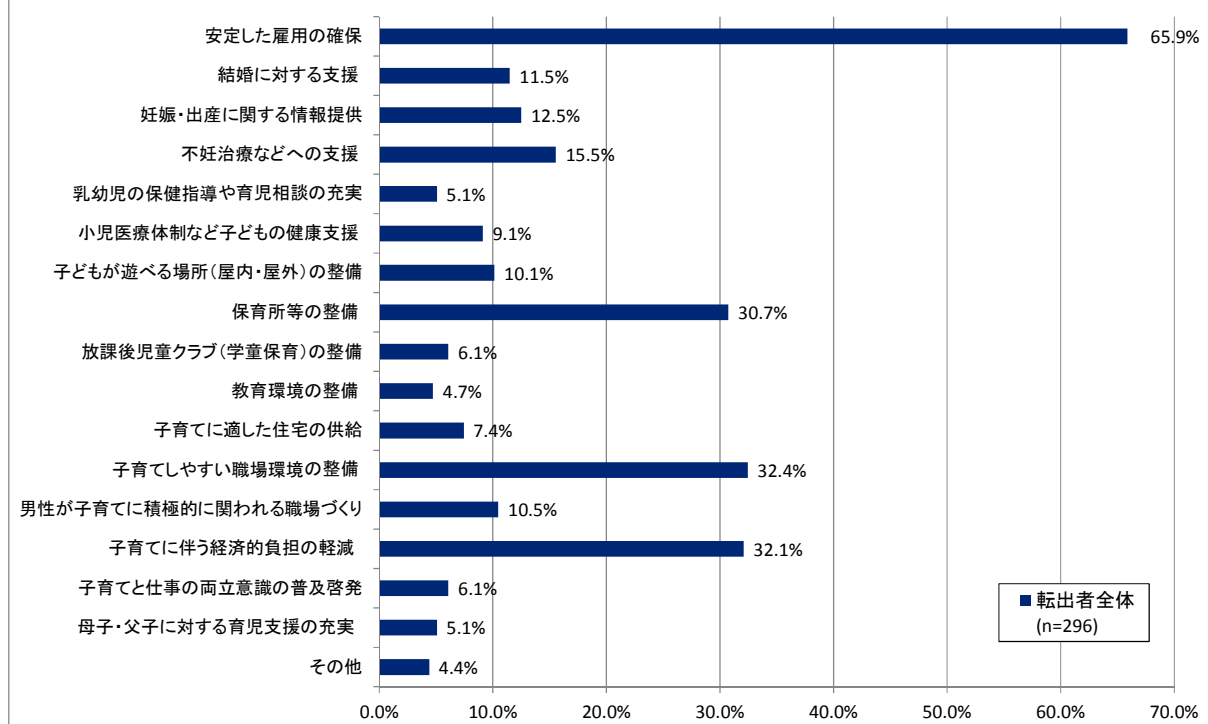
問17-2「新潟市が子育てする場として魅力的だと思わない」理由



問18理想的な子どもの数(男女別)

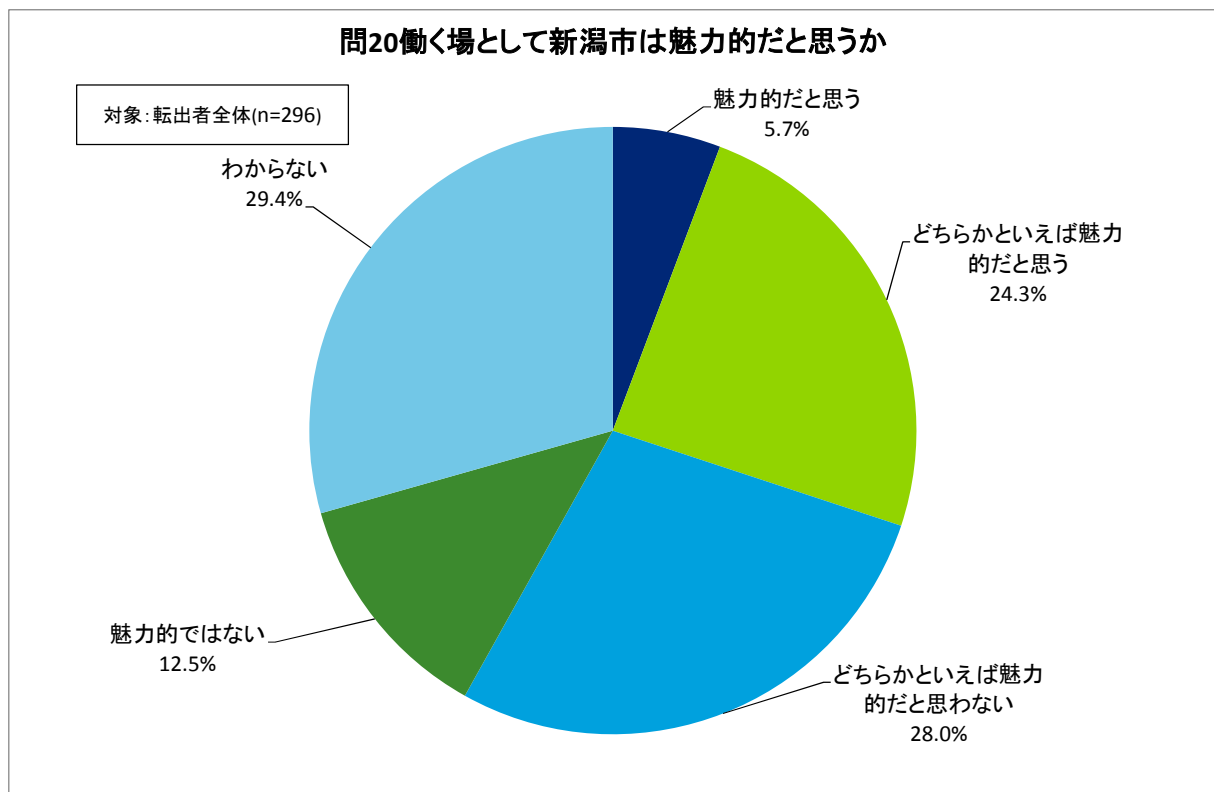


問19子どもの数が増えるための支援・対策

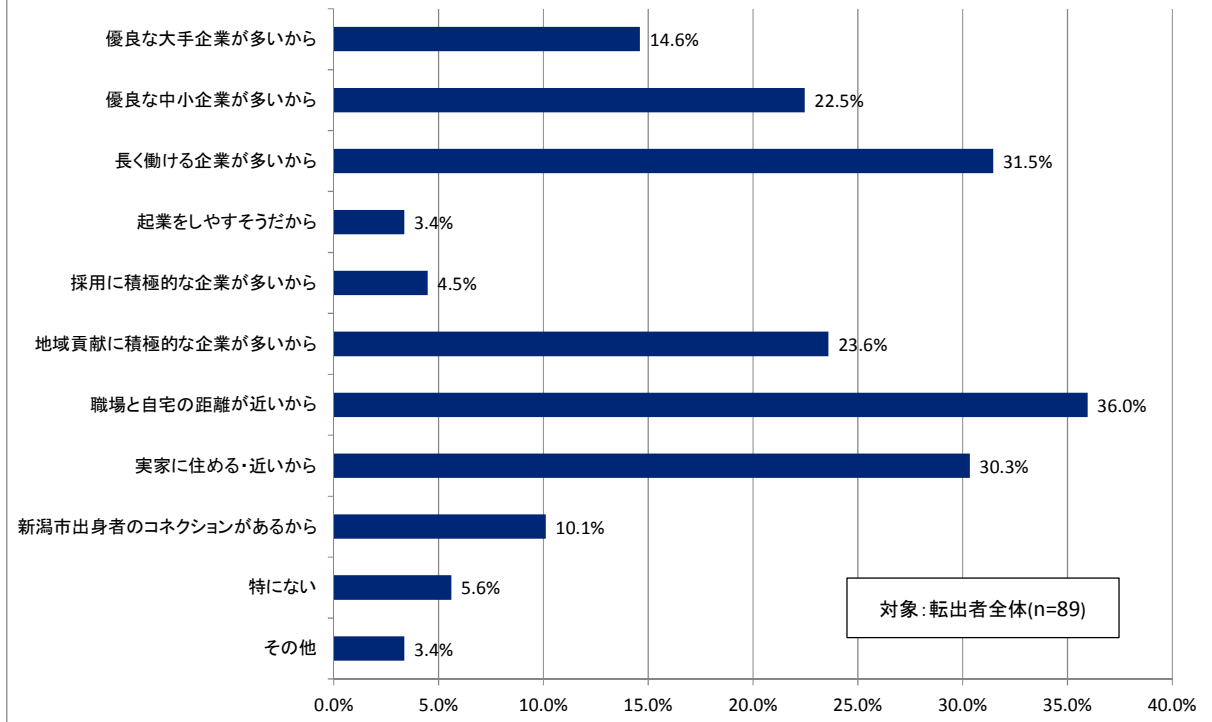


エ 働きやすさについて

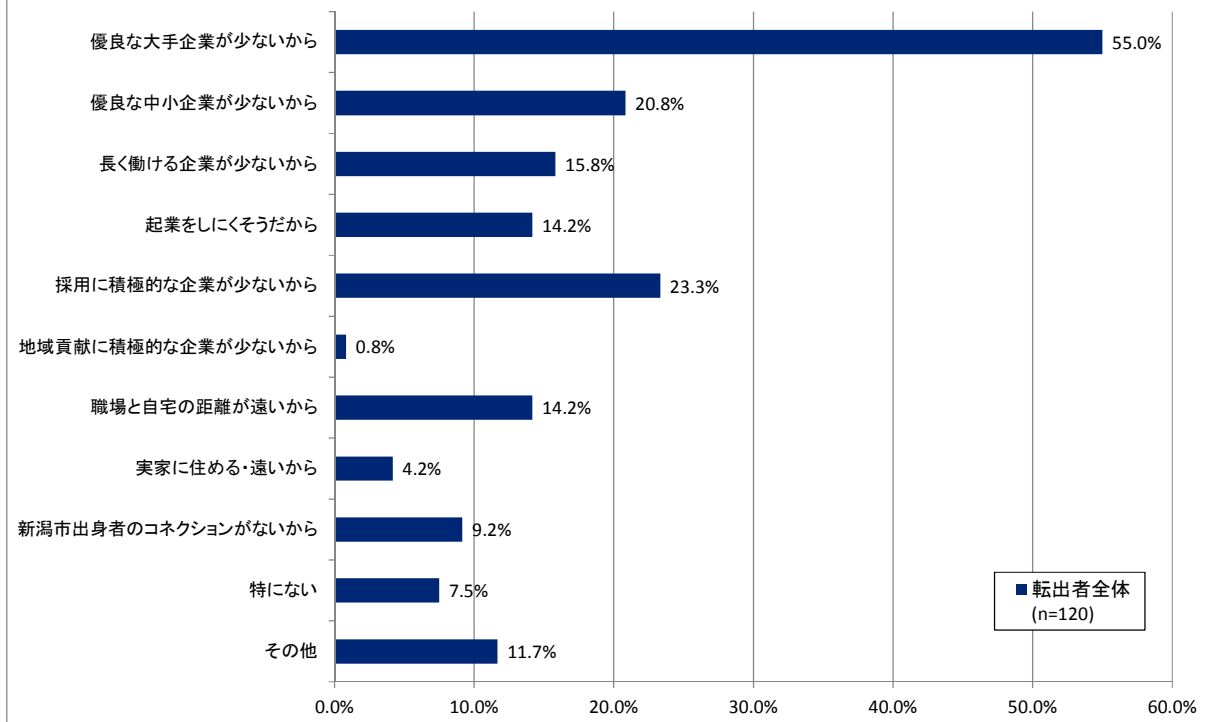
- ・ 働く場として新潟市は魅力的かについては、「魅力的だと思う (5.7%)」「どちらかといえば魅力的だと思う (24.3%)」をあわせると、3割 (30.0%) が魅力的だと思っていることがわかる。
- ・ 魅力的だと思う理由として、「職場と自宅の距離が近いから (36.5%)」、「長く働ける企業が多いから (31.5%)」、「実家に住める・近いから (30.3%)」が挙げられる。
- ・ 逆に、魅力的だと思わない理由として、「優良な大手企業が少ないから (55.0%)」、「採用に積極的な企業が少ないから (23.3%)」、「優良な中小企業が少ないから (20.8%)」が挙げられる。
- ・ 行政が取り組むべき事業として、「企業誘致による雇用拡大 (59.1%)」、「育児・介護休業制度の啓発 (34.5%)」、「ブラック企業などへの注意喚起 (24.3%)」の順で高い。(ただし、「育児・介護休業制度の啓発」は男女差が大きく、男性 21.3%に対し、女性は 43.7%であった。)
- ・ 企業が取り組むべき事業として、「雇用機会の拡充 (56.8%)」、「給与・ボーナスを増やす (53.7%)」、「正規社員登録の増加 (42.9%)」の順で高い。
- ・ なお、「育児・介護休業制度の導入・拡充 (男性：12.3%、女性：37.4%)」、「残業や休日出勤をなくす・減らす (男性：17.2%、女性：28.2%)」、「出産後に復職しやすい職場環境づくり (男性：18.9%、女性：29.9%)」については、男性に比べ、女性のポイントが高い。



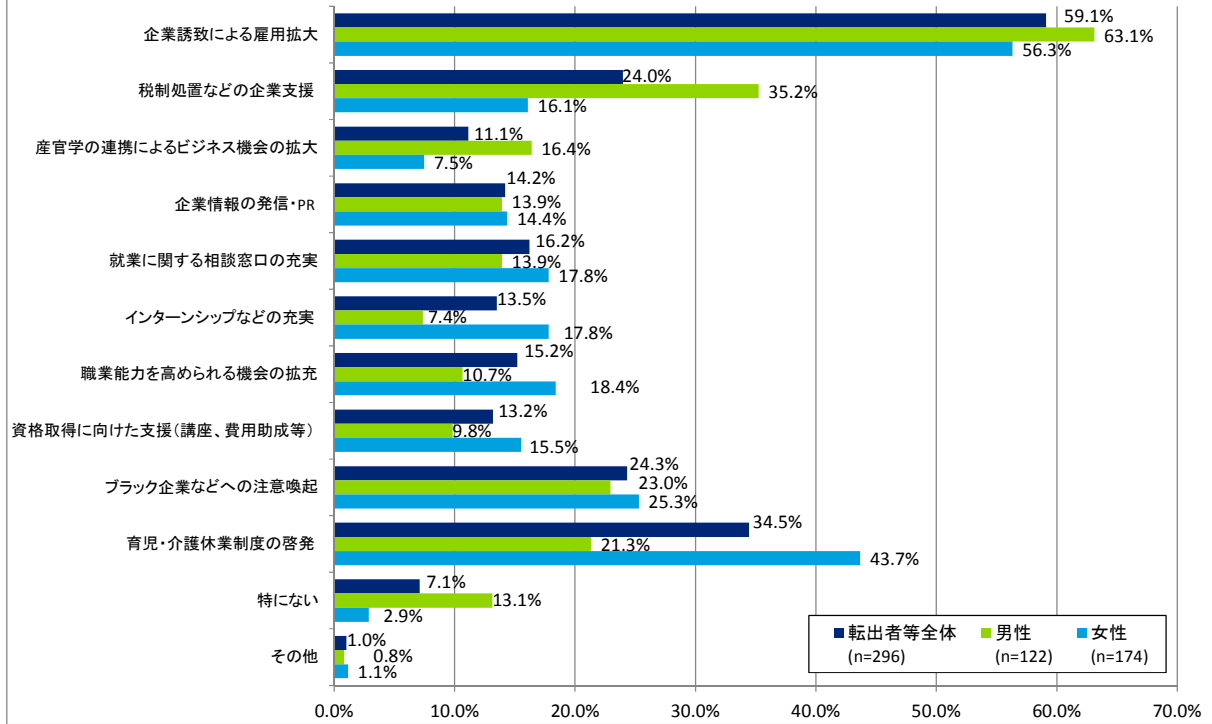
問20-1「新潟市が働く場として魅力的だと思う」理由



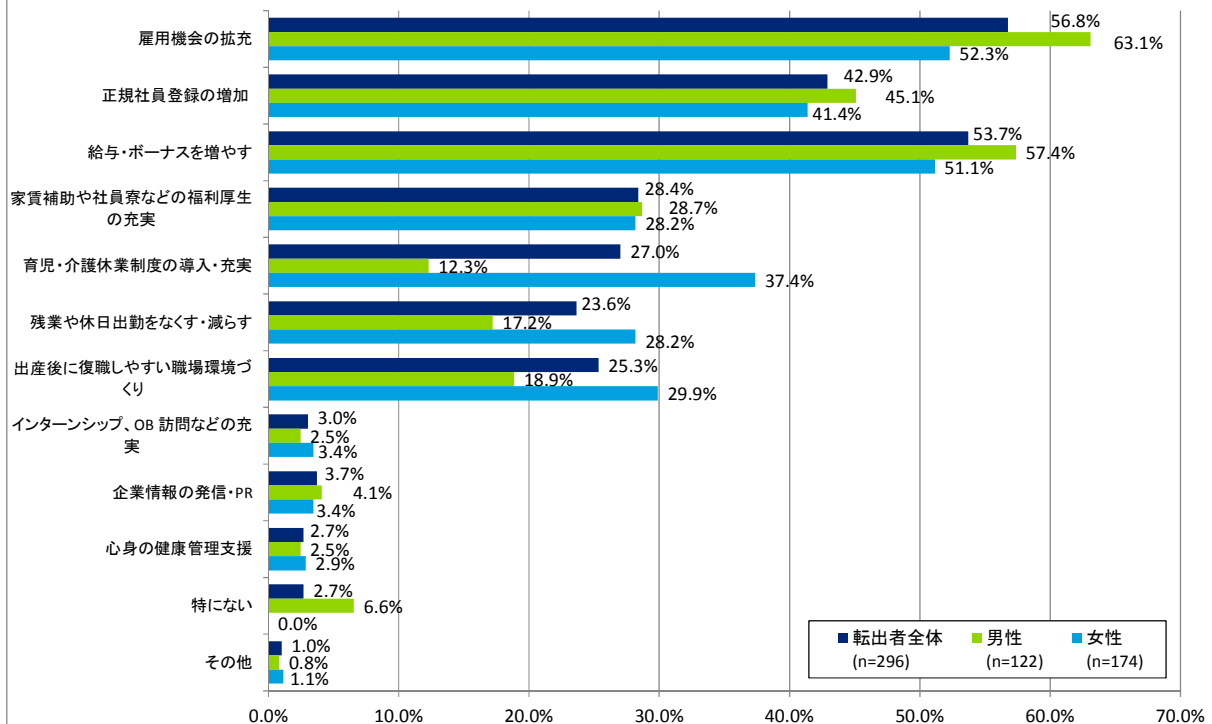
問20-2「新潟市が働く場として魅力的だと思わない」理由



問22働きやすさのために行政が取り組むべき事業(男女別)



問23働きやすさのために企業が取り組むべき事業(男女別)



オ 住みやすさについて

- 新潟市が住みやすいまちだと思うかについては、「住みやすい (21.3%)」「どちらかといえば住みやすい (56.1%)」をあわせると、8割弱 (77.4%) が住みやすいと思っていることがわかる。
- 住みやすい理由として、「食べ物がおいしい (72.9%)」、「自然環境が豊かである (48.5%)」、「治安が良い (37.1%)」が挙げられる。
- 逆に住みにくい理由として、「交通の利便性が悪い (58.2%)」、「自然災害が多い (31.3%)」、「自然環境が悪い (23.9%)」が挙げられる。

